

# 中期目標の達成状況報告書

平成20年6月



# 目 次

## ．法人の特徴

## ．中期目標ごとの自己評価

### 1 教育に関する目標（大項目）

#### （1）中項目1「教育の成果に関する目標」の達成状況分析

##### 小項目の分析

##### 小項目1 . . . . . 1- 1

「[ 学士課程 ] 各学部各分野の教育理念・目標を達成するために、文化創造の基盤となる教養教育を土台とし、専門の基礎的知識や技術を習得させるとともに実践的な力量及び学問的な探求能力の育成を図る。さらに、人類の調和ある発展と福祉に貢献し、地域はもとより国内外において活躍できる高い独創性と豊かな人間性を備えた人材を育成する」の分析

##### 小項目2 . . . . . 1- 65

「[ 大学院課程 ] 学部における基礎的知識及び実社会における実践的能力等の基盤の上に高度の専門的知識とともに優れた研究能力を備え、地域はもとより広く国際的な活動に貢献できる高い教育的資質を持つ人材及び高度な技術者・研究者を育成する。さらには、21世紀COEプログラムの推進により、世界をリードする創造的な人材育成に努める」の分析

##### 中項目1の達成状況並びに 優れた点及び改善を要する点等 . . . . . 1- 87

#### （2）中項目2「教育内容等に関する目標」の達成状況分析

##### 小項目の分析

##### 小項目1 . . . . . 1- 89

「各学部のアドミッション・ポリシーの策定を行い、その学内外への公表と周知を図り、それに相応しい学生受入れのシステムの構築を目指す」の分析

##### 小項目2 . . . . . 1-100

「各研究科のアドミッション・ポリシーの策定を行い、その学内外への公表と周知を図り、それに相応しい学生の受入れのシステムの構築を目指す」の分析

##### 小項目3 . . . . . 1-113

「専門職として実践的な力量を形成するために、地域と大学との協働ネットワークの構築を図るとともに、高度技術者・医療人としての力量形成を目指すカリキュラム・デザインの基本方針を明確にし、併せて、国際化に対応できるカリキュラムの整備を目指す」の分析

##### 小項目4 . . . . . 1-144

「主体的、能動的に学ぶことのできる教育方法の工夫並びに評価を組み入れた教育方法の開発に努め、そのための教育研修を行う」の分析

##### 小項目5 . . . . . 1-165

「学習目標とともに成績の評価基準を明らかにし、厳格かつ一貫性のある成績評価を行う」の分析

##### 中項目2の達成状況並びに 優れた点及び改善を要する点等 . . . . . 1-171

### (3) 中項目3「教育の実施体制等に関する目標」の達成状況分析

#### 小項目の分析

小項目1 . . . . . 1-173

「教育分野の変化を的確に判断し、公正で一貫性のある採用のもとで、適切な人材の登用を目指すとともに、業績と能力に配慮して、適材適所の配置を目指す」の分析

小項目2 . . . . . 1-184

「学生及び大学院生が高い満足度が得られるように教育環境を整備する」の分析

小項目3 . . . . . 1-201

「教育の質を向上させるために、教員個々人の教育業績及び共同の教育プログラムを評価するシステムを整備する。また、あらゆる教職員に対して職能向上の研修機会を提供し、その成果が実践に役立つ手段を講ずる」の分析

中項目3の達成状況並びに 優れた点及び改善を要する点等 . . . . . 1-228

### (4) 中項目4「学生への支援に関する目標」の達成状況分析

#### 小項目の分析

小項目1 . . . . . 1-230

「全ての学生が積極的かつ意欲的に学習活動を展開できるように、学習支援体制の整備、充実を図る」の分析

小項目2 . . . . . 1-247

「社会人や留学生を含めて、全学生が心身ともに健康で充実した学生生活を送れるように、学生相談や経済的支援の体制を強化する」の分析

小項目3 . . . . . 1-263

「学生が将来を見通し意欲的に学生生活を送れるように、就職支援や進路相談の体制を強化する」の分析

中項目4の達成状況並びに 優れた点及び改善を要する点等 . . . . . 1-279

## 2 研究に関する目標(大項目)

### (1) 中項目1「研究水準及び研究の成果等に関する目標」の達成状況分析

#### 小項目の分析

小項目1 . . . . . 2- 2

「科学の発展に寄与する質の高い基礎研究を推進する」の分析

小項目2 . . . . . 2- 10

「国際社会、地域社会へ貢献できる知的成果を探究し、広く国内外の社会に発信できる知的拠点を形成する」の分析

小項目3 . . . . . 2- 29

「基礎研究と応用研究のバランスをとりながら、人類の知的財産の獲得と福祉の向上に貢献する高水準の研究を目指す」の分析

小項目4 . . . . . 2- 45

「21世紀COEプログラムに基づく世界最高水準の研究を目指す」の分析

小項目5 . . . . . 2- 56

「地域に根ざした新しい総合的、実践的な共同研究を目指す」の分析

小項目6 . . . . . 2- 78

「本学の立地，歴史，特色等から目指すべき研究の方向性と全学的に取り組むべき重点研究領域を明確にし，強力に推進する」の分析	
小項目 7	2- 82
「研究の水準・成果を的確に評価・フィードバックして研究の質の向上を図る」の分析	
中項目 1 の達成状況並びに 優れた点及び改善を要する点等	2- 85
( 2 ) 中項目 2 「研究実施体制等の整備に関する目標」の達成状況分析	
小項目の分析	
小項目 1	2- 87
「学術研究の動向や社会のニーズ等に応じて，研究組織の柔軟な編成や学内外の研究組織・機関との連携・協力を図るとともに，研究目標の達成に向け，研究者の弾力的な配置を図る」の分析	
小項目 2	2-128
「研究活性化のために，重点的な資源配分，流動的な研究施設の利用を図り，研究環境を整備する」の分析	
小項目 3	2-167
「研究業績等に基づく学内の評価システムを検討し，評価結果を研究体制の整備等に反映させる」の分析	
小項目 4	2-180
「21 世紀 C O E プログラムに基づく世界的な研究教育拠点形成に向けた体制整備を図る」の分析	
中項目 2 の達成状況並びに 優れた点及び改善を要する点等	2-189
3 社会との連携，国際交流等に関する目標（大項目）	
( 1 ) 中項目 1 「社会との連携，国際交流等に関する目標」の達成状況分析	
小項目の分析	
小項目 1	3- 1
「高度な知的拠点として，大学（附属学校園を含む）の有する教育・研究機能をもって地域社会の教育，文化，経済，産業等の発展に貢献する」の分析	
小項目 2	3- 86
「国際交流と協力事業を推進し，国際的に活躍できる人材の育成を図るとともに，共同研究等を通じて，国際貢献を目指す」の分析	
中項目 1 の達成状況並びに 優れた点及び改善を要する点等	3-127

[ 添付資料 ]

重点的に取り組む領域説明書（ 表 ）



## 法人の特徴

### 福井大学の基本的な目標（抜粋）

創設の理念及び地域の特性を踏まえ、地域や国際社会にも貢献し得る人材を育成するとともに、基礎研究を重視しつつ、高エネルギー医学、遠赤外領域、原子力の安全分野での世界的水準の研究を始めとした独創的な研究及び高度な先端的医療を実践することによって、地域はもとより国及び国際的にも貢献し得ることを目標とする。

福井大学は、平成15年10月に旧福井大学と旧福井医科大学が統合してできた新生の大学である。基本的な教育研究組織は、教育地域科学部、医学部及び工学部の3学部とこれを基礎とする大学院の教育学研究科、医学系研究科及び工学研究科からなり、全体を通じて実践的な教育と特色ある研究を行い、高度専門職業人及び研究者を育成している。

キャンパスは2ヶ所にわたり、学生総数は約5,000人、卒業生・修了生の約3割が教員、医師・看護師、エンジニア等として福井県に定着し、地域の活性化に貢献している。

また、原子力発電所の多い福井県の地域特性を踏まえた放射線の医学利用を目的に設置した高エネルギー医学研究センターや、遠赤外領域開発研究センターでは、世界最高水準の研究が行われるとともに、大学統合のメリットを活かすべく設置した生命科学複合研究教育センターでは、学部等を越えて生命科学及び関連分野の研究教育を行っている。

さらに、本学では産学官の連携による教育研究活動を推進し、大学病院での医療活動も含め、大学の有する知的資源を積極的に地域に還元することにより、地域の知の拠点として大きな役割を果たしている。

### 1. 各学部・大学院研究科の特色

#### (1) 教育地域科学部・教育学研究科

教育地域科学部の教育課程には、学校教育課程、地域文化課程・地域社会課程を置く。学校教育課程では、全国で最も地域と連携した教員養成を実践しており、学生達が不登校児の家庭等に出向き、学習の援助者となる「ライフパートナー活動」、子供の主体的な学習活動を援助する「探求ネットワーク」等の実践的教員養成教育が福井大学方式として全国的な評価を得ている。地域文化課程・地域社会課程（平成20年度に地域科学課程に統合）では、地域社会の諸課題に地域とともに取り組む能力と専門知識を有する人材を育成している。

大学院教育学研究科には、学校教育専攻・障害児教育専攻・教科教育専攻の3専攻を置き、実践と研究を融合する「協働実践研究プロジェクト」等の方法による教育研究を行っている。特に、学校教育専攻において培われてきた、地域の学校を拠点とし、学校が抱える課題に教員と研究者が協働して実践的な学校改革を行うスタイルは、平成20年度の教職大学院設置に結実した。

#### (2) 医学部・医学系研究科

医学部は、医学科及び看護学科からなり、県内唯一の特定機能病院である医学部附属病院を併設している。学部教育では、本邦における中心的な医学・看護学教育内容等に準拠した教育課程の整備、課題探求・問題解決型のチュートリアル教育の導入、医療現場で使える英語力の涵養等を図り、看護学科では潜在看護師の職場復帰にも貢献している。

医学系研究科博士課程では、平成15年度採択の21世紀COEプログラム「生体画像医学の統合研究プログラム」を推進し、大学院をより実質化するため平成20年度

に4専攻を2専攻に改組する。また、医学系研究科では、がんの克服という国民的課題に対応するため、がん専門医及びがん専門看護師を養成するための教育課程を設置した。

### (3) 工学部・工学研究科

工学部は、日本海側最大規模を誇る8学科からなり、学生が課題に主体的に取り組む創成型教育を実践するとともに、意欲的な学生を対象とした「学際実験・実習」を設け、地域と連携した教育実施体制を確立している。また、近年、環境面からも重視される原子力関連の大学院教育の基礎教育を学部で担うため、副専攻コースの設置準備を進めている。

大学院は、2独立専攻を含む博士前期10専攻、博士後期4専攻からなり、附属の繊維工業研究センターを置く。教育面では、大学院生各自のカリキュラムのオーダーメイド化、特別教育研究経費の支援を受けた創業型実践大学院工学教育による技術者経営マネジメントカリキュラム、派遣型高度人材育成共同プラン採択の長期インターンシップ等を取り入れている。

## 2. 特色ある教育活動と学生支援

文部科学省の大学改革支援プログラムについて、平成15年度～19年度において全学で9件（共同事業1件を除く）のテーマが採択されている。これは、教員一人当たりの採択率で比較した場合、総合的な地方国立大学中1位となり、本学の教育が特色ある優れたものであることを示している。

また、学生への支援では、相談窓口を一本化した「何でも相談室」の設置、保健管理センターの機能充実等、支援機能を強化している。

## 3. 特色ある研究活動とその推進施策

(1) 21世紀COEプログラムに基づく世界最高水準の研究教育拠点形成と本学の基本的な目標等に則って設定した独創的かつ特色ある11の研究推進を目標に掲げ、学長のリーダーシップの下、重点配分経費の措置や全国に先駆けたポイント制の導入等によりこれを支援し、顕著な研究成果を挙げている。

(2) 大学院工学研究科に、ファイバーアメニティ工学専攻、原子力・エネルギー安全工学専攻（博士前期・後期）及び附属繊維工業研究センターを設置し、地域特性を踏まえた研究を推進している。また、学内共同教育研究施設である高エネルギー医学研究センター及び遠赤外領域開発研究センターでは、各国の大学と連携し世界最高水準の研究を推進し、近年では、福井県と国の施策を受け、世界トップレベルでの原子力人材育成と研究開発を目指し、日本原子力研究開発機構や他大学と連携した国際原子力工学研究所（仮称）の設立準備を進めている。

## 4. 地域社会との連携

地域と協働した教育の実施、社会人への教育機会の提供、地方自治体・地域の諸機関との連携事業の実施、地域への医療支援、地域貢献推進センターの設置等、様々な取組により地域との連携を強化している。

また、民間企業等との産学官連携については、平成19年度に旧来の機構体制を産学官連携本部に改めワンストップサービス体制を構築、各種イベントの開催、学外専門家の登用、研究シーズ情報の発信等による技術移転や共同研究の増加を図り、また、企業との包括連携協定締結（13機関）による研究者・技術者の育成等にも大きく貢献している。



## 大項目 1

# 教育に関する目標



## 中期目標ごとの自己評価

### 1 教育に関する目標(大項目)

#### (1) 中項目1「教育の成果に関する目標」の達成状況分析

##### 小項目の分析

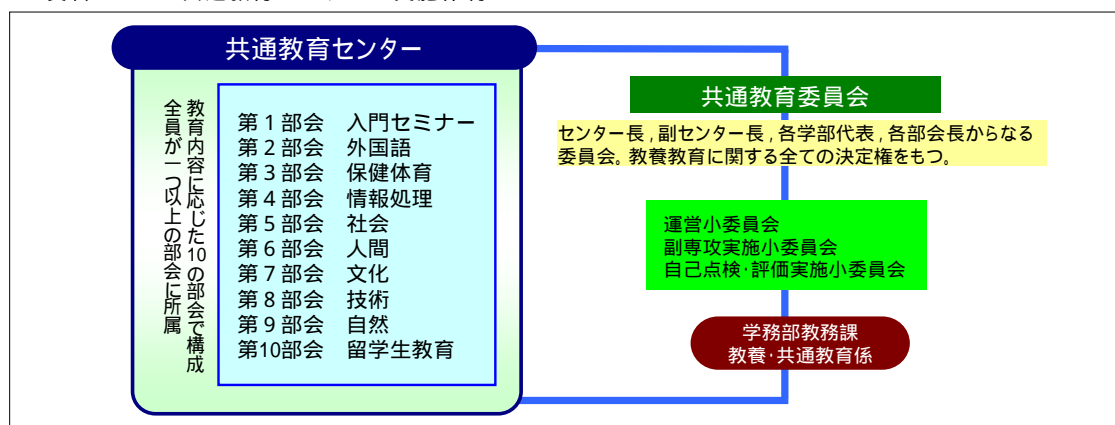
小項目1「[学士課程]各学部各分野の教育理念・目標を達成するために、文化創造の基盤となる教養教育を土台とし、専門の基礎的知識や技術を習得させるとともに、実践的な力量及び学問的な探究能力の育成を図る。さらに、人類の調和ある発展と福祉に貢献し、地域はもとより国内外において活躍できる高い独創性と豊かな人間性を備えた人材を育成する」の分析

##### a)関連する中期計画の分析

計画 1-1「共通教育センター方式の整備・充実を図る。」に係る状況

文京キャンパス(教育地域科学部及び工学部)では、平成15年度に設置された共通教育センターによって教養教育(共通教育センター方式)が実施されている【資料1-1-1~2】。当該教養教育の取組は、平成17年度特色GP「より高い現代的な教養教育をめざして」【資料1-1-3】として採択され、これは共通教育センター方式の教養教育が高く評価されたことの証左である。

資料 1-1-1 共通教育センターの実施体制



(福井大学HP「福井大学平成17年度特色GP採択資料」より)

資料 1-1-2 共通教育の履修制度(共通教育の構成例)

大学教育入門セミナー(必修)		2
基礎教育科目		16
外国語科目		12
教育地域科学部		
英・独・仏・中から 1外国語(選択必修)	8	
他の1外国語(選択必修)	4	
工学部		
英語(必修)	8	
独・仏・中から 1外国語(選択必修)	4	
保健体育科目(保健体育又は体育を選択必修)		2
情報処理基礎科目		2
情報処理基礎(必修)		(2)
総合情報処理(選択)		
教養教育・副専攻科目		20
均等履修		10
A群[共通教養・副専攻科目]5分野の各分野から1科目(選択必修)		
ただし、教育地域科学部学生においては内1分野1科目、工学部学生においては、第4もしくは第5分野のいずれか1科目をB群[専門教育・副専攻科目]の科目で代替できる。		
集中履修		6
A・B群の1つの分野内から3科目(選択必修)		
自由選択履修		4
A・B群から均等・集中履修を含め、全部で20単位になるまで(選択必修)		

(事務局資料)

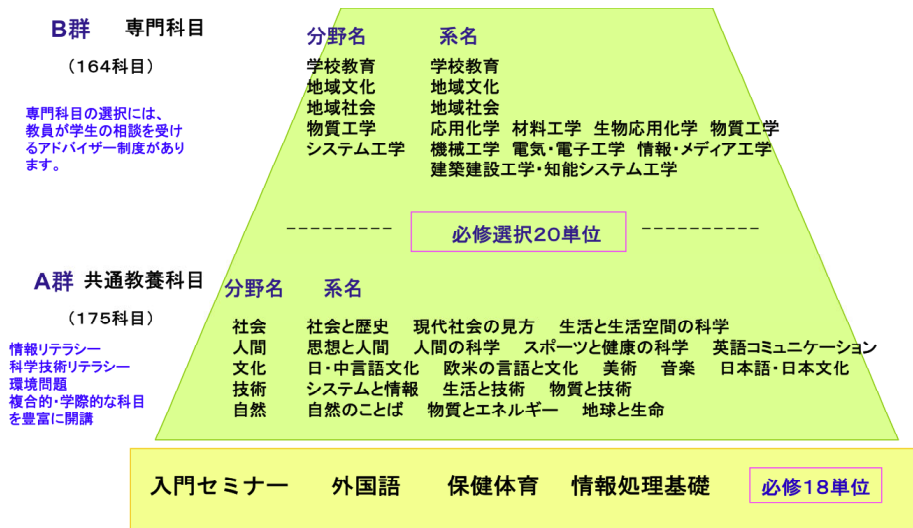
【平成 17 年度特色 G P 「より高い現代的な教養教育をめざして」採択理由】

この取組は、福井大学の教育理念である「学術と文化の拠点として、高い倫理観のもと、人々が健やかに暮らせるための科学と技術に関する世界的水準での教育・研究を推進し、地域、国及び国際社会の貢献し得る人材の育成」を達成するために、すでに5年以上にわたって組織的に実施され、情報処理教育、履修方法、専門科目の開放等に関する学生アンケート調査で実証されるように大きな成果を挙げています。

本取組の教養教育の理念に基づいた独自の履修制度や副専攻制度の実施という点は、こうした社会の多様な要請に充分応えるべく優れた取組であると認められます。特に、前者の教養教育の履修制度については先進性も見られ、今後、高大連携の強化や教養教育の必要性とその充実が求められつつあることを鑑みれば、この取組は他の大学、短期大学の参考になり得る優れた事例であると言えます。

複合的・学際的な現代社会に配慮した豊富な教養教育科目を現代的に編成しています。

教養教育科目は、教養教育のために開講されている科目A群と、専門科目の一部を他専攻・他学部の学生に開放している科目B群からなり、それらは内容によって分野に、さらに分野は系に分類されています。



教養教育科目の構成

修学意欲を学年進行と共に促す独自の履修制度

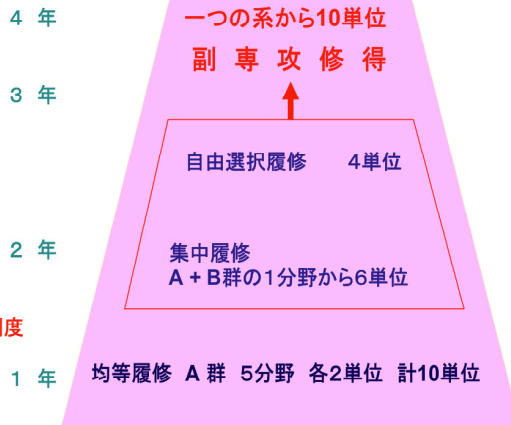
教養教育科目の20単位を、均等履修、集中履修、自由選択履修に分け修得します。

この履修制度は、低学年で特定の専門に偏ることなく広く学問に触れ(均等履修)、学年進行に伴い、学生の自覚を促がし、自分の専攻と異なる分野への関心(集中履修)が高まるように工夫されています。

高度な幅広い視野を目指した副専攻制度

副専攻制度は均等履修を除く10単位を一つの系から修得した場合に、その系を副専攻として修得したことを認定する制度です。この制度は全国に先駆けて始められました。

履修制度



助言教員制度 アドバイザー制度 オフィスアワー制度が、学生の科目の選択を補助します。

( 本学 H P 「特色ある教育活動など」より )

学生及び教員に対する意見聴取を定期的を実施し、その評価結果に基づき平成17年度に大幅な改善を実施した【資料1-1-4】。

資料1-1-4 共通教育に関するアンケート調査報告書、序文及びその結果実施した改善点

序文（抜粋）  
 . . . . .  
 委員会は、アンケートの主目的を、平成12年度に実施されたアンケート結果と比較し、その後改善された点の成果は上がっているか、まだ改善が十分でない点がないかを明らかにすることとした。そのため、アンケート項目は前回と同じ内容のものを基本とし、それに中期計画やその後の新しい状況に関する項目を加え実施した。  
 . . . . .

共通教育委員会

アンケートの結果、平成17年度に実施した主な改善点

理念・目的の改正と周知策

共通教育センターの規定・要項の整備

共通教育の目的を周知させるために「履修の手引き」を大幅改定

「情報処理基礎講義ガイドブック」の改定

Web化により減少したシラバスの利用度を高めるため、冊子体の配付を復活

学生の要望に応え、Webによる履修登録プログラムの改善

平成16年度  
共通教育に関する  
アンケート調査報告書

平成17年3月  
福井大学共通教育センター

（事務局資料）

共通教育センターでは、平成17年度に「共通教育科目履修の手引き」を改訂し、履修制度の内容・目的等をより分かりやすくした。さらに、当該方式の主眼の一つである副専攻修得促進のため「災害ボランティア論」等の新規科目を開講した【資料1-1-5】。副専攻修得状況も良好であり【P4資料1-1-6~7】、学生から好評を得ている【P5資料1-1-8】。

資料1-1-5 副専攻修得促進のため新規開講した科目一覧

年 度	科 目 名
平成16年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 哲学入門</li> <li>・ コンピュータ入門</li> <li>・ 数の世界</li> <li>・ 「社会がわかる」とは？</li> <li>・ 20世紀音楽入門</li> </ul> <p style="text-align: right;">以上5科目</p>
平成17年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 計算機システムの基礎</li> <li>・ 比較文明論（古代日本海文明交流圏）</li> <li>・ 比較文明論（文明の交流史観）</li> <li>・ 科学技術と社会</li> <li>・ 西洋史（近代ナショナリズムの誕生）</li> </ul> <p style="text-align: right;">以上5科目</p>

年 度	科 目 名
平成 18 年度	災害ボランティア論, 生命倫理学入門, スウェーデンの障害児教育, こころの成長, こころの成長, 英文学入門, 造形美術の世界 - 絵画, デジタル社会の算術 - 暗号への算術 -, 環境マネジメントシステム, 自己探求の人間学, 西洋史 (現代ナショナリズムの展開), エネルギー問題入門 以上 12 科目
平成 19 年度	介護の現状と介護保険制度, 科学と哲学 (複雑系の科学基礎付け), 西洋思想の誕生 (古代ギリシャ), フランス文学入門, ヨーロッパの映画, フランスの文化 B (ジャポニズムとその時代), ロボットの知能と学習, 原子・分子から遺伝子までの化学, 社会の動きを数学する 以上 9 科目

(事務局資料)

資料 1-1-6 副専攻修得率の一例

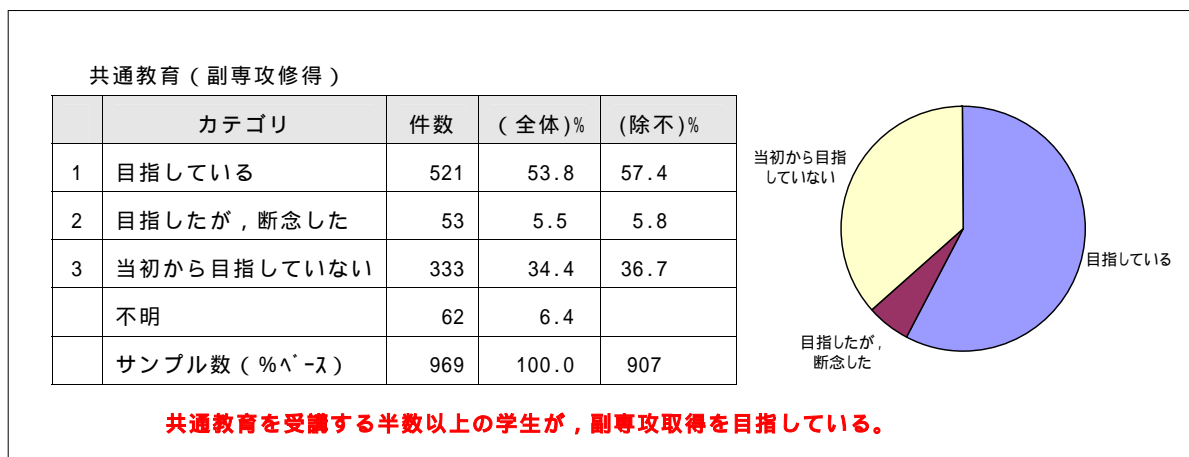
副専攻取得認定者 (平成 14 年度入学生) 一覧

分野	系名	地域文化課程	地域社会課程	機械工学科	電気・電子工学科	情報・メディア工学科	建築建設工学科	材料開発工学科	生物応用化学科	物理工学科	情報システム工学科	合計
第1分野	現代社会の見方	1				3				2		6
第1分野	生活と生活空間の科学					1						1
第2分野	思想と人間		1		1	1		1				4
第2分野	人間の科学		1	1		1			1	1	2	7
第2分野	スポーツと健康の科学								1			1
第2分野	英語コミュニケーション					2						2
第3分野	日・中言語文化				4		2		1			7
第3分野	欧米の言語と文化	3					2		1			6
第3分野	美術						1			2	1	4
第3分野	音楽				1		1		1			3
第3分野	日本語・日本文化	3				2						5
第4分野	システムと情報		1	8	4		1	2	3			19
第4分野	生活と技術					1	1			1	3	6
第4分野	物質と技術			2			1		3	1	2	9
第5分野	自然のことば				1	2				1	4	8
第5分野	物質とエネルギー			1	4	3			3	4	2	17
第5分野	地球と生命		1	5	5	3	1	8	13	2	4	42
システム工学分野	建築建設工学		2									2
	副専攻取得認定者合計	7	6	17	20	19	10	11	27	14	18	149
	平成 14 年度入学者数	35	31	81	73	74	73	77	70	51	74	639
	副専攻取得認定率	20.0	19.4	21.0	27.4	25.7	13.7	14.3	38.6	27.5	24.3	23.3

平成 14 年度入学, 17 年度卒業生の副専攻修得者数を示す。  
 学生が所属する学科と異なる分野の科目を系統的に履修した場合に, 副専攻修得を認定する。例年, 約 20% の学生が修得している。

(事務局資料)

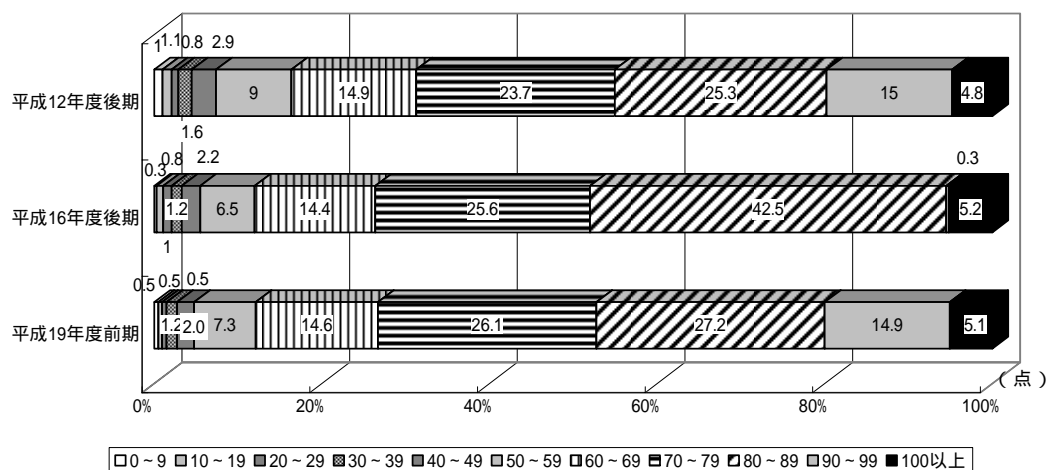
資料 1-1-7 副専攻修得を目指している学生の割合



(事務局資料)

資料 1-1-8 共通教養・副専攻科目に関するアンケート

【設問】この授業に 100 点満点で何点をつけますか？



(注) 数字は、回答者数の割合を表す。

共通教養・副専攻科目に関する学生からのコメント

生涯学習コースなので、将来何かに活かせたらと思ってこの授業を取りました。工学的な要素が濃いので、少し難しい気もしますが、自分で深めると面白いです。

科学技術における専門的な知識を求める授業ではなく、科学技術と社会の関係はどうあるべきかを考える授業だったので、文系の私にも、とても考えやすかったです。4分野の授業ということで、敬遠されそうではありますが、この授業は、本当に文系の人でもしっかり取り組める内容なので、次年度以降も開講してほしいです。

今期受講している中で一番分かりやすく楽しく、興味を持つことが出来た。今後集中履修でこの分野を取っていかうと強く思った常に学生のことを考えた授業内容・ペースは心地よく、すばらしいものだと思います。

以前はまちづくりというものが、漠然としていたが、この授業を受けて私が想像していた以上にいろんな分野があることを学びました。これからテレビや新聞などで学んだことに近いものが出ていたら、興味を持ってみたいと思います。

自分のコース内容にも関連しているのでとても興味深く学べました。経済という大きな領域でも、いろいろな視点があることを知りました。私語禁止を徹底してくださったので集中出来ました。

(事務局資料)

動機付け学習の一環として、社会人と学ぶ生涯学習市民開放プログラム（毎年約 250 科目を開講）を実施しており、法人化後延べ 482 名の社会人が受講した。これは、社会貢献の一環としての取組でもある【資料 1-1-9~11】。

資料 1-1-9 生涯学習市民開放プログラムに関する記事

福井文京キヤンパスの講義を市民に開放し、現役生と一緒に学んでもらう「生涯学習市民開放プログラム」が好評だ。豊富なメニューと低料金、年齢を重ねても衰えない学習意欲を後押し。多くのヒーターを稼働している。学生の刺激にもなっており年齢を超えた交流も生まれている。

福井大で初めて国の認可を 成（昨年度末で廃止）と異なり、二〇二〇年度に始まる。聴講制度では授業料などたプログラム。教養科目に加えて、科目六万五千円、え、本年度から専門科目も開 必要だ。たの目、受講料放しており、双方合わせて前 が、科目九千二百円、受講期百二十六科目、後期百四十 定されている。

一科目と選択の幅が従来の約 二倍に広がった。 前年度期合わせた本年度の受講者数は百三十一人、初年度 受講資格として年齢や学歴 の必要増、四十七代、の主 を開かない点で従来の聴講制 婦や定年退職後の男性が多



学生に交じり、建築設計の講義を受ける井口幸恵さん。熱心な学習態度が学生に刺激を与えている＝福井大

## 世代超えて

い。定着率が高く、本年度後 期は受講者六十人のうち五 十二人がヒーターだ。

英語の科目を中心とし、初年 度から欠かさず受講している 船木純一さん（三〇）福井市手 寄一丁目。は、商社勤務時代 に海外取引に携わって語学 に関心を持ったのがきっかけ。 「学生と並んで講義を受 けると気分が良くなる。予習 復習が欠かせず、宿題も出る。 カルチャー感覚で受講し、たし なみ程度の感覚では続かな いから気が引き締まる」と話 す。

「大学ならではの専門的な 学問に触れたかった」とは 井口幸恵さん（二〇）武生市東 千福町。昨年度後期から受 講しており、発達心理学から 建築設計、環境エネルギーま で、選んだ科目は幅広い。「初 めは素人同然だが、疑問点を その都度質問して解決する よう心掛けていたら、講義 が面白くなった。難解な 内容を理解できたときの喜 びは大きい。高卒で就職し た井口さんにとって大学で 学ぶと自分が新鮮だとい う。

一緒に講義を受けている常 橋明浩さん（三三）工学部二 年一は「何となく筑城に身を 任せて大学に進学した学生 との違い、目的意識を持って大 学に来ているからか、やる気 が伝わってくる。自分をしっ かりしなければ」と刺激を受 けている様子。同年度の松下 聡教授は「教える工夫して 分かりやすい講義に改善す る契機になる」と話すなど、 教員へのプラス効果もあるよ うだ。

受講者の間では、互いに親 交を深めて切磋琢磨しよう と、同窓会、まぐろの語も 浮上。受講者同士だけでなく、 学生と交流できるのも魅力の 一つで、講義後に一緒に食卓 したり、喫茶店でおしゃべり を楽しんでいる受講者もいるとい う。

学生と意気投合してイベント 企画グループまでできてい ました井口さんは「今後はも う一受講者として、学生と社会 との間の橋渡しになりたい」と 話している。

講義後、若い学生と食堂で 談笑する生涯学習市民開放 プログラムの受講生（右 端）。これも大学で学ぶ魅力 の一つ＝福井大

### 福井大 市民開放講義 が好評

## 学習意欲刺激

### 豊富な科目、低料金

（福井新聞 H16.12.6）

一緒に受講している学生の感想

目的意識を持って大学にきているから、やる気が伝わってくる。自分もしっかりしなければ。

授業を実施している教員の感想

教え方を工夫して、分かりやすい講義に改善する契機になる。

資料 1-1-10 生涯学習市民開放プログラム開講科目数及び受講者数

年度	平成 16 年度	平成 17 年度	平成 18 年度	平成 19 年度
開講科目数	267	270	258	233
受講者数	131	131	111	109

（事務局資料）



## 資料 1-1-11 生涯学習市民開放プログラム受講生の感想

今回初めて受講させて頂きましたが、毎回の講義はとても興味深く、有意義なものでした。学ぶことの楽しさを、改めて感じさせて頂きました。

孫のような学生さん達と、息子のような教授に講義を受ける機会に恵まれ、毎回楽しく出席させて頂きました。この年になっても、新しいことを知ることは何とも嬉しいことです。心理学、教育学、文学論などまだまだ学びたいことがあります。体の続く限り、講義を受けたいと思いますのでよろしくお願いいいたします。

先生方は色々とお席や授業内容の希望など、意欲的に取り組んでおられる様に思います。学生の一層の向学心を期待します。

学生と共に授業を受けられることに感謝いたしております。連続で同じ科目を受講いたしておりますが、学期別に「テーマ」が異なり、興味深く過ごさせて頂いております。

今期より新たに専門科目の一部を開放していただき、本当に有り難うございました。難解な部分もありますが、先生方のご親切に快く質問に答えて下さるのでとても楽しく、学生時代に戻ったようです。

「生涯学習市民開放プログラム」の修了生や受講者による同窓会を平成 16 年度に設立し、前・後期ごとに本学教員を講師とした講演会・会員相互の研究発表会・学生との交流活動を開催するなど、受講生間の交流を深めるための取組を推進している。

## 生涯学習市民開放プログラム受講生交歓会を開催しました。

7月31日(月)、アカデミーホールにおいて、第9回生涯学習市民開放プログラム受講生交歓会を開催しました。

これは、平成18年度前期に生涯学習市民開放プログラムを受講された方の修了証書授与式をかねて行われ、27名の受講生の方が出席されました。

内田副学長の挨拶に始まり、「歩いて暮らせるまちづくりとは？」と題した工学研究科建築建設工学専攻 川上教授による講演、意見交換、そして修了証書授与と進められ、受講科目によっては初顔合わせになる受講生の方々は、修了した喜びを分かち合い、和やかなひとときを過ごされました。



(「平成 18 年度前期受講生からの感想」より)

計画 1-2 「各学部の教育理念・目標を踏まえた教養教育の充実を図る。」に係る状況

各学部の教育目標・理念を踏まえた教養教育の目標・理念【資料 1-2-1】を平成 17, 18 年度に見直し, 「共通教育科目履修の手引き」や「シラバス」等での公表, オリエンテーションでの教示により学生・教員に周知した。

資料 1-2-1 教養・共通教育の理念・目標

福井大学共通教育センターにおける共通教育の理念・目的

(平成 15 年制定, 17 年改正)

特定の分野に偏ることなく, 広く学問の知識や方法を学ぶことを通じて, 総合的な判断力と行動力をそなえた良識ある社会人として自己を陶冶するとともに, 専門教育を通して学んだ知識や技能及び学術等の成果を生かし広く社会に貢献できるような人間の育成をめざす。

医学部における教養教育の目的・目標

(平成 18 年制定)

目的:

将来の医療従事者にふさわしい倫理観, 総合的判断力や良識を養い, 専門教育の履修に不可欠である基礎的な知識と技能や方法論を身につけた学生の育成を目的とする。

目標:

1. 医学・看護学を学ぶことへの動機付けを行い, 学ぶことへの主体的意欲を高める。
2. 医学研究者・医療従事者としての倫理観を養う。
3. 専門教育の履修に必要な基礎学力と基礎的技能を身につける。
4. 医療・医学をめぐる人間や社会, 思想等についての諸問題に関心を持つ。
5. 人間理解とコミュニケーションの能力を培い, 将来の医療人としての幅広い教養と自己の心身を豊にするための素養を身につける。

(事務局資料)

松岡キャンパス(医学部)では、医学準備教育(医学準備教育モデルコアカリキュラムに準拠)を含む教養教育が実施されており、教養・準備教育運営委員会が教育目的・目標を踏まえ統括している【資料 1-2-2~3】。なお、教養教育は平成 14 年度実施大学評価・学位授与機構による「全学テーマ別評価(教養教育)」において高い評価(上位 4 校)を受けた旧福井医科大学の教養教育を発展的に改良したものである。

資料 1-2-2 医学部教養教育の開講科目一覧

**医学科**

教養・準備教育科目一覧

区分	授業科目名							
総合教育科目 (右記より14単位以上履修)	総合教養ゼミナール	倫理の基礎から応用へ	生命倫理学入門	心理行動科学入門	経済学	医療経済学入門	歴史学	
	文学	哲学的人間学	芸術学	法学	社会学	文化人類学	医療分野のドイツ語	
	体力作りの科学	応用数学	現代物理学	教養特別講義1	教養特別講義2	(14単位以上を履修すること。)		
基礎教育科目 (右記より15単位以上履修)	数学基礎	医学のための物理学入門	医学のための生物学入門	運動スポーツ科学実習	英語1	英語2	英語3	
	英語4	独語1・仏語1・中国語1	独語2・仏語2・中国語2	は選択必修科目:1外国語(4単位)以上を修得すること				
医学導入教育(必修60時間)	医学概論	医学入門						
医学準備教育(必修392時間)	人の行動と心理	物理現象と物質の科学	生命現象の科学	医科学基礎実習	情報の科学1	情報の科学2	健康科学	

➡ 準備教育モデルコアカリキュラムに準拠した医学教育課程科目      は必修科目

**看護学科**

基礎教育科目一覧

区分	授業科目名							
基礎科目 (右記より17単位以上履修)	哲学	倫理学	文学	芸術学	左記より2単位以上履修すること			
	法学	文化人類学	社会学	左記より2単位以上履修すること				
	心理学	教育学	統計学	情報科学	英語	英語	英語	
	ドイツ語	フランス語	中国語	体育				

は必修科目

医学科の「総合教養ゼミナール」は、少人数教育として 10 名程度の学生が主体的に自ら学ぶ対話型授業を目指し、選択科目として開講されている。平成 19 年度では 9 コースのゼミが実施された。学生は自らの興味と関心に応じてテーマを選び受講している。

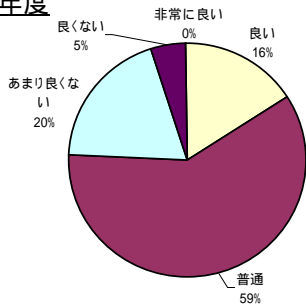
(医学部現況調査表より)

教養・準備教育課程の構成について、「あまり良くない(満足していない)」～「良くない(満足していない)」と回答した学生は少なく、教養・準備教育課程は関係者の期待に相応に役立っている。

**医学科**

【設問】 1年次のカリキュラム全体の構成はいかがでしたか？

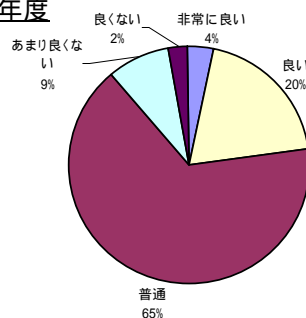
**18年度**



平成18年度	回答者数
非常に良い	0
良い	14
普通	51
あまり良くない	17
良くない	4
合計	86

(回収率82.0%)

**19年度**



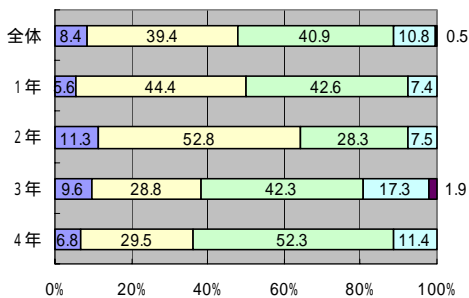
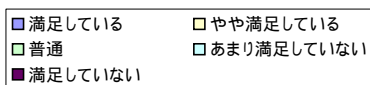
平成19年度	回答者数
非常に良い	3
良い	16
普通	54
あまり良くない	7
良くない	2
合計	82

(回収率86.9%)

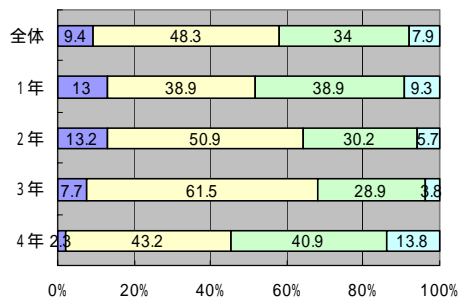
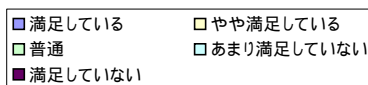
**看護学科**

【設問】 基礎科目群及び専門科目群に満足していますか？

**基礎科目群**



**専門基礎科目群**



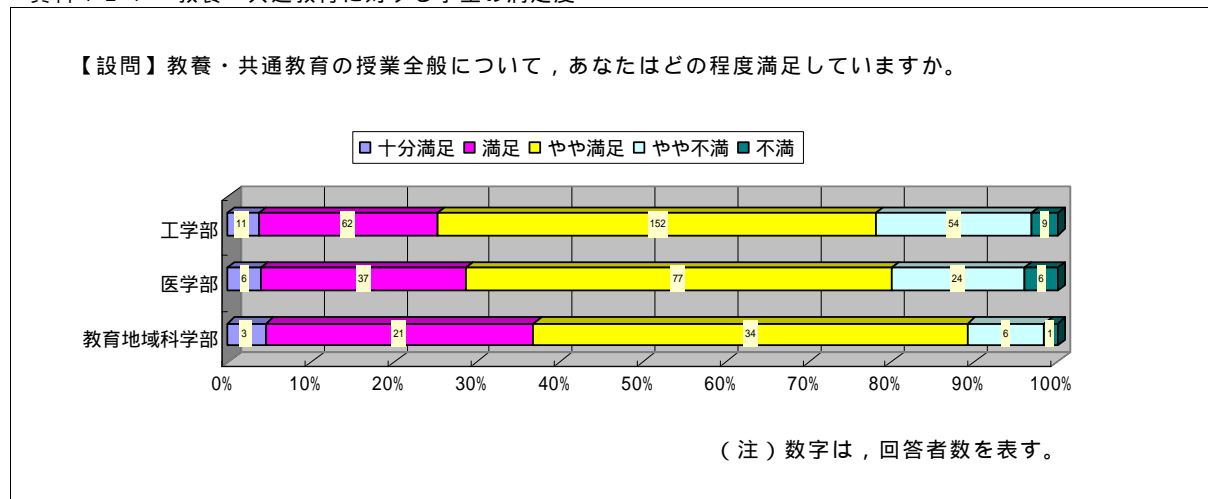
数字は回答者数の割合(%)を表す。

(注)看護学科では基礎科目群及び一部の専門科目群が教養準備教育科目に相当する。

(医学部現況調査表より)

文京キャンパス（教育地域科学部及び工学部）では，計画 1-1 に基づき共通教育センター方式によって教養教育が実施され，その充実が図られている。なお，両キャンパスにおける教養教育に対する学生の満足度は良好である。【資料 1-2-4】。

資料 1-2-4 教養・共通教育に対する学生の満足度



(平成 19 年度福井大学の教育・研究に対する意識・満足度調査)

計画 1-3 「情報リテラシー教育の充実及び語学力の向上に努める。」に係る状況

情報リテラシー教育充実の基盤をなすインフラ整備を，平成 18 年度より推進した【資料 1-3-1】。

資料 1-3-1 文京キャンパス設備の充実例

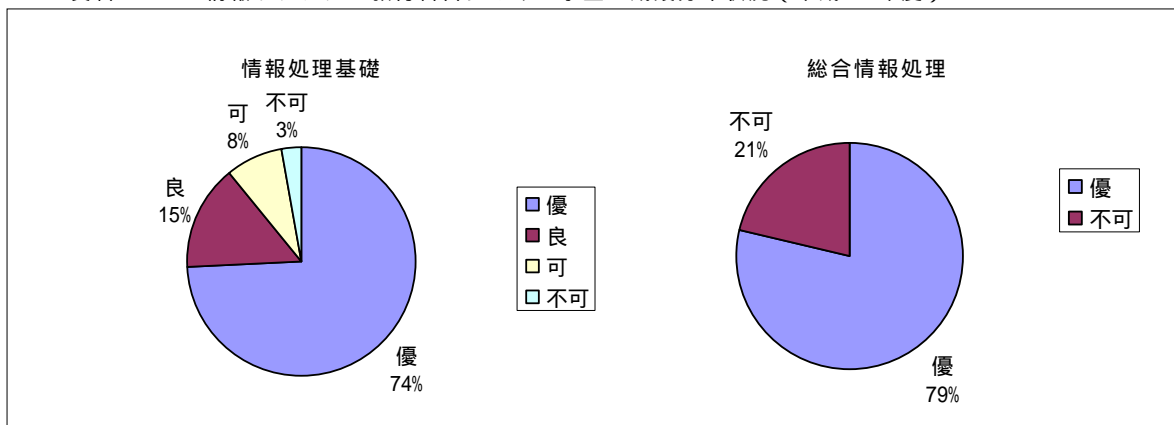
教室名	主な活用状況
総合情報処理センター(第一端末室)  (平成 18 年度整備)	情報処理基礎や専門教育，教員及び学生の研究，学生の自学・自習，Web 履修登録などに利用。  平成 18 年度にシステムを更新。端末数 62 台
総合情報処理センター(第二端末室)  (平成 18 年度整備)	演習や学生の研究，自学・自習などに利用。  平成 18 年度に端末を更新。端末数 10 台

(事務局資料)

文京キャンパスでは、全学生必修の「情報処理基礎」及び高度な情報処理教育を求めている学生のための選択科目「総合情報処理」を開講し、それぞれ講義ガイドブックを作成するなど情報リテラシー教育を推進した。学生の成績分布【資料 1-3-2】から鑑み、教育目標は概ね到達されている。松岡キャンパスでは、主に情報検索等に関する教育を行い学生から好評を得ている【資料 1-3-3】。

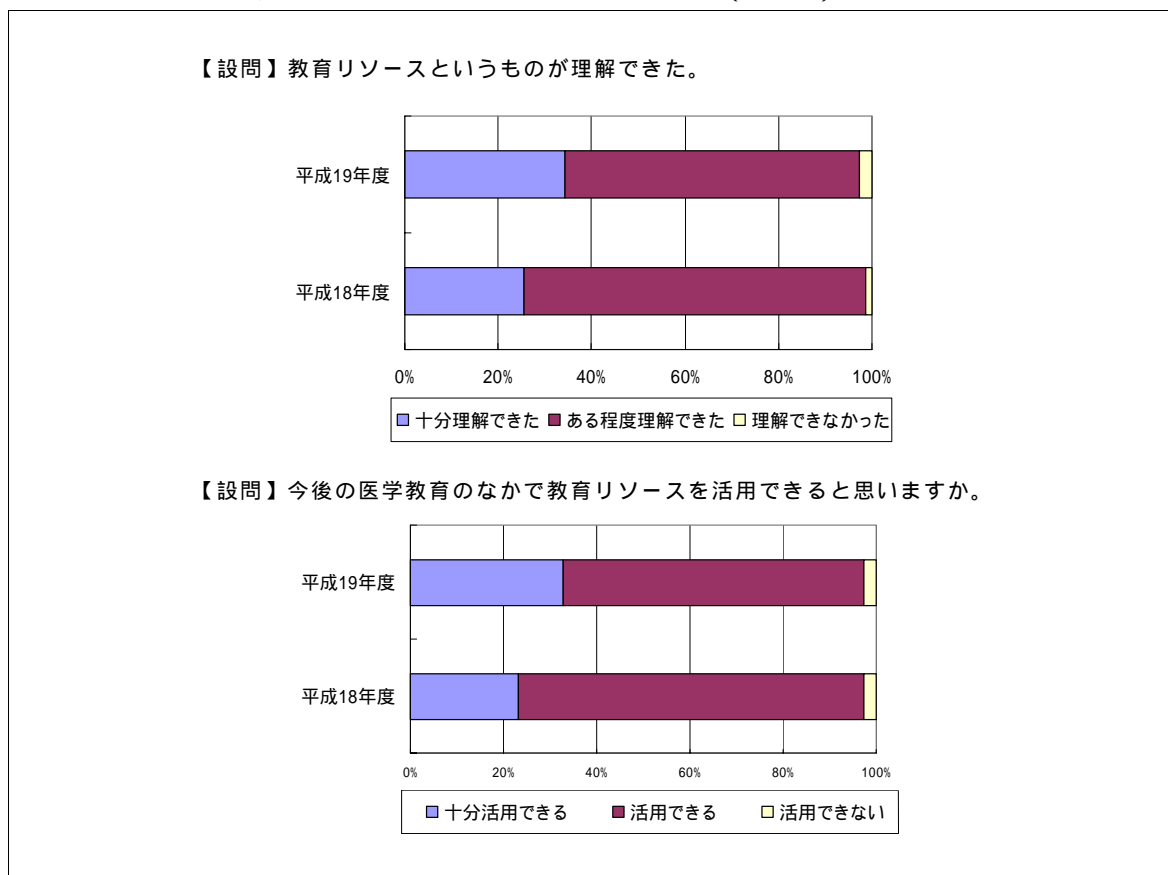
また、過半の各学部卒業生及び研究科修了生は、「情報の収集・利用」及び「情報機器の活用」の力が習得できたと回答しており、教育の成果は十分に上がっている【P13 資料 1-3-4】。

資料 1-3-2 情報リテラシー教育科目における学生の成績分布状況（平成 19 年度）



(事務局資料)

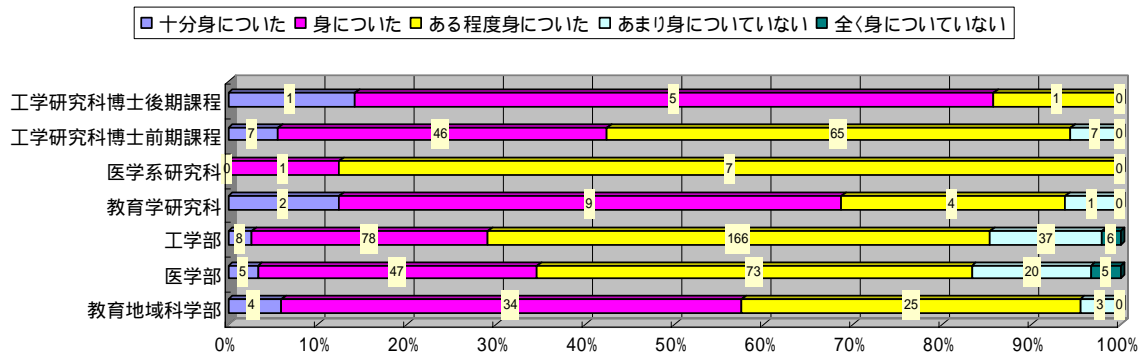
資料 1-3-3 情報検索など教育リソース活用に対する学生の評価（医学部）



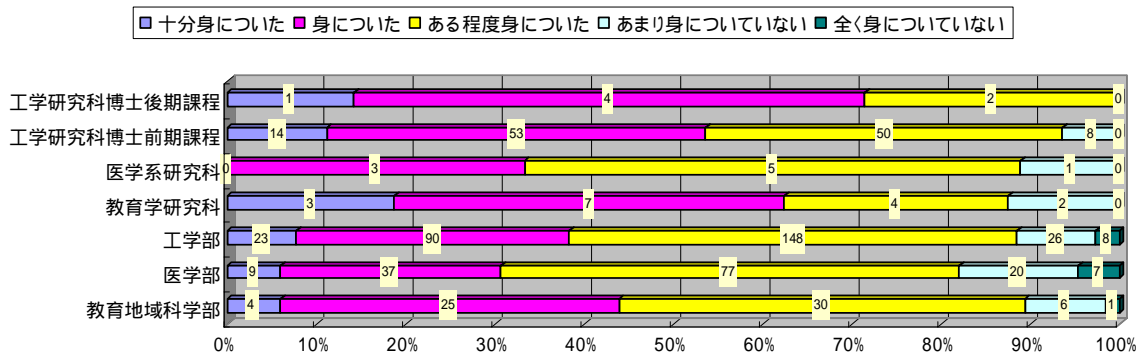
(「テュートリアル教育における教育リソースの利用法」アンケートより)

資料 1-3-4 「情報収集・利用」及び「情報機器の活用」力の習得について

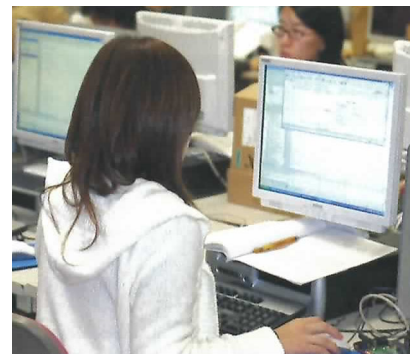
【設問】あなたは福井大学で学習や研究をすることによって情報を収集して適切に利用する力がどの程度身についたと思いますか。



【設問】あなたは福井大学で学習や研究をすることによって情報機器を活用する力がどの程度身についたと思いますか。



(注) 数字は、回答者数を表す。

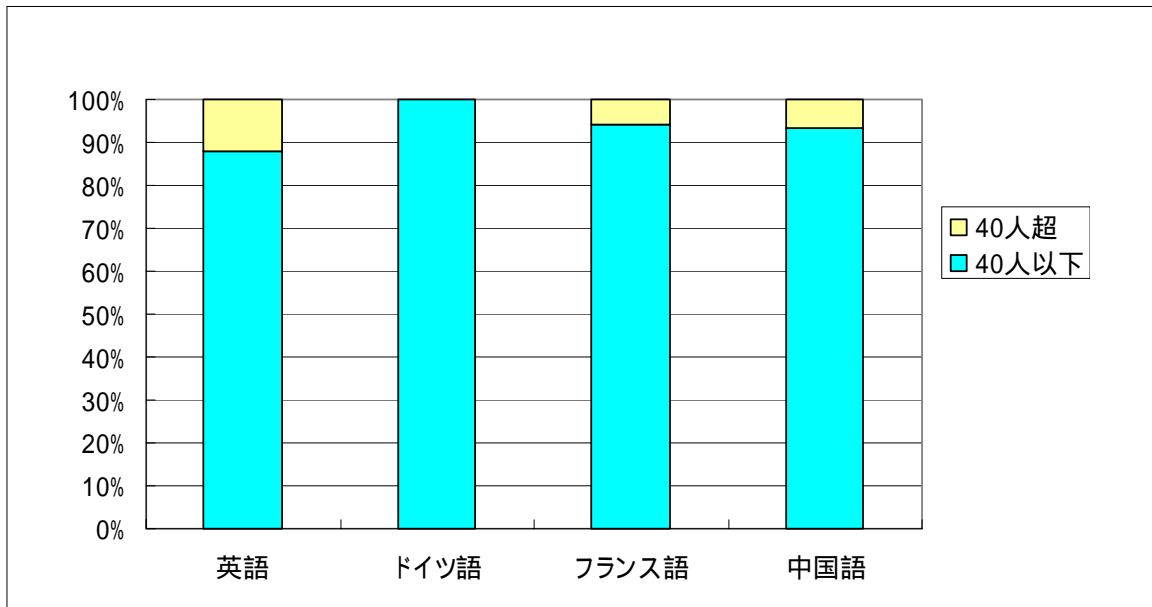


情報処理講義の様子

(平成 19 年度福井大学の教育・研究に対する意識・満足度調査)

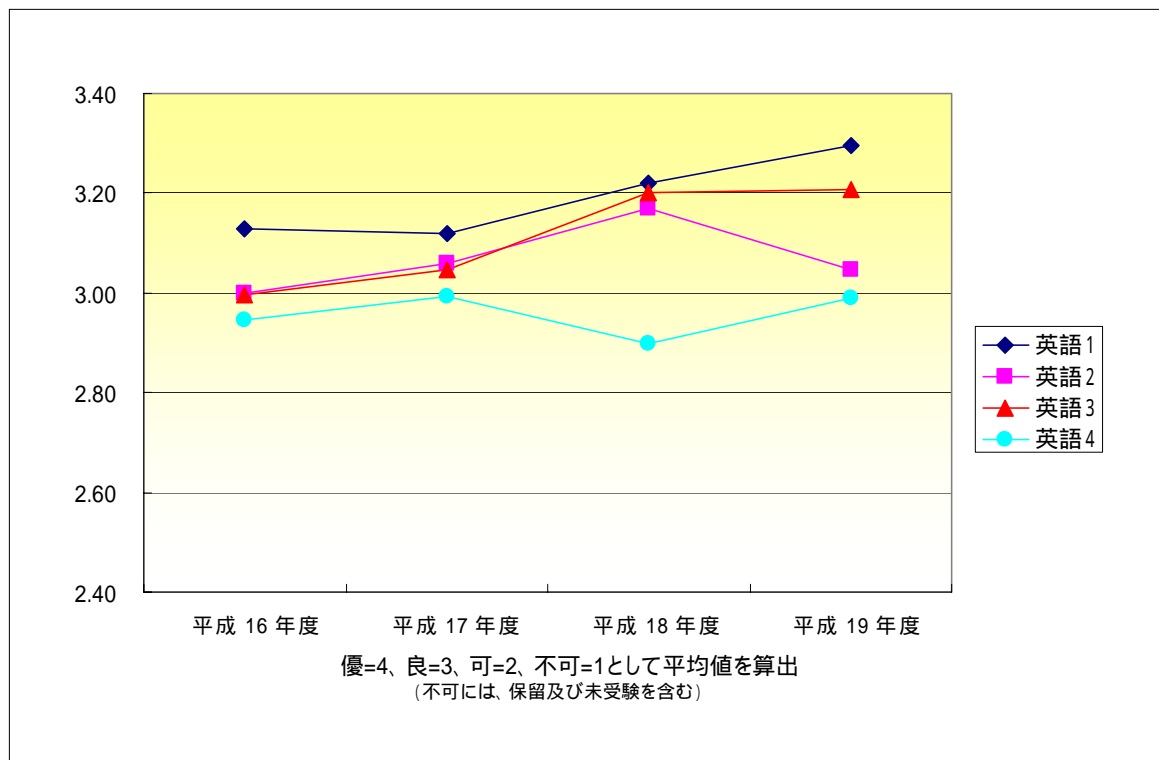
文京キャンパスにおいて、共通教育センターでは語学力向上の基盤となる少人数教育を堅持しており【資料 1-3-5】、学生の成績も概ね向上している【資料 1-3-6】。また、外部検定テスト(TOEFL, TOEIC)を活用した単位認定を行っており、さらに「単位認定に関する申し合わせ」を平成 20 年度に策定し外部検定テスト受験を奨励している【P15 資料 1-3-7~8】。就職先からの評価結果を鑑みると卒業生の英語能力は概ね向上した【P16 資料 1-3-9】。

資料 1-3-5 語学少人数クラス開講状況(文京キャンパス)(平成 17~19 年度)



(事務局資料)

資料 1-3-6 英語科目(英語 1~4 は、教育地域科学部：選択必修，工学部：必修)の成績推移



(事務局資料)



資料 1-3-7 共通教育センターの単位認定に関する申合せ

共通教育科目の外国語科目（英語）における  
「大学以外の教育施設等における学修」の単位認定に関する申合せ

（平成 20 年 4 月 1 日 制 定）

（趣旨）

第 1 この申合せは、福井大学学則（平成 16 年福大学則第 1 号）第 50 条の規定に基づき、大学以外の教育施設等における学修のうち文部科学大臣が別に定める学修（以下「学修」という。）を共通教育科目の外国語科目（英語）の履修とみなして、単位を認定する取扱いに関して必要な事項を定めるものとする。

（学修の内容等）

第 2 単位の認定に係る学修の内容、共通教育科目の外国語科目（英語）の授業科目、単位及び評価は、別表のとおりとする。

（認定手続）

第 3 単位の認定を希望する者は、福井大学共通教育科目における「他の大学等において修得した単位、大学以外の教育施設等における学修、入学前の既修得単位等」に対する単位の認定手続に関する申合せ（平成 16 年 4 月 1 日制定。以下「単位の認定に関する申合せ」という。）に基づき、必要な書類（認定書またはスコア票）を添えて共通教育センター長（以下「センター長」という。）に願い出るものとする。なお、夏期休業中に行う学内 TOEIC を受験した者は、スコアを得てから後期が始まるまでに、TOEIC 公開テストまたは TOEFL 公式テストを受験した者は、随時申請すること。

2 センター長は、前項の願出があったときは、共通教育委員会の議を経て単位を認定する。

ただし、既に専門教育科目として認定されている場合には認定しない。

3 センター長は、認定した授業科目、単位及び評価を、単位の認定に関する申合せに基づき、願出者に通知する。

別 表

学 修 の 内 容	授 業 科 目	単 位	評 価	備 考
TOEIC 500 以上、または TOEFL の iBT 52 以上のスコア	英語 2、英語 3、英語 4 のうち 1 科目*	2	優	TOEIC 公開テストまたは学内 TOEIC（IP TOEIC）のスコア、あるいは TOEFL の公式テストのスコア（どれも入学以降に得たスコアで、2 年間有効）に限る。
TOEIC 600 以上、または TOEFL の iBT 61 以上のスコア	英語 2、英語 3、英語 4 のうち 2 科目**	4	優	TOEIC 公開テストまたは学内 TOEIC（IP TOEIC）のスコア、あるいは TOEFL の公式テストのスコア（どれも入学以降に得たスコアで、2 年間有効）に限る。

\* TOEIC 500/TOEFL iBT 52 以上のスコアを得て 1 科目が認定された後は、TOEIC 600/TOEFL iBT 61 以上のスコアを得なければ、さらに認定を受けることはできない。

\*\* 1 科目の認定を受けた後に、TOEIC 600/TOEFL iBT 61 以上のスコアを得て、さらに認定を受けようとする場合は、1 科目のみの認定となる。

（事務局資料）

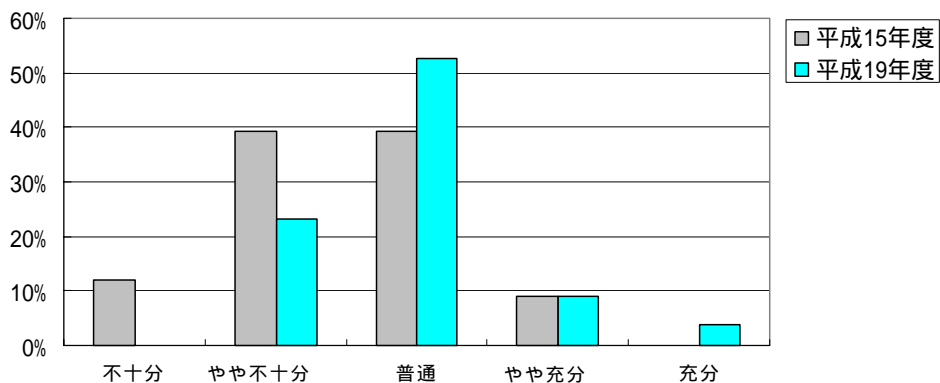
資料 1-3-8 TOEIC,TOEFL 単位認定状況

学科名	平成 16 年度 認定者数		平成 17 年度 認定者数		平成 18 年度 認定者数		平成 19 年度 認定者数	
	TOEIC	TOEFL	TOEIC	TOEFL	TOEIC	TOEFL	TOEIC	TOEFL
機械工学科	3	0	0	0	3	1	5	0
電気・電子工学科	1	0	2	0	1	0	3	0
情報・メディア工学科	0	0	0	0	1	1	0	0
建築建設工学科	2	0	5	0	2	0	1	0
材料開発工学科	3	0	0	0	1	0	0	0
生物応用化学科	0	0	3	0	5	0	0	1
物理工学科	2	0	0	0	0	0	0	0
知能システム工学科	3	0	1	0	0	0	1	0
合 計	14	0	11	0	13	2	10	1
	14		11		15		11	

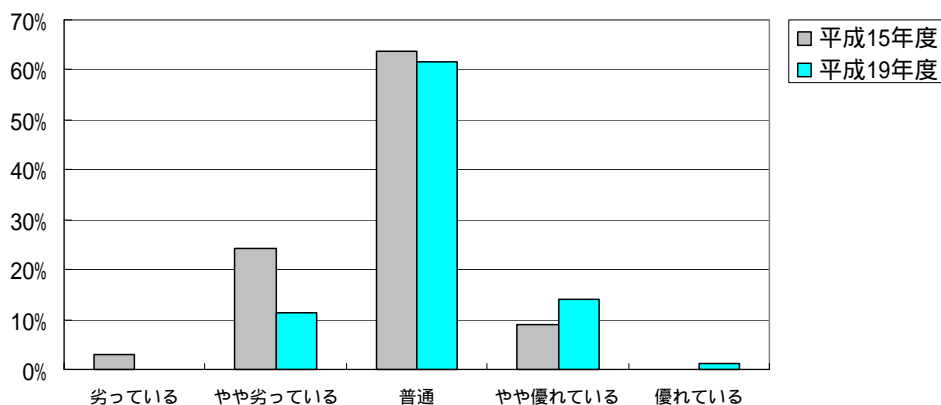
（事務局資料）

資料 1-3-9 : 卒業生の英語能力に対する就職先企業の評価結果例（工学部）

【設問】国際性，英語会話能力について（貴社の業務を基準として）



【設問】国際性，英語会話能力について（他大学卒業生を基準として）



英語による講義・演習の様子

（平成 19 年度自己点検・評価委員会報告書）

松岡キャンパスでは、平成 16 年度現代 G P「医学英語と医学・看護学の統合的一貫教育」に基づく実施プログラムにより、臨床現場における英語活用能力を涵養した【資料 1-3-10】。この取組によって医学英語教育に対する学生の評価は向上しており、関係者の期待に十分対応した【P18 資料 1-3-11】。

資料 1-3-10「医学英語と医学・看護学の統合的一貫教育」（平成 16 年度現代 G P 採択）の概要

社会的要請の強い政策課題に対応した特に優れた教育プロジェクト（取組）として、平成 16 年度文部科学省「現代的教育ニーズ取組支援プログラム（現代 G P）」に採択された。

**【平成 16 年度現代 G P 採択理由 抜粋】**

医療領域において必要な英語を認識した上でのプログラムであり、チュートリアルやシミュレーション発表等、受信だけでなく英語で発信することもよく考えられており、病院勤務経験のある外国人教員による医療現場会話演習など応用医学英語の専門性の高いレベルで導くものと考えられます。また専門職に特化した英語教育であるので学生のモチベーションを高める点においても高く評価できる。

テーマ 仕事で英語が使える日本人の育成

取組 医学英語と医学・看護学の統合的一貫教育

**本プログラムの目標と基本構成**

1. 医師・看護師が医療現場で必要とする英語能力を身につけさせる。
2. なぜ医学英語が必要かを理解させる。
3. 英語が使える喜びを実感させる。

具体的な取組内容



(ECLNC (医学英語演習室) パンフレット)

資料 1-3-11 医学英語教育に対する学生の評価

医学科新教育課程における英語科目のうち、1年次配当科目は旧課程の内容をほぼ踏襲している。一方、新教育課程は、2～4年次に英語科目を6科目（必修4科目・選択2科目）開講しており、2年次に3科目（選択3科目）のみを開講していた旧課程を大幅に充実させたものとなっている。ここでは、新旧教育課程において対応する英語科目に対する学生評価を比較した（旧課程の評価は最終年度である平成15年度のものを使用）。

必修科目

【カリキュラム変遷】

旧教育課程相当科目		➔	新教育課程相当科目	
英語 7（医学科 2 年）	選択		医学英語 1（医学科 2 年）	必修
英語 8（医学科 2 年）	選択		医学英語 2（医学科 2 年）	必修
			医学英語 3（医学科 3 年）	必修
			医学英語 4（医学科 3 年）	必修

各科目に対する学生の授業評価結果

設問 1：講義内容は適切でしたか

設問 2：教員の授業に対する熱意や工夫は感じられましたか

設問 3：教員の説明は明瞭で分かりやすかったですか

設問 4：教材（教科書、プリント、板書、視聴覚機器等）は適切でしたか

	科目名	設問 1	設問 2	設問 3	設問 4
旧課程	英語 7	3.53	3.68	3.45	3.39
	英語 8	3.2	3.8	2.6	3.4
	旧課程 平均	3.37	3.74	3.03	3.4
新課程	医学英語 1	3.74	3.84	3.8	3.64
	医学英語 2	3.89	4.01	3.77	3.81
	医学英語 3	3.69	3.81	3.75	3.64
	医学英語 4	4.12	4.25	4.05	4.03
	新課程 平均	3.86	3.98	3.85	3.78

（注）それぞれの設問に対する学生による評点の平均として評価結果を表した。

（医学部現況調査表）

計画 1-4 「動機づけ教育充実のための検討を行う。」に係る状況

教育地域科学部及び工学部では、動機づけ教育の一環として「大学教育入門セミナー」【資料 1-4-1～2】を必修科目として開講している。学長・学部長講話をはじめ、ボランティアやハラスメントに関する共通講義を行うとともに、個別講義では、各コース・学科の教員が少人数教育で学生個々の特性を引き出している。これらの取組は学生からも好評を得ている【P20 資料 1-4-3】

資料 1-4-1 大学教育入門セミナーの構成



(福井大学HP「平成 17 年度 特色GP採択資料」より)

資料 1-4-2 大学教育入門セミナーの一例（機械工学科）

平成 19 年度「大学教育入門セミナー実施計画」

工学部 機械工学科  
 実施責任教員 [ 山田 泰弘 ]  
 科目担当責任教員（成績等の集約など） [ 山田 泰弘 ]

[ 火曜日：2 時限 ]

回数	実施日程	担当教員氏名	使用講義室等
共 1	4 月 10 日	学長等講話	大 1 講義室
共 2	4 月 17 日	副学長講話，図書館， 総合情報処理センター	
共 3	5 月 01 日	共通教育センター長講話， 消費生活センター，自動車連盟， I S O 実施委員会	
共 4	5 月 08 日	保健管理センター	
共 5	5 月 15 日	医学部教員	
共 6	5 月 22 日	学部長講話， ふくい災害ボランティアネット， ハラスメント関係委員会	
個 1	6 月 05 日	JABEE 対応教育プログラム （竹下，本田）	2 2 3 L
個 2	6 月 12 日	研究室訪問（本田）	各研究室
個 3	6 月 19 日	研究室訪問（本田）	各研究室
個 4	6 月 26 日	研究室訪問（本田）	各研究室
個 5	7 月 03 日	工場見学（山田）	各会社
個 6	7 月 10 日	機械加工・工作実習の知識（白石）	2 2 3 L
個 7	7 月 17 日	機械加工・工作実習の知識（白石）	2 2 3 L
個 8	7 月 24 日	新入生合宿研修（本田・山田）	研修会場
個 9	7 月 31 日	新入生合宿研修（本田・山田）	研修会場

共：共通講義      個：個別授業

（事務局資料）

資料 1-4-3 大学教育入門セミナーに対する学生の評価

大学教育入門セミナーの意義

	カテゴリ	件数	(全体)%	(除不)%
1	たいへん有意義であった	378	39.0	39.7
2	少しは意義があった	386	39.8	40.5
3	あまり有意義ではなかった	65	6.7	6.8
4	まったく意義はなかった	30	3.1	3.1
5	わからない	94	9.7	9.9
	不明	16	1.7	
	サンプル数（%ベース）	969	100.0	953

（工学部現況調査表）

医学部では早期体験学習によって動機付け教育を行い、主体的学習の基盤（医学・医療に対する学習意欲の維持）を構築している【資料 1-4-4】。さらに、「医学概論・入門」や「看護学入門」を開講・改善し、動機付け学習の充実を図っている【P22 資料 1-4-5】。

資料 1-4-4 動機付け教育の一覧と学生の評価

動機付け教育実施項目一覧			
学科・学年	科目名	実施内容	実習時間
医学科 1 年	コミュニケーションとチーム医療 (外来患者エスコート体験)	外来患者エスコート体験を通じ、患者の立場に立ち、患者の気持ち、目の高さから、医療を受ける側を体験する。	1 日
医学科 1 年	医学入門，医学概論 (病院見学)	病院見学を通じ、臨床現場を体験し、医療現場の現状を理解する。	1 日
医学科 1 年	医学入門，医学概論 (病棟看護体験実習)	看護体験実習を通じ、看護現場を体験し、医療現場の現状を理解する。	3 日
看護学科 1 年	基礎看護学実習 - 1 (病院部門見学実習)	患者を中心とした医療の機能と役割を知り、入院生活を送っている患者の病院環境を理解する。	1 日
看護学科 1 年	基礎看護学実習 - 2 (外来・病棟実習)	外来医療と看護の実際，入院患者の療養生活を支える医療環境について理解する。	3 日

早期体験学習による「動機付け」学習を履修した学生からの意見聴取結果を鑑みると、早期体験学習による「動機付け」学習によって学習へのモチベーションが向上・維持されていることが推察できる。

**医学科**

「病棟看護体験実習」に関する医学科学生からのコメント

( 実習を終えて、良かったと思うこと。自分にとって不足していると思うこと )

( 小児科を担当して ) ずっと付き添っているお母さんの気持ちはとてもつらそうだった。私が医師になった時、そういう人達のケアをどうしたらいいのか今は全然わからない。だから学生の間に医学以外の部分も学んで考えなければならぬと思った。( 女子 )

将来自分が希望する病院という職場の様子を 1 年生という早い時期に体験できたのは良いことだと思う。モチベーションが高まったというより将来に対する不安のほうが高まったが、それもある意味で収穫だと思った。( 男子 )

自分のできることの少なさにとても悔しい思いをした。この悔しさをバネにこれからの勉強をがんばっていききたい。( 男子 )

患者ではない立場から働く医師の姿を見て、入学当初よりもますます医師になりたいという気持ちが強くなりました。( 男子 )

苦しんでいる人を助け介護するという奉仕の精神が足りないと感じた。学生の間に勉学はもとより、ボランティアなどに参加してこの精神を育てていきたいと思った。( 男子 )

医学の知識はもちろんのこと、患者への対応能力が看護師さんや医師に比べはるかに低いことがわかった。しかし、今後医学を学んでいくことで自信を持って対応できるようになると感じた。( 男子 )

( 医学部現況調査表 )

**看護学科**

「基礎看護学実習Ⅰ」に関する看護学科学生からのコメント  
(平成 17 年度看護学科 1 年)

ICU で働く人たちは、常に患者の側にいて、何よりも命を助けることを優先に考えていることがすごく実感できた。

輸血部では、血液成分の種類によって保存方法や有効期間が異なるということを知って驚いた。

私達が看護師を目指すうえで、貴重な体験ができたと思います。

(平成 18 年度看護学科 1 年)

ICU では他病棟との違いが大きく、治療しやすい環境になっていることがよくわかり、それだけ命の危険と隣り合わせの場所であることがわかりました。

薬剤部では、薬の調合だけでなく安全のための工夫がたくさんされていることがわかった。私も看護師になったら安全を第一に考えたい。

(平成 19 年度看護学科 1 年)

リハビリテーション部では様々な最新機器を使い、充実したりハビリが行われていた。リハビリは PT、OT、ST と患者の信頼関係で成り立っていると思った。

救急部、輸血部見学：どの部も人々の命を預かっているということで、非常に責任重大であると感じました。特にダブルチェックは欠かせないということもわかりました。

病院は、看護師や医師をはじめとする、医療従事者だけでなく様々な人の共同から成り立っているのだとあらためて実感した。



検査部 スパイロメーター体験



看護部 見学記念撮影



(医学部現況調査表より)

資料 1-4-5 「看護学入門」の概要

1. 学習目的

大学生活の初期段階で、看護学を学ぶにあたって必要な基本的知識・技法を習得する。

2. 授業内容

回	項目	内容	担当教員
1	大学で何を学ぶのか(1)	看護大学で学ぶことの意味	岩田・上野
2	大学で何を学ぶのか(2)	カリキュラムと学習方法について	佐々木(綾)
3	大学での学び方(1)	情報処理技術(図書館の利用法)	学術情報課
4	大学での学び方(2)	レポートの書き方, 文章の書き方	月田, 上原, 麻生, 瀬戸
5	大学での学び方(3)	先輩(在校生)からのメッセージ(ワークショップ)	月田, 上原, 麻生, 瀬戸
6	大学での学び方(4)	看護学生に必要なマナー - よりよい人間関係のために -	瀧川
7	卒業後の進路と将来像	看護部長・卒業生との交流 (ワークショップ)	橘, 月田, 上原, 麻生 瀬戸
8	まとめ	自己の学生生活の目標と将来について(プレゼンテーション)	月田, 上原, 麻生, 瀬戸

3. 到達目標

1. 看護大学で何を学ぶのか理解できる。
2. 看護大学における具体的な学び方を理解できる。
3. 看護学生としての基本的マナーを身につける。

(事務局資料)



計画 1-5 **ウエイト** 「探究的課題解決能力形成に資するカリキュラムの編成を進める。」に係る状況

教育地域科学部では、実践的な課題に対する探求と実践の力を涵養する「地域と協働する実践的教員養成プロジェクト」（平成 15 年度特色 G P 採択）【資料 1-5-1】として、「探求ネットワーク」、「ライフパートナー」及び「教育実践研究」を実施している。これらの取組は、学生・学校担当者など関係者から高く評価されている【P24～27 資料 1-5-2～5】。

資料 1-5-1 地域と協働する実践的教員養成プロジェクトの概要

**平成 15 年度特色 GP 「地域と協働する実践的教員養成プロジェクト」採択理由（抜粋）**

「ライフパートナー事業」と「子供たちの探求のコミュニティーを支える探求ネットワーク」の 2 つのプロジェクトは、現在の家庭・学校、地域社会が抱える問題に、大学が主体的に取組むことで地域貢献しつつ、教師の力量形成を促すという両面を追及する仕組みとなっており、他の教員養成系の大学・学部にも応用・展開できる先進的な事例として、優れた特色ある教育活動と認められる。

地域と協働する実践的教員養成のプロジェクト群

（本学HP「特色ある教育活動等」より）

ライフパートナー事業は、学生が不登校児の家庭や相談室等に出かけ、共に話し遊び学習の援助者になる活動である。この活動は授業によってサポートされ、教育委員会や現職教員が参加したケース検討会を行っている。

一方、探求ネットワーク事業は、子どもの主体的な学習活動を学生が援助する。隔週土曜日に子どもたちが大学に集まり、学生と1年にわたって活動を続ける。学生は授業の中で活動を企画し準備を行い、学生と教員による発表の場を設け、他大学を招いた公開討論会で毎年成果を発表している。

ライフパートナーと探求ネットワーク活動

**コア科目の設定・年間を通じた実践と事例研究・チームティーチング**

基本的な講義の担当者が参加 **大学の講義** **形式知**

事例研究と実践が連動したコア科目の設定 **討議の場** **事例研究**

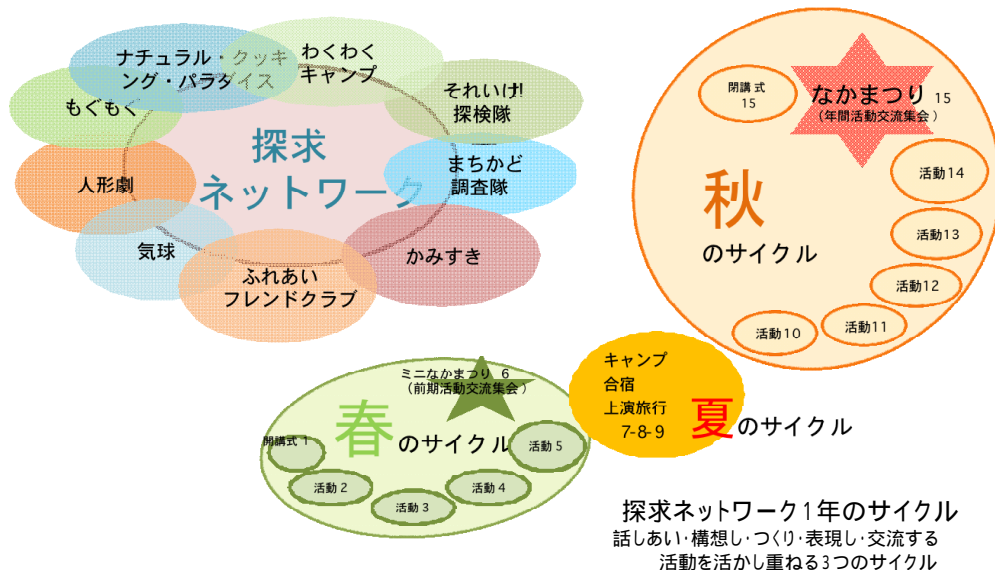
**実践の場** **暗黙知**

授業づくりの実習（4年間の教育実習）授業を委員会が運営	教育相談生徒指導個別援助の実習地教委と連携	主体的な学習活動への援助援助者の協働形成の実習
<b>教育実践研究</b>	<b>ライフパートナー</b>	<b>探求ネットワーク</b>

（平成 19 年 3 月「G P 報告書」より）

1-23

探求ネットワークのブロック ～ 9つのテーマ9つのコミュニティ～



探求ネットワーク参加者の推移

ブロック	平成15年度		平成16年度		平成17年度		平成18年度		平成19年度	
	子ども (人)	学生 (人)	子ども (人)	学生 (人)	子ども (人)	学生 (人)	子ども (人)	学生 (人)	子ども (人)	学生 (人)
わくわくキャンプ工房ブロック	70	20	27	13	27	21	27	25	37	19
それいけ!! 探検隊ブロック			20	14	22	17	27	19	32	20
ナチュラルクッキングパラダイスブロック			30	13	29	19	32	20	27	17
ふれあいフレンドクラブ	34	32	34	33	29	31	30	44	36	19
福井まちかど調査隊ブロック	17	12	15	13	19	20	21	16	24	16
かみすきブロック	18	12	20	10	25	16	26	15	27	38
気球ブロック	22	19	25	15	37	20	33	20	26	18
人形劇ブロック	36	13	34	18	31	21	30	17	36	21
もぐもぐブロック	39	15	36	15	32	21	40	20	28	16
計	236	123	241	144	251	186	266	196	273	195

探求ネットワークに対する学生の評価（受講した学生からの意見）

・探求2年間を通して、大きく二つのことを学ばせてもらったと思う。それは、子どもたちと活動自体の可能性である。子どもたちの限界を私たちが決めてしまうのではなく、子どもたちから意見や考えを引き出すことが、よりよい活動を行うためにとても大切だと感じる。また人形劇を作る活動から、人形劇の質の向上だけでなく、子ども同士、子どもとスタッフとの関係から生まれる信頼関係や相互の学び合いも大切にしなければならぬと感じた。p.114

・最初、何もわからないまま探求ネットワークに参加して、子どもたちと関わり、活動をより良くしようと考え、そして他の人たちと協力することなど様々なことを学んだ。やはり、活動では子どもたちと接して自分が行った行動を後悔することも多くあった。しかし、それは他のスタッフに相談することができたし、活動を行って行く中で、それを埋めることができた。探求ネットワークの魅力は、子どもたちとの活動であることは間違いないが、失敗したことを他のスタッフに相談できること、そして活動に活かしていくことができることだと思う。p.154

・この3年間の活動を通し、子どもたちとの関わりだけでなく、スタッフ間での関わりや、ブロックとして、係として、3年生として活動を企画していく中で、子どもと共に活動を創り上げる姿勢や、ねらいに向かった活動の組み立てなど、学ぶものが沢山あった。また（通信係の）長という役割を経験したことで、スタッフ同士の連携、助け合いの中で全体の活動をサポートしていくという側面を肌で感じる事ができた。これほど多くのことを感じ、考えながら多くの人と関わりあって過ごすことができ、この活動に携わってきて本当によかったと感じる。p.216

（「平成19年度探求ネットワーク報告書」より）

資料 1-5-3 ライフパートナーの授業計画と関係者の評価

「学校教育相談研究」授業計画

回数	日時	学校教育相談研究		学校教育相談研究（幼児理解）	
		内 容	担 当	内 容	会 議
1	10月3日	オリエンテーション	TA全員	学校教育相談研究 と合同	有
2	10月10日	講義 発達障害を考える1（中村）	中村	学校教育相談研究 と合同	
3	10月17日	ケースカンファレンス1（各自7-9月の経過報告と問題）	TA全員	学校教育相談研究 と合同	有
4	10月24日	至民中学校の授業研究会への参加（見てみよう公立中学校）		学校教育相談研究 と合同	
5	10月31日	講義 発達障害を考える2（松木）	松木	講義 幼児理解1（岸野）	
6	11月7日	シンポジウム（ライフパートナーを考える）	TA全員	学校教育相談研究 と合同	有
7	11月14日	月曜授業			
8	11月21日	講義 不登校と発達障害を抱える学校（淵本・上野）	TA全員	学校教育相談研究 と合同	
9	11月28日	地域別・グループ別相談会（淵本・上野・岸野・中村）		講義 幼児理解2（岸野）	有
10	12月5日	講義 不登校と発達障害を考える（廣澤）		学校教育相談研究 と合同	有紹介
11	12月12日	ケースカンファレンス2と事例報告1（坂井郡）	TA全員	学校教育相談研究 と合同	有
12	12月19日	テレビ授業報告1（工学部）と事例報告2（福井市）	TA全員	学校教育相談研究 と合同	有
13	1月9日	テレビ授業報告2（工学部）と事例報告3（丹南地区）	TA全員	学校教育相談研究 と合同	有
14	1月16日	テレビ授業報告3（工学部） レポート作成のための会議	TA全員	学校教育相談研究 と合同	有
15	1月23日	ケースカンファレンス3とレポートの書き方	TA全員	学校教育相談研究 と合同	有
16	1月30日	レポートの最終確認と提出	TA全員	学校教育相談研究 と合同	有
17	2月23日	ライフパートナー体験発表会			有
18		午前 10時より12時まで 全体発表 大2講義室 コメントータ（ 大学教授・特殊教育センター長・相談 午後 13時より16時まで 各市町別発表 11・12・13・14講義室			

注意：工学部学生は、学校教育相談研究を受講します。工学部学生はテレビ授業報告を行います。テレビ授業は前期・後期合わせて2回、事例報告では、2名報告してもらいます。その後ケースカンファレンスを行います。

ライフパートナーに対する学校担当者の評価（受入教員の担当，学校種，当該児童，生徒がかかえる問題）

- コミュニケーション能力の不足が原因と思われる当該児童にとって登校を促さず、一緒に遊んだり活動してくれたりする大人として、ライフパートナーの存在は非常に大きかった。（担任，小学校，不登校）
- 相談室登校の児童たちなのでストレスが多く、その発散として、身体を動かすことを望んでおり、いつもその相手をしてもらっています。時には委員会活動を一緒にしてもらったり、時間を延長して相手になってくれたり感謝しています。（教頭，小学校，不登校）
- 本人の話し相手になってくれたことが大変よかったように思う。担任に言えないことでも気軽に話せる場所があった。（担任，小学校，軽度発達障害）
- 当該児童の良さ（長所）を引き出したり気づいたりしてくださり、ありがたかったです。ゆっくりと優しく、当該児童のペースに合わせて支援してくださいました。（担任，小学校，軽度発達障害）
- 体調がすぐれず外出することが少ないため、母親以外の人と話す機会が少ない。そのため、年の近いライフパートナーの方と過ごす時間は大変有効であった。生徒の表情も大変わらわらしていたようである。（教育相談担当，中学校，不登校）
- 引きこもりがちになっている児童にとって外部の人とのコミュニケーションはよい刺激になったようだ。友人的な関係がよかつたのだと思う。（担任，小学校，不登校）
- 不登校生をお願いしたところ、上手に対応していただき、集1回登校できるようになりました。学生ならではの対応で対象生徒の笑顔がたくさん見られました。ありがとうございました。（教育相談担当，中学校，不登校）
- 基礎的な内容をきちんと板書し、一つ一つ確認しながら学習を進めていただき、ご自分の専門分野の魅力を生徒に伝えてくださったと思います。（教育相談担当，中学校，学習上の問題）
- 当該生徒が病気で急に欠席した際、相談室の他の生徒7～8人を対象に、理科のある単元の内容について解き方を説明してくれたことが何回かありました。大変分かりやすく、上手に説明してくれたので、生徒たちは一生懸命2時間ぶっ通しで取組んでいました。（教育相談担当，中学校，不登校）
- 最初は自宅からつれだす、適応教室へ、たまには単発的に行く学校への連れ添いなど、担任の大きな手助けとなった。（適応教室指導教員，中学校，家庭の養育上の問題）
- 軽度発達障害により、教室に適應できない生徒の話し相手、体育的活動の相手として、とても助けになりました。（教育相談担当，中学校，軽度発達障害）
- 一緒に教室に入ってくれたり、個別に学習を見てくださったりして、大変助かりました。児童もその日を楽しみに待っていて、元気づけられるようでした。ありがとうございました。（教育相談担当，小学校，不登校）
- なかなかみんなどと共に行動できない児童の支援にあたってもらったため、今までは担任がその子にかかりきりになってしまい、他の児童への指導が行き届かない面が多かったが、その問題点がずいぶん改善された。（担任，小学校，無回答）
- 担任とは違う視点から子どもを観察し、子どもの様子を伝えてくれたこと、1時間子どもに対応する中でよかったこと、悪かったことを含め、しっかり反省を語ってくれたことがよかった。（担任，小学校，軽度発達障害）

（平成15年度特色GP「地域と協働する実践的教員養成プロジェクト」実施報告書，平成19年3月）

資料 1-5-4 教育実践研究 の授業計画と学生の評価

教育実践研究 の授業内容

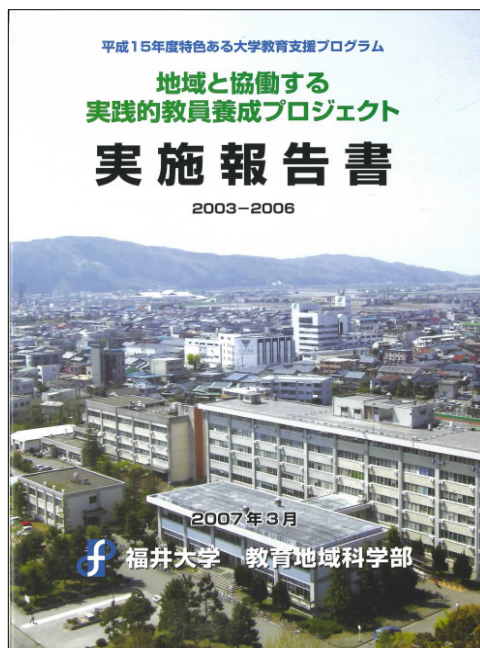
実施日時・場所	教育実践研究（事後学習）授業内容 (3年生 必修1単位)
10月6日(金) 10:30~12:00 第1教室	全体的なオリエンテーション(授業の趣旨と計画) 第1回「グループでの省察」(附属小・附属養護はクラス, 附属中は教科) 省察の内容 ・主免実習4週間(教育実践研究)の振り返り e-ポートの反省も) ・3年間の教育実践研究の振り返り ・自分の教科に関する授業や教職関係の授業(探求ネットワークやライフパートナーなど), さらにボランティア活動の子もたちとのふれあいの振り返り 個人省察レポートの準備
10月13日(金) 10:30~12:00 第1教室	第2回「グループでの省察」(附属小・附属養護はクラス, 附属中は前半が教科, 後半がクラス) ・個人レポートをもとにグループで省察(附属中は教科, クラスともグループで振り返る) 次回までの課題(4テーマを示し, どのテーマで自分の実践をまとめるか考える)
10月27日(金) 10:30~12:00 第1教室	附属学校の指導案, 実習録の返却 4つのテーマについてグループで考える(A授業・教材づくり, B学級・学校づくり, C子ども理解, D教師のありか) (グループ: 附属小・附属養護はクラス, 附属中は教科) 自分のレポートテーマを決定して提出。次回までに個人レポートを作成する。 ・個人レポートは, A B C Dの4つの大きなテーマの中で, 個別に独自テーマを考え, 自分の学習・実践のプロセスを る。 ・独自テーマ・テーマ設定の理由 自分の実践の展開の省察(1年から3年までまとめ ・A 4サイズで枚数自由, 各自5部印刷して持参すること。
10月28日(土) 13:00~16:30 アカデミーホール および1号館	教育実践センターの公開シンポジウムと教育懇談会に参加 第1部 公開シンポジウム「理想の教師像を語る」 第2部 客員教授との教育懇談会(指導力不足教員と指 導的な学習指導のありかたを考え/簡単な科学工作で子どもとの距離を縮め/教師と子どものより良い人間関係づくりのため一人ひとりのニーズに即した学校教育の進め方と教師に求められるもの 心育での視点-臨床心理士の試み)
11月1日(水) 10:30~12:00 第1教室	10月31日から評価表を教務係で配布。 4つのテーマで新しいグループに分かれ, レポートを読みあう。グループは小・中・養の混成グループ。レポート作成で, 教科教育・教科専門 教員の指導を受ける。
11月10日(金) (同上)	全体会では, 附属の実習担当教員に実習に関する感想, コメントをいただく。 4つのテーマで新しいグループに分かれ, 練り上げたレポートを読みあう。グループごとに共同レポート作成に向けてる。(1.テーマ設定 2.テーマ設定の理由 3.テーマに基づいたそれぞれの実践の省察.まとめ)
11月17日・24日 12月1日(金) (同上)	共同レポートの作成
12月8日(金) (同上)	共同レポートの発表会 附属学校の担当教員, 実習校担当の大学教員, 教科教育・教科専門教員の参観。 最終レポートをポートフォリオに収録することを学生に指示する。

教育実践研究に対する学生の評価(学生の省察レポート)

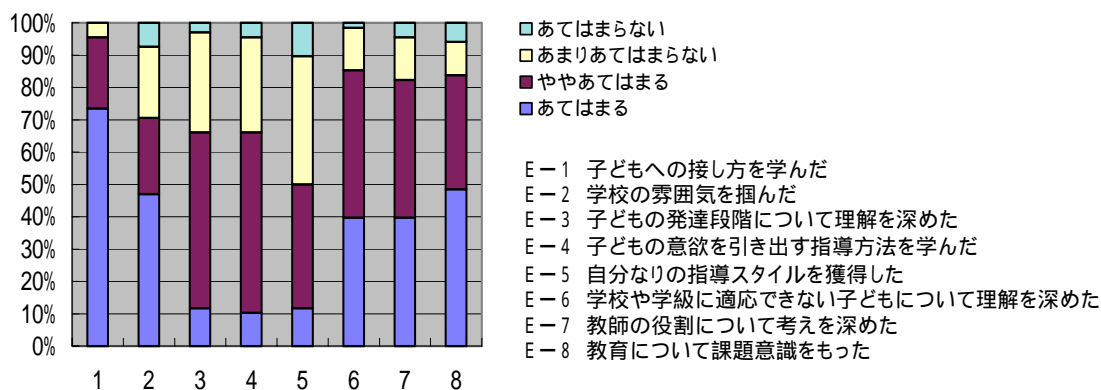
3年間を通して, 私は普段経験できないような場を沢山与えられ, とても意義のある活動を積み重ねてきた。探求ネットワークでは, 子どもの主体性を重視した教師の在り方を, ライフパートナーでは, 教師と子どもの信頼関係の脆さと, その重要さを感じた。そして, 何より, 教育実習では, ベテランの先生方の指導観に触れら, 教師の熱意の大切さを学んだ。そして, 熱意を持って子どもに向かっていけば, 子どもにきちんと伝わり受け入れてくれるのだという事を, 自らの行動で実感する事ができた。

教育実習では私は6年生のクラスに入りました。今回この実習を通して子どもを理解するということはとても大切だということがわかりました。実習に行くまではいかに子どもたちがおもしろいと思う授業をするかということを中心に考えていました。しかし, 実習を終えた今では, 子どもが授業中にいったいどのような考えを持ち, 何を学んだかということのほうが大切なのではないかと思うようになりました。つまり実習に行くまでは教師がいかにうまく授業を進めるかという教師中心の考えだったが, 実習を終えてからは, 子どもがどのように考えているかといったような子ども中心の考えになりました。

資料 1-5-5 「地域と協働する実践的教員養成プロジェクト」の成果



【設問】ライフパートナー活動で学んだこととは何か？



接し方についての自分の変容

「子どもの意見をできるだけ聞くようになった」、「子どものつぶやきに耳を傾けるようになった」、「子どものがんばりを見つけ出せるようになった」という回答が多く、ライフパートナーを経験することで、子どもを受け入れながら話を聞くという、教育相談の基本を身に付けていることがわかる。

ライフパートナーで学んだこと

子どもについて、接し方や不適応な児童生徒について理解するようになり、また教育についての課題意識や教師の役割についても深める機会になっている。

(地域と協働する実践的教員養成プロジェクト実施報告書)

医学部では、課題探求・解決型学習法である「チュートリアル教育」の積極的かつ効果的な導入によって、課題探求・解決能力を学生に涵養した。この取組に対する学生の評価も高く、さらに当該教育の導入によって学生の探求的課題解決能力が向上した【資料 1-5-6～8】。

## 資料 1-5-6 テュートリアル教育の概要

## 医学科チュートリアル教育科目

- ・入門チュートリアル（1年）
- ・チュートリアル（基礎医学系）（3年）
- ・循環器系チュートリアル（3年）
- ・消化器系チュートリアル（3年）
- ・神経系チュートリアル（4年）

## 学習目標

1. 自分の力で課題を発見し、自己学習およびグループ学習によってそれらを解決する能力を身に付ける
2. 多くの情報の中から、重要で必要なものを選び出し、理論的にまとめ、自分の考えと共に、分かりやすくプレゼンテーション・コミュニケーションする能力を身に付ける
3. 修得した医学知識の確認・深化をはかる。

## 実施概要

入門チュートリアル(第1学年後期)、チュートリアル（第3学年前期）及びチュートリアル（第3学年後期～第4学年前期；循環器系、消化器系、神経系）の3回に分けて行われる。入門チュートリアルはチュートリアル 及び のための準備教育として位置づけられ、チュートリアル教育の進め方・学び方の習得、自学自習の態度・技術の習得、グループ内での討論・発表の能力・技術の習得が主たる目標である。チュートリアル では、基礎医学的な課題が与えられ、さらに、チュートリアル では、将来実際に経験するであろう臨床的な課題が学生に提示される。学生は、この時まで学んだ基礎医学の知識を十分生かして臨床的な課題に取り組む。この過程を通して基礎医学知識の応用展開能力が培われ、臨床医学の学習への強い動機づけがなされることになる。なお、チュートリアル は従来型の講義形式と組み合わせた統合型科目となっている。

## 実施方法

- ・構成人数・グループ数：13 グループ(各グループ7または8名)
- ・使用チュートリアル室：13室
- ・課題数：2課題(入門チュートリアル)、1課題(チュートリアルIおよび )
- ・チューター数：延べ78名(13グループ×6課題)



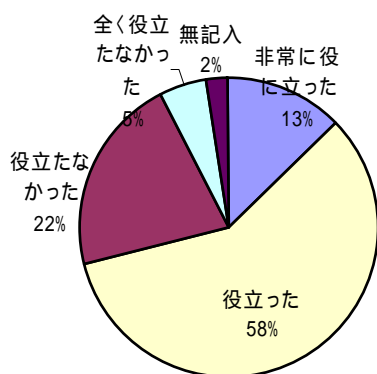
チュートリアル教育風景

(事務局資料)

資料 1-5-7 テュートリアル教育に対する学生の評価

【設問】これまでに履修してきた入門テュートリアルおよび基礎系課題のテュートリアルは、学習法の観点からみて役立ったと思いますか？

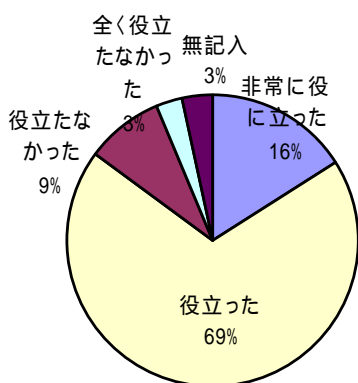
「循環器系」テュートリアル



評点	回答者数
非常に役に立った	12
役に立った	54
役に立たなかった	20
全く役に立たなかった	5
無記入	2
合計	93

(回収率 100%)

「消化器系」テュートリアル



評点	回答者数
非常に役に立った	15
役に立った	64
役に立たなかった	8
全く役に立たなかった	3
無記入	3
合計	93

(回収率 84.3%)

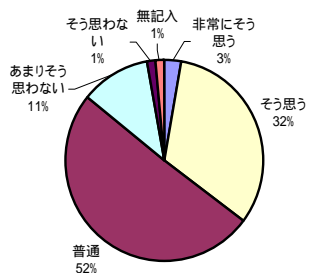
(医学部現況調査表より)

資料 1-5-8 「チュートリアル教育」による成果

チュートリアル教育導入前

【設問】問題を見つけ、それを自ら解決する能力を習得できましたか？

19 年度・6 年次生（旧カリ）



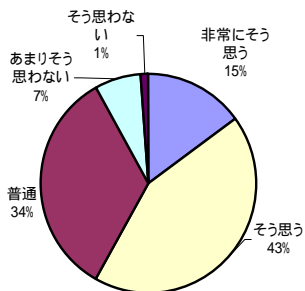
	回答者数
非常にそう思う	2
そう思う	23
普通	36
あまりそう思わない	8
そう思わない	1
無記入	1
合計	71

(回収率67.6%)

チュートリアル教育導入後

【設問】これらチュートリアル教育によって、「課題を見出し、さらにそれを解決する」力を養うことができましたか？

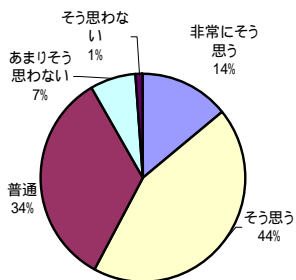
18 年度・4 年次生



	回答者数
非常にそう思う	13
そう思う	37
普通	29
あまりそう思わない	6
そう思わない	1
合計	86

(回収率82.7%)

19 年度・4 年次生



	回答者数
非常にそう思う	12
そう思う	37
普通	29
あまりそう思わない	6
そう思わない	1
合計	85

(回収率81.7%)

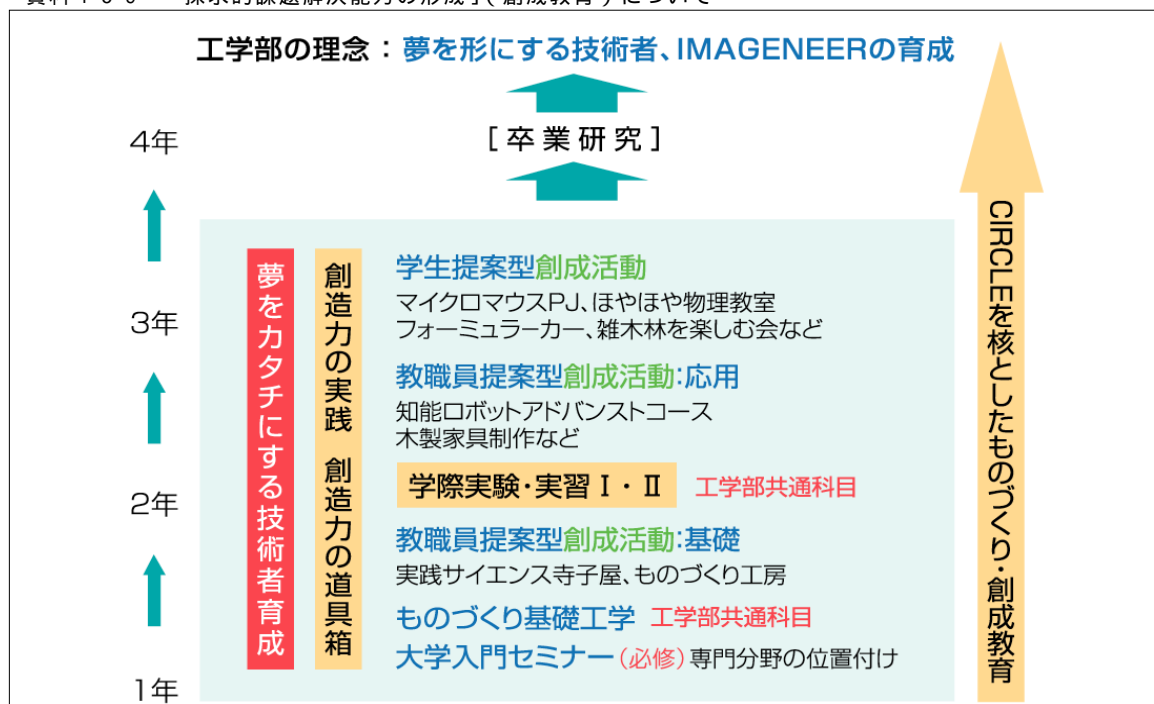
チュートリアル教育導入前後の学生に対するアンケート結果では、導入に伴い「課題探求・解決型」能力の修得について「修得できた」と回答した学生は35%から58%に増加している。さらに、過半の学生はチュートリアル教育が適切であると回答している。なお、チュートリアル教育科目をすべて履修した4年生を調査対象とした。

(医学部現況調査表より)



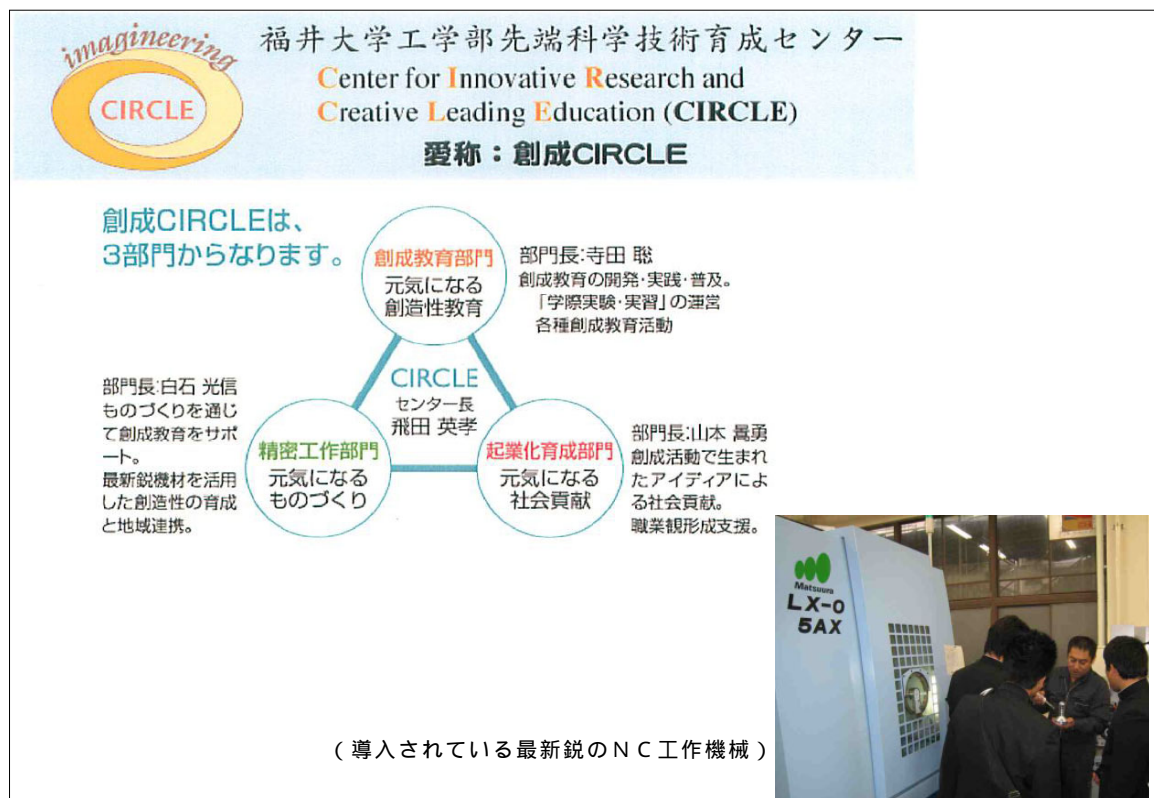
工学部では「課題提案能力」や「探求的課題解決能力の形成」(創成教育)【資料 1-5-9】の涵養を目的とした「先端科学技術育成センター(創成教育部門)」【資料 1-5-10】を平成 18 年度に設置した。さらに、平成 17 年度現代 G P「地域教育活動の場の持続的形成プログラム」【P32 資料 1-5-11】の実施や「学際実験・実習」【P33 資料 1-5-12~13】の新設によって、創造力の涵養を推進した。

資料 1-5-9 「探求的課題解決能力の形成」(創成教育)について



(先端科学技術育成センター資料)

資料 1-5-10 先端科学技術育成センターの概要



(先端科学技術育成センター資料)

「地域教育活動の場の持続的形成プログラム」採択理由 抜粋

地域社会における大学の地域教育活動の受け皿としての「場と組織」作りにおいては、一人の中心的教員が上から学生に働きかけという手法に依存するのではなく、地域からの要求を受けて学生自身が自主的に活動し、それが組織化されるというボトムアップ型の展開が見られ、高く評価される。

「地域教育活動の場の持続的形成プログラム」では、大学に隣接する田原町商店街を中心とした町全体を地域教育活動の場と位置づけ、大学生と地域住民とが一体となってまちづくりを考えていく。

教員と学生が多彩な研究成果やノウハウを活かす「学際実験・実習」をベースに、多角的に環境まちづくり教育を行っており、平成 17 年度現代 G P にも採択されるなど、関係者からも高い評価を受けている。

平成 17 年度現代的教育ニーズ取組支援プログラム  
地域教育活動の場の持続的形成プログラム

商店街全体を巻き込む「打ち水大作戦」の実施

地域住民と学生との交流組織「雑木林を楽しむ会」の結成

底喰川の拡幅をきっかけとした環境学習・デザインの考察

学生常駐の地域との交流拠点としての「たわら屋」の開設

音楽科学生と子どもたちによるミニコンサートの実施

美術部・美術科学生による銭湯「桃の湯」での壁画作成

( 本学 H P 「特色ある教育活動等」より )

関係者の声

大学生には感謝、感謝の一言に尽きる。田原町デザイン会議の活動のイベントや新聞など活動の全般を担い、なくてはならない存在である。地域貢献度は非常に高い。( 30 代女性 )

若さがあり、瞬発力があり、住民が疲れた時でもしっかり後押ししてくれるから進んでいける。若者の文化も知ることができ、本当にありがたいと思っている。( 50 代女性 )

福井大学生はとても優秀だと思う。イベントや活動が企画立ててできるし、地域貢献している。ツリーハウスや平成 19 年度の L E D のイルミネーションイベントなど、新しい学生が入り集客力の高い空間を創出できた。( 50 代男性 )

とても素晴らしい学生たちに出会え、色々な活動を共にし、自分自身の向上心を引き出してくれたことに心から感謝している。学生たちが企画から運営まで担ってくれるので地域貢献度は非常に高い。( 50 代女性 )

田原町のイルミネーションのイベントで雑木林での L E D の装飾を合同で行い、住民の方をはじめ色々な方がほめてくれ、好反応を得られたことがうれしかった。( 学生 )

田原町の子どもやお店の人も顔見知りになり、買い物に行くと「お姉ちゃん」と慕ってくれるなど、住んでなくても受け入れてもらえる人間関係がある。自分が住んでいる所では近所の人知らないが、田原町で受け入れてもらえることが嬉しい。( 学生 )

地域へ出て他学科や市民との交流、田原町デザイン会議との企画会議を通じて、知らなかった範囲が見えてきたのが新鮮だった。これからもたわら屋と連携して自発的に地域に出て行く場をつくりたい。( 学生 )

( 平成 19 年度「地域教育活動の場の持続的形成プログラム」活動報告書より )

資料 1-5-12 創成教育（「学際実験・実習」）の概要

「学際実験・実習」の履修について

1. 「学際実験・実習」の目的

これは学生の自主性と独創性、かつ総合的に問題を解決し、実践する能力を養うことを目的とする新しい科目です。自分の専門分野の知識をもとに、他学科の学生や教員と交流を深めながら問題を解決することを試みます。

2. 「学際実験・実習」の内容

学際実験・実習Ⅰと の科目構成で、三つのテーマが設けられています。

1) 知能ロボット

知能ロボット（自律型の歩行ロボット）の構想・設計・開発、そして発表を行います。

2) デジタルクリエイター

学生自身が設定したテーマに基づいてビデオの企画、制作を行います。

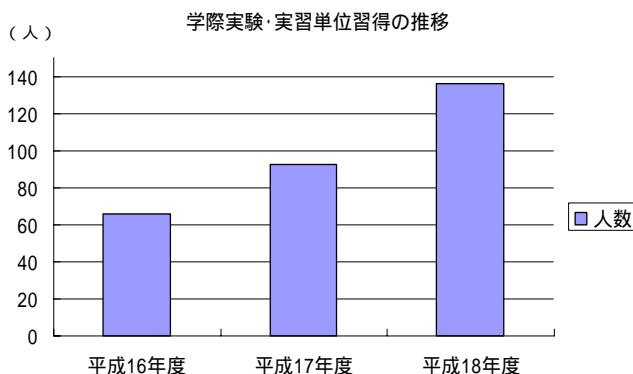
3) エコロジー & アメニティ

私たちの周囲の環境や地域の問題について、実験・実習・現地調査を行い、問題の解決への提案を行います。

3. 履修の方法

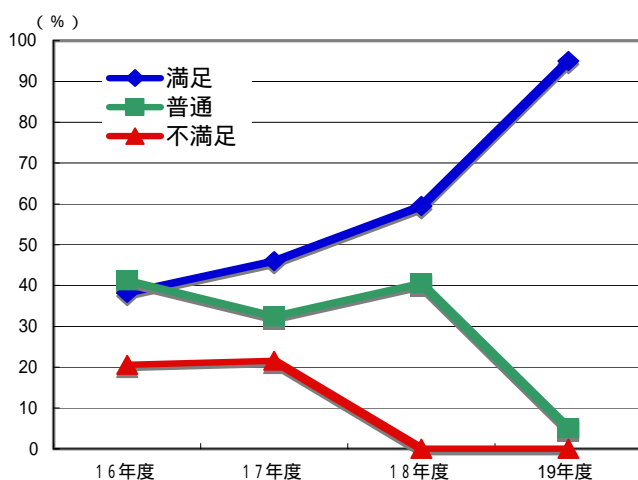
履修者は上の三つのテーマから一つを選び、グループを作って履修します。どの学科の学生も履修できます。課程表では2年前期と3年前期に記載されていますが、4年生も履修可能です。学科を超えてチームを作ります。

実験・実習は主に課程表に指定された時間に行いますが、教員と相談しながら自主的に他の時間帯に行うこともできます。



(事務局資料)

資料 1-5-13 創成教育「学際実験・実習」に対する学生の評価



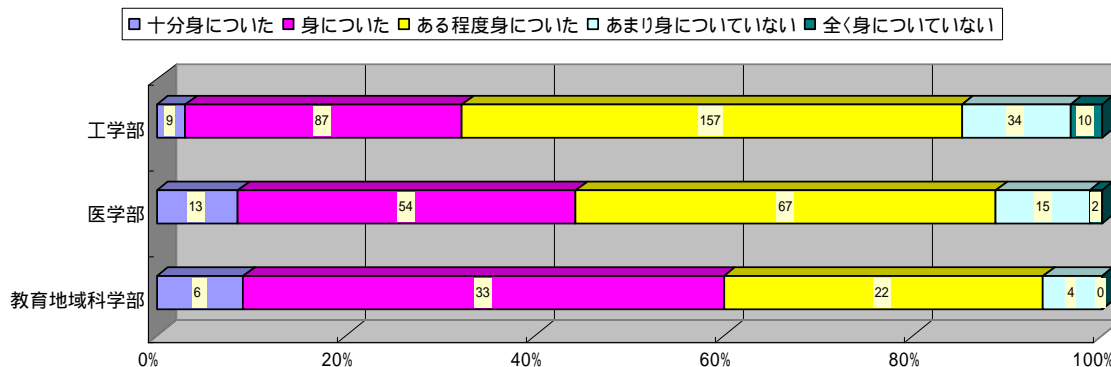
創成教育「学際実験・実習」履修者の満足度は、年々上昇し、平成19年度は95%を越えている満足度は毎年着実に向上している。なお、現在の実験・実習時間の不足に関する意見が多い。

(学際実験・実習実施委員会資料)

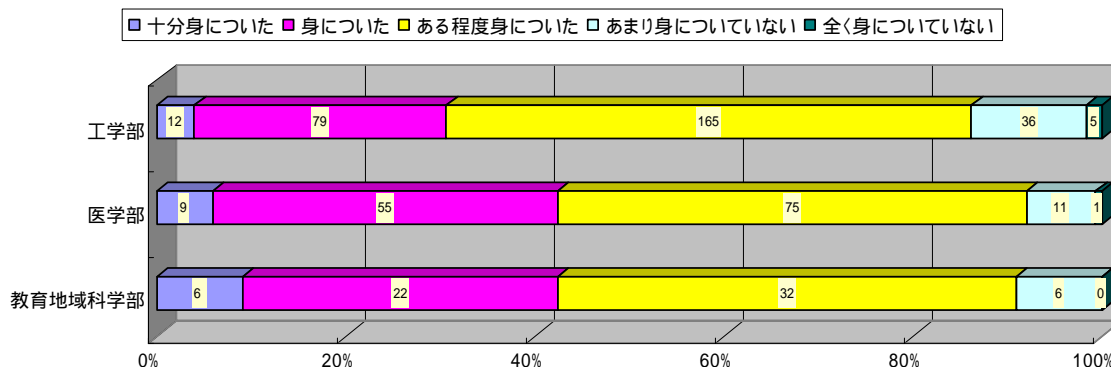
これらの取組によって、探求的課題解決能力の基礎となる「多面的に考える力」「根拠に基づいて考える力」及び「問題を把握する力」が学生に涵養された【資料 1-5-14】。

資料 1-5-14 探求的課題解決能力の涵養について

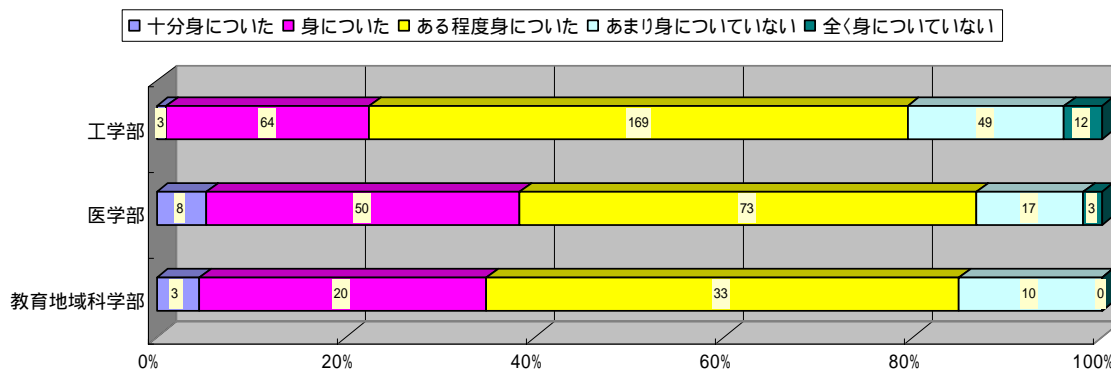
【設問】あなたは福井大学で学習や研究をすることによって広い視野で物事を多面的に考える力がどの程度身についたと思いますか。



【設問】あなたは福井大学で学習や研究をすることによって問題のポイントを素早く押さえ、まとめる力がどの程度身についたと思いますか。



【設問】あなたは福井大学で学習や研究をすることによって論理や証拠を重視し、それらに基づいて考える力がどの程度身についたと思いますか。



(注) 数字は、回答者数を表す。

(平成 19 年度福井大学の教育・研究に対する意識・満足度調査より)

計画 1-6「基礎知識及び基礎技術の確実な習得および到達度を考慮してカリキュラムを点検評価し、改善を図る。」に係る状況

全学部で学生・担当教員等を対象に様々な教育に関する評価アンケート（基礎知識及び基礎技術の達成度調査も含む）を行い【資料 1-6-1～2】，その評価結果に基づき，カリキュラム改善を積極的に推進した【P38 資料 1-6-3】。

資料 1-6-1 カリキュラム等の点検評価実施状況一覧

## 教育地域科学部

評価項目	評価者	実施状況	評価実施時期
学部卒業生・大学院修了者の達成度認識と満足度評価	学部卒業生，大学院修了者	卒業・修了時点における教育地域科学部学生等の達成度の認識と満足度に関する調査	平成 19 年 3 月 27 日卒業式の際
授業評価（「講義」について）	学部学生	専門教育の中で，講義形式の授業を評価	平成 16 年度後期
授業評価（「演習・実験・実習及び実技」について）	学部学生	演習・実験・実習及び実技について評価	平成 18 年度後期
企業による評価	これまでに卒業生を 2 名以上採用している企業 10 社	採用に際して重要視する能力や資質を評価	平成 19 年度

## 医学部

評価項目	評価者	実施状況	評価実施時期
学生による授業評価	医学科・看護学科学学生	すべての科目について担当教員ごとに教育内容・方法等を評価する	定期：最終講義または試験時に実施
医学科教育課程評価	医学科 1 年生	医学科 1 年教育課程の内容・編成等を評価する	定期：1 年後期終了時に実施
医学科教育課程評価	医学科 3 年生	医学科基礎医学教育課程の内容・編成等を評価する	定期：3 年前期終了時に実施
医学科教育課程評価	医学科 4 年生	医学科臨床医学教育課程の内容・編成等を評価する	定期：4 年後期終了時に実施
テュートリアル教育に関する評価	医学科学学生	すべてのテュートリアル教育について，内容等を評価する	定期：各終了時に実施
看護学科教育課程評価	看護学科 1～4 年生	看護学科教育課程の内容・編成等を評価する	随時
看護学実習科目評価	看護学科学学生	すべての看護学実習科目に関する評価	定期：実習科目終了時に実施
CPC・統合講義授業評価	医学科 6 年生	CPC・統合講義の内容・編成等を評価する	定期：6 年講義終了時に実施
教員個人評価	自己評価・同僚教員による評価	教員の教育活動に関する自己評価・同僚評価	定期：平成 19 年より 3 年ごとに実施
教員による教育課程評価	授業担当教員	教育課程の内容・編成等を評価する	随時
シラバスに関する評価	医学科・看護学科学学生	シラバス記載内容，活用状況評価	随時
卒業生による教育課程評価	医学科・看護学科卒業生	医学科・看護学科教育課程全般に関する評価	随時
就職先からの卒業生に対する評価	附属病院，関連病院ほか	医学科・看護学科卒業生に関する評価	随時

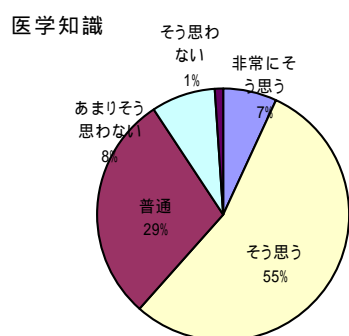
工学部

評価項目	評価者	実施状況	評価実施時期
学生による授業評価	学部学生	各教員 1 科目/年で評価	学期中 2 回，中間後に対応をフィードバック
教育活動評価	同僚教員による教員個人評価	総合データベース，教員の自己申告に基づき評価	1 回/3 年
教員による教育課程評価	教育委員会	大学院教育の実質化について	随時
シラバスに関する評価	卒業（修了）予定者	達成度，満足度評価	平成 19 年度
卒業生による教育課程評価	卒業（修了）予定者	達成度，満足度評価	平成 19 年度
就職先からの卒業（修了）生に対する評価	各就職先	教養，国際性，実験・実習などのスキル・遂行能力等に対する評価	平成 15，19 年度
保護者に対するアンケート	学生，大学院生の保護者	学部，大学院に対する期待について	平成 19 年度

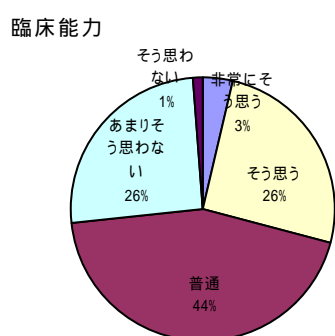
(事務局資料)

資料 1-6-2 学業成果到達度に関する学生のアンケート調査結果例 (医学部)

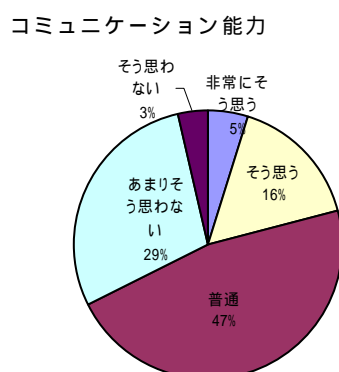
【設問】これまでのカリキュラムの履修状況から考えて，今後のカリキュラムを適切に履修すれば以下の事項が卒業時点で修得できると思いますか？



評点	回答者数
非常にそう思う	6
そう思う	47
普通	25
あまりそう思わない	7
そう思わない	1
合計	86

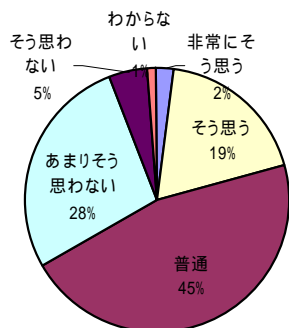


評点	回答者数
非常にそう思う	3
そう思う	22
普通	38
あまりそう思わない	22
そう思わない	1
合計	86



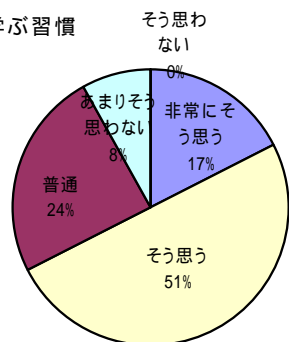
評点	回答者数
非常にそう思う	4
そう思う	14
普通	40
あまりそう思わない	25
そう思わない	3
合計	86

高い倫理観



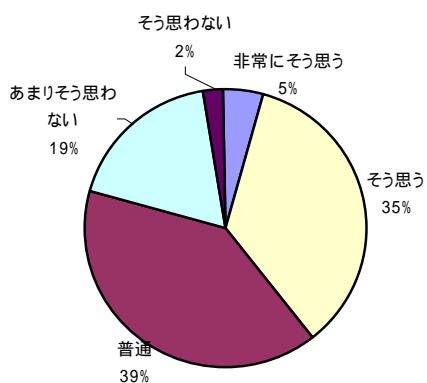
評点	回答者数
非常にそう思う	2
そう思う	16
普通	39
あまりそう思わない	24
そう思わない	4
わからない	1
合計	86

学ぶ習慣



評点	回答者数
非常にそう思う	15
そう思う	43
普通	21
あまりそう思わない	7
そう思わない	0
合計	86

根拠に立脚した実践的医療能力



評点	回答者数
非常にそう思う	4
そう思う	30
普通	34
あまりそう思わない	16
そう思わない	2
合計	86

(注) 臨床実習前の4年生に対する意見聴取結果であり、その後臨床実習や隣州実践病態学等を5、6年生で履修する。

(資料「平成19年度医学科4年生カリキュラム評価アンケート集計結果」より)

【教育地域科学部】

教職経験者以外の講師を追加

- ・平成 16 年度より「教職入門」非常勤講師として教職経験者以外の講師を追加。
- ・平成 16 年度より「教職総合演習」複数の教員ごとにグループで探究・調査・研究時に、共通テーマ「共同の体験と探究をめざして」を設定。

記録と支援体制の改善

- ・平成 16 年度より「学校教育相談研究」を利用したライフパートナー事業で、e-ポートフォリオを用いた記録と支援体制の改善

【医学部】

医学科 1 年 学習効率・学習内容を向上

- ・平成 18 年度より「教養特別講義 1」および「同 2」の追加。
- ・平成 19 年度より「医学入門・概論」中に「医学史（26 時間）」の追加。
- ・平成 20 年度より「入門テュートリアル（60 時間）」を後期 前期に開講時期変更。
- ・平成 20 年度より「医学入門・概論（60 時間）」を前期 後期に開講時期を変更。

医学科 2 年 過密スケジュールの緩和

- ・平成 17 年度より「生体と医動物（54 時間）」を 2 年後期 3 年前期に開講時期変更。
- ・平成 18 年度より「生体と微生物（106 時間）」を 106 時間 80 時間に授業時間数変更。

医学科 3 年・4 年 選択必修科目の履修方法を改善

- ・平成 18 年度よりアドバンストコースを 3 年次終了までに「4 コース（120 時間）以上履修」「2 コース（60 時間）以上履修」することに変更。
- ・平成 20 年度よりアドバンストコースを 4 年次に「2 コース（60 時間）以上履修」「4 年次前後期でそれぞれ 1 コース（30 時間）以上履修」することに変更

看護学科 教育内容全般の向上・改善

- ・平成 20 年度より看護学科教育課程表の改正（旧教育課程表 新教育課程表）

授業方法及び授業内容の改善 【随時】

- ・授業評価アンケート結果を教員に周知し、随時授業方法、教材の工夫などの改善

【工学部】

課題探求型科目の整備・拡充

- ・平成 16 年度より「学際実験・実習」を新設

履修の改善

- ・平成 18 年度より「学際実験・実習」を新設し、学際実験・実習から学際実験・実習へ名称変更した科目とあわせて 2 回まで履修できるよう改善

社会的な要請のある新分野科目を新設

- ・平成 19 年度よりを最先端で活躍する技術者によるオムニバス形式の科目「フロントランナー」を新設

教育内容の改善，科目の再編

- ・平成 16 年度より「機械リサーチ」「機械リサーチ」「機械技術と社会」「機械技術者の倫理」「技術英語」「技術史」「技術者倫理」「地球・都市環境工学」等を新設
- ・平成 17 年度より「ベンチャービジネス概論」を新設
- ・平成 18 年度より「学際実験・実習」「情報数学」を新設
- ・平成 19 年度より「フロントランナー」「科学技術英語特別講義」を新設

（事務局資料）



社会的なニーズの観点から必要とされる基礎知識および基礎技術の確実な修得を図るため、教育地域科学部では、平成 20 年度に地域文化及び地域社会の 2 課程を「地域科学課程」に統合・再編し、カリキュラムの全面的改善・再編を実施した【資料 1-6-4~5】。さらに、医学部看護学科では「より高い看護実践能力の涵養」に対応するため、本邦の看護指導指針に準拠した新カリキュラムを平成 20 年度より学年進行で導入した【P41 資料 1-6-6】。

資料 1-6-4 教育地域科学部における社会ニーズの調査結果

企業を対象にアンケートを実施し、企業が求める人材養成の視点をも踏まえ、学生のコミュニケーション能力を始めとする諸能力を向上させるためにワークショップ型授業を導入した教育課程改善を行った。

企業が学生に求める能力や資質 調査結果

項目	学生に求める能力や資質	得点
1	幅広い知識や教養	5
2	専門的知識や教養	4
3	知識や情報をもとに自分の意見をまとめ、相手に伝える力	15
4	免許・資格	2
5	新しいものや考え方を理解し、取り入れる能力	16
6	社会人として何をやりたいのかについての明確な意識	17
7	周囲の人とのコミュニケーション能力	25
8	異なる考え方や文化を持った人と一緒に活動に取り組める能力	5

これまで卒業生を 2 名以上採用している企業 10 社に対して、採用に際して重要視する能力や資質を質問した。重要度が高い順にそれぞれ 4, 3, 2, 1 点を配して、各項目ごとの得点を集計した。

(教育地域科学部現況調査表)

## 地域科学課程の目標

地域科学課程では、快適な生活環境の形成、地域文化の創造、多様な人々の共生、産業の活性化や自治体行政のレベルアップなど、これからの地域社会が抱える諸課題を的確に分析し、解決の方向を見出すとともに、みずから地域の人たちと力をあわせて解決に取り組む能力と専門知識を備えた人材を養成します。

そのために、従来の地域文化課程（生涯学習コース・異文化交流コース）および地域社会課程（行政社会コース・地域環境コース）の専門領域を継承するとともに、地域社会のあらゆる分野で必要とされる**協働による課題探究・解決能力、コミュニケーション能力、プレゼンテーション能力および基礎的・実践的なスキルを修得**させる新たなカリキュラムを提供します。

### 地域科学課程の教育課程概要



（本学HPより）

資料 1-6-6 医学部看護学科における教育課程の再編

保健師助産師看護師学校養成所指定規則等の一部を改正する省令の公布について(通知)

平成 20 年 1 月  
文部科学省高等教育局長

1. 改訂の趣旨

我が国の看護をめぐる環境は、急速な少子高齢化の進展、医療技術の進歩等大きく変化してきており、看護職員には、より患者の視点に立った質の高い看護の提供が求められている。一方で、看護業務の複雑・多様化、国民の医療安全に関する意識の向上等の中で、学生の看護技術の実習の範囲や機会が限定される傾向にある。

(一部省略)

今回の改正は、これらを踏まえ、看護を取り巻く環境の変化に伴い、より重要性が増していると考えられる教育内容の充実を図り、保健師、助産師及び看護師学校養成所における生徒及び学生の実践看護能力を強化するため、看護基礎教育のカリキュラム改正等を行うものである。

区分	1年		2年		3年		4年	
	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期
基礎科目	人間理解	文学 法学 教養特別講義	芸術学 社会学 文化人類学 心理学 哲学 生命倫理学 教養特別講義	教育学				哲学
		情報処理	情報科学	統計学				
	語学	英語 ドイツ語 フランス語 中国語	英語 ドイツ語 フランス語 中国語	英語	英語	英語		英語
		体育	健康・スポーツ科学					
専門基礎科目	生命基礎科学	生命基礎科学(化学) 生命基礎科学(生物学) 生命基礎科学実験(化学) 生命基礎科学実験(生物学)	生命基礎科学(物理学) 生命基礎科学実験(物理学)					
	健康科学	健康科学論 形態機能論	形態機能論 形態機能論実習 生体反応論 生体反応論実習	疾病論 健康管理論 薬理作用論 成長発達論	疾病論 人間行動論	心理測定論		
		環境科学	生活科学論 環境科学論		疫学・保健統計論	保健医療福祉論 保健医療福祉論		
専門科目	基礎看護	看護学入門 看護学概論	日常生活援助論	看護過程論 看護コミュニケーション論 療養生活援助論	「MAPS」論	看護倫理 リスクマネジメント論		看護管理
	職業時の看護			地域看護学概論	地域看護活動論	地域看護活動論 ケア提供システム論 育児援助論	学校保健論 産業保健論 国際保健論 助産学概論 助産論 助産論	
		健康障害時の看護			成人看護学概論 老年看護学概論	急性期看護活動論 慢性期看護活動論 NIC リンク看護活動論 母子看護学概論 精神看護学概論 老年看護活動論	災害看護論 がん看護論 ターミナル看護活動論 小児看護活動論 母性看護活動論 精神看護活動論 感染予防看護論 発達障害看護論 在宅看護活動論	
	臨床実習	基礎看護学実習			基礎看護学実習		成人看護学実習 成人看護学実習 老年看護学実習 小児看護学実習 母性看護学実習 精神看護学実習 地域看護学実習	助産学実習
	卒業研究							卒業研究

保健師国家試験受験に履修が望ましい選択科目

助産師国家試験受験資格取得に必要な選択科目

看護職として社会から求められている人格の涵養と資質等の向上に対応する科目の開講

- (社会のニーズに対応した科目)  
がん看護論(3年)、災害看護論(3年)
- (学生像の変化に対応した科目)  
看護学入門(1年)
- (高い倫理観を涵養するための科目)  
生命倫理学(1年)、哲学(1年)、哲学(4年)、  
看護倫理(3年)、看護管理(4年)
- (より高い看護実践能力の向上のための科目)  
全ての活動論科目(2~3年)、全ての実習科目(1~4年)

(医学部現況調査表より)

計画 1-7 「単位互換制度などの活用により、履修可能な科目の拡充を図る。」に係る状況

平成 16 年度に締結した「福井県内大学等間単位互換に関する協定についての申合せ」に基づき、県内 6 大学間での単位互換による履修科目を拡充した【資料 1-7-1~2】。さらに、科目拡大にとどまらず、教育研究活動の更なる連携推進を図るため、平成 19 年度に「大学連携リーグ」【資料 1-7-3】を形成した。

資料 1-7-1 単位互換に関する協定締結状況

単位互換に関する協定（福井県内大学等間） 締結日：平成 16 年 3 月 29 日	福井大学、福井県立大学、仁愛大学、仁愛女子短期大学、敦賀短期大学、福井工業高等専門学校
北陸地区国立大学間単位互換包括協定 締結日：平成 17 年 3 月 24 日	福井大学、富山大学、金沢大学、北陸先端科学技術大学院大学
福井大学と福井県立大学との大学院単位互換に関する協定 締結日：平成 18 年 9 月 27 日	福井大学、福井県立大学

(事務局資料)

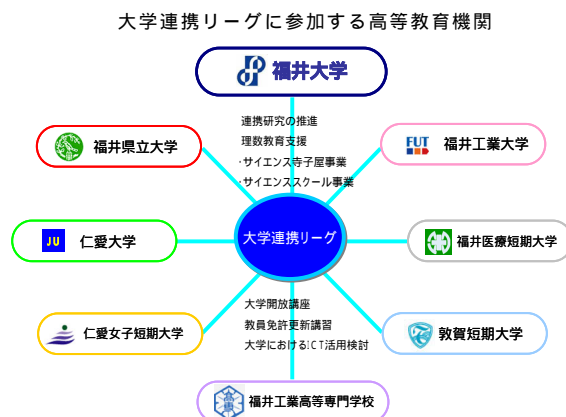
資料 1-7-2 福井県内大学等間単位互換開放科目一覧

年度		共通教育	教育地域科学部	医学部	工学部	合計
平成 16 年度	前期	60	66	56	48	230
	後期	72	79	50	63	264
	合計	132	145	106	111	494
平成 17 年度	前期	60	56	46	45	207
	後期	69	74	47	59	249
	合計	129	130	93	104	456
平成 18 年度	前期	56	52	61	51	220
	後期	67	69	44	56	236
	合計	123	121	105	107	456
平成 19 年度	前期	55	50	62	47	214
	後期	61	71	54	59	245
	合計	116	121	116	106	459

(事務局資料)

資料 1-7-3 「大学連携リーグ」の発足による福井県内の高等教育機関との連携

本学をはじめとする県内 8 大学等が連携協力する「大学連携リーグ」を平成 19 年度に形成し、小・中・高等学校などの地域社会への教育研究推進に貢献している。各大学が連携することにより、従来カバーできなかった分野の課外授業や各大学のシーズを集めた公開講座を開催することが可能となった。



**「大学連携リーグ」が発足**  
8 大学・高専 小中高に課外授業

県立大学が県内の 8 大学・高専専門学校在学が交流して体系的な研究レベルを向上させること「大学連携リーグ」が発足し、20 年度初年度の懇談会があった。県内の小中高校と大学が連携して課外授業に取り組むことなどを申し合わせた。

リーグに参加したのは福井大学、福井県立大学、仁愛大学、仁愛女子短期大学、敦賀短期大学、福井工業高等専門学校、福井医療短期大学、福井工業大学。

懇談会では福井一誠知事が「県内の大学が頼みごとで成長の可能性を高める」とあいさつした。

福井工業大学は「連携研究としては、介護予防など地域のニーズに直接したテーマを取り上げ、200 万円程度に研究費の半額を補助する。小中学校の連携では、冬休み期間中に小中高 2 校に大学教員が巡回し「地域の起こる仕組み」など 10 前後のテーマで 1 校当たり 1 講座を実施。高校については 10 月、来月 3 月に「海洋生物研究」など 6 前後のテーマから高校側が選出し、放課後や休日には大学教員が講義する。

懇談会では「教員の研究内容が分かる人材データベースをつくることは「教員同士の人事交流を促す」となどの意見があり、今後事務レベルで調整することになった。

(事務局資料)

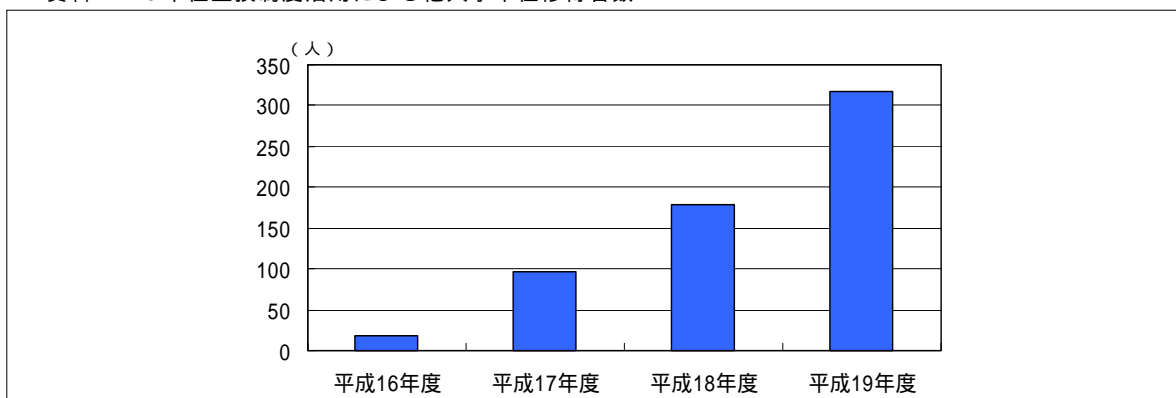
北陸地区国立大学(6大学)間では、平成16年度に単位互換包括協定を締結し、平成17年度に双方向遠隔授業システムを利用した授業を試行、平成18年度から本格実施している【資料1-7-4】。その結果、教養教育・大学院の履修科目が拡大された。これらの取組によって、他大学単位取得者数は年々増加しており、これは履修科目拡大の成果である【資料1-7-5】。

資料 1-7-4 福井大学における双方向遠隔授業システムを活用した授業の開講状況

	授業科目名	受講者数	発信大学	受信大学
平成18年度	法学(医事法入門)(教養教育)	86	金沢大学	福井大学
	バイオテクノロジー(教養教育)	65	金沢大学	福井大学
	総合科目特殊講義「地域と人間」(教養教育)	46	富山大学	福井大学
	先端情報技術の近未来(教養教育)	40	金沢大学	福井大学
	コーヒーの世界(教養教育)	97	金沢大学	福井大学
	繊維製造プロセス制御(大学院)	40	福井大学	金沢大学
平成19年度	法学(医事法入門)(教養教育)	100	金沢大学	福井大学
	バイオテクノロジー(教養教育)	93	金沢大学	福井大学
	コーヒーの世界(教養教育)	92	金沢大学	福井大学
	北陸学総論(教養教育)	50	金沢大学	福井大学
	北陸学各論「北陸の企業と法」(教養教育)	23	金沢大学	福井大学
	総合科目特殊講義「地域と人間」(教養教育)	63	富山大学	福井大学
	現代経営学(大学院)	9	福井県立大学	福井大学
	マーケティング論(大学院)	19	福井県立大学	福井大学
	社会学(共通教育)	(文京)51 (松岡)50	福井大学 (文京キャンパス)	福井大学 (松岡キャンパス)
平成20年度 (予定)	法学(医事法入門)(教養教育)	100	金沢大学	福井大学
	バイオテクノロジー(教養教育)	100	金沢大学	福井大学
	コーヒーの世界(教養教育)	定員100	金沢大学	福井大学
	北陸学総論(教養教育)	定員50	金沢大学	福井大学
	応用数学(教養教育)(後期開講科目)	未定	福井大学	未定
	総合科目特殊講義「地域と人間」(教養教育)	定員100	富山大学	福井大学
	現代経営学(大学院)	定員20	福井県立大学	福井大学
	地球環境工学(教養教育)	(文京)72 (松岡)108	福井大学 (文京キャンパス)	福井大学 (松岡キャンパス)
	社会学(共通教育)	定員100	福井大学 (文京キャンパス)	福井大学 (松岡キャンパス)

(事務局資料)

資料 1-7-5 単位互換制度活用による他大学単位修得者数



(事務局資料)

計画 1-8 **ウエイト** 「インターンシップ制度の積極的活用を通して職業意識を喚起する。」に係る状況

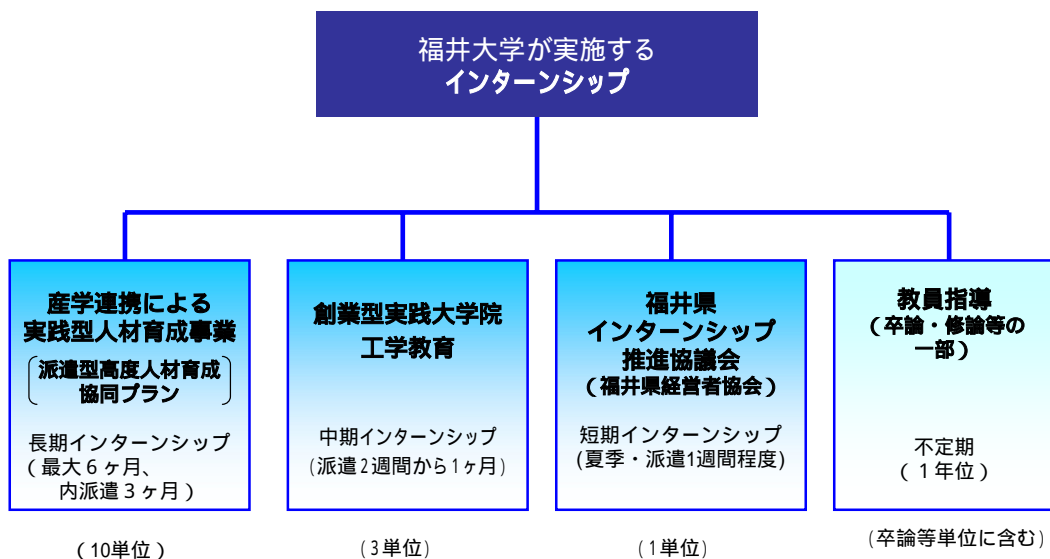
職業的意識を喚起するため、キャリア教育としての単位化を含め各種インターンシップ制度を整備した【資料 1-8-1】。これらインターンシップは短期から長期と派遣期間が異なるものであり、学生がニーズに合わせて選択できることは特記できる。インターンシップの修了者は、法人化後大きく増加した【P45 資料 1-8-2～3, P265 資料 3-1-4】。

資料 1-8-1 インターンシップの構成

大学生が行うインターンシップは、従来から、夏季休業を利用し、「学部学生が在学中に自らの専攻やキャリアに関連した職業体験を行う」短期インターンシップとして、長らく地域産業界の支援の下に実施してきた。また、平成 18 年度からは、国の方針に則り、大学院学生を対象に、高度専門知識の修得と実社会における事業展開力、即戦力の向上を目指した長期インターンシップ及び創業型実践大学院工学教育の一環として技術経営カリキュラムに基づく中期インターンシップを開始した。

現在、福井大学が実施しているインターンシップには、次の 4 種がある。いずれも本学と企業が協同して、実就業と教育研究の融合による研究意識の高揚と社会的視野の拡大を目指す産学連携型教育システムである。

1. 産学連携による実践型人材育成事業（派遣型高度人材育成協同プランに基づく長期インターンシップ）
2. 創業型実践大学院工学教育に基づく中期インターンシップ
3. 福井県インターンシップ推進協議会の下で実施する短期インターンシップ
4. 教員指導あるいは学生の自主性による、企業主催のインターンシップ



大学の単位認定プログラム

(教務・学生サービス課が事務窓口)

(事務局資料)

資料 1-8-2 インターンシップ修了者数の推移

部局等	平成 15 年度	平成 16 年度	平成 17 年度	平成 18 年度	平成 19 年度
教育地域科学部	6	6	21	16	26
工学部（県内）	34	55	57	48	59
工学部（県外）	7	6	8	6	3
合計	47	67	86	70	88

(福井県経営者協会を通してのインターンシップ参加状況)

資料 1-8-3 福井県インターンシップ参加者アンケート

## インターンシップでの体験と就職活動について

- ・ “仕事をする”ということがどういうことか参加することにより経験できたので就職活動に参考になった。
- ・ どのような分野を行っている企業であるか、工場はどのような環境・場所なのか等知らないことを体験できた。
- ・ 自分の考えの甘さや欠点も気づかされた。
- ・ 自分の努力した事を企業にアピールでき、自主的にやることとその大切さを知ることができた。
- ・ 会社の人との接し方や話し方の未熟さを思い知ったし、実際の仕事の厳しさが感じ取れた。
- ・ 会社のイメージをつかむことができた。
- ・ 面接や自己アピールの際にインターンシップで行ったことを発表することができた。
- ・ 企業に対する視野が広がり迷っている時の参考になる。
- ・ 頭の中に描いていた社会人と実際の社会人が違って現実を思い知らされた。
- ・ 業界や社員への待遇重視ではなく、やりがいや職場の雰囲気重視するようになった。
- ・ 自分の働きたい職種について少し体験できた。
- ・ 職種は違ったが、社会の一員としての自覚と責任をもって生活することができた。
- ・ 自分が行きたい企業だったので職場を確認できた。
- ・ 職種について考えさせられたため、企業説明会では疑問に思ったことはすぐ質問するようになった。



インターンシップ参加学生の様子

(事務局資料)

教育地域科学部では、福井県インターンシップ推進協議会実施のインターンシップ制度とともに県内各地域の官公庁・企業等に赴く「地域実践科目」を平成15年度から開講しており、その受講者数は年々増加している【資料1-8-4】

資料1-8-4 地域実践科目インターンシップ派遣について  
地域実践科目の概要

教員免許取得を卒業要件としない地域文化課程と地域社会課程は、地域の文化と社会について、地域に関わる課題を多様な視点から学ぶことを特色としてきた。そのカリキュラムの中核に「地域実践科目」を開講し、大学内での講義にとどまらず、大学外の県内各地域の官公庁、企業や諸団体に赴き、実際の現場の業務に参加しながら、地域で行われている諸活動や諸課題の現実に触れて学ぶとともに、この学びの体験をそれ以降の学生一人ひとりの学習・研究に活かしている。



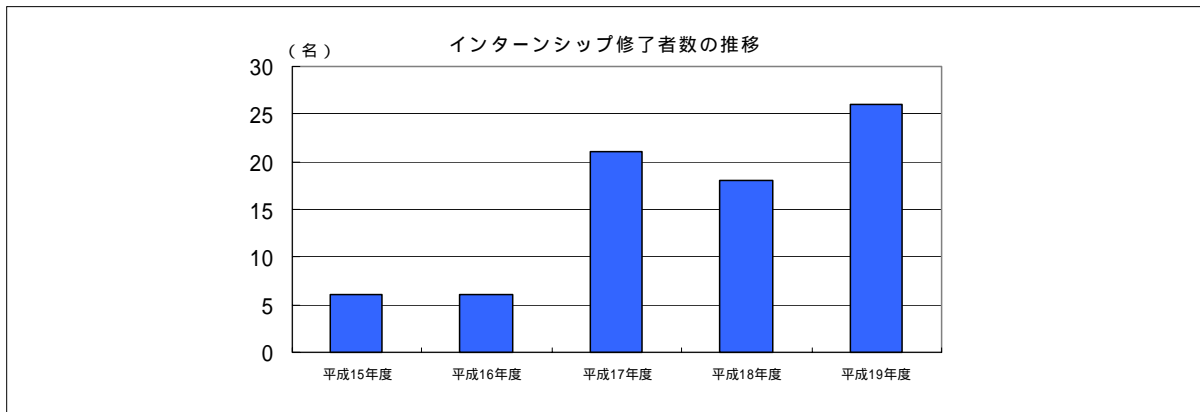
地域実践科目の様子

また、平成20年4月には、地域文化課程、地域社会課程のカリキュラムを見直すと同時に両課程を地域科学課程へ統合し、これまで地域実践科目の中で培ってきた財産を地域課題ワークショップとして継承している。

地域実践科目インターンシップ派遣状況

コース名	平成15年度	平成16年度	平成17年度	平成18年度	平成19年度
生活科学		三国町役場 1			
生涯学習			大野市役所 1		
異文化			福井県文化振興事業団 1 福井放送株式会社 1 福井県奥越高原牧場 1 鯖江市役所 1 福井県立図書館 1 金津創作の森 1 福井県国際政策課 1 福井市みどり図書館 1 株式会社アイビックス 1	福井県立病院2 福井県国際マーケット戦略課 1 福井テレビジョン放送株式会社 1 福井県民生活協同組合 1 福井県立図書館 1 金津創作の森 1 春江図書館 1 敦賀市役所商工観光課 1 株式会社親和コンサルティング 1	福井ヤクルト販売株式会社 1 福井県国際交流協会 1 福井銀行 5 福井県立美術館 2 福井県 税務課 1 福井県国際・マーケット戦略課 1 勝山市役所福祉・児童課 1 福井県文化振興事業団 1 福井市みどり図書館 1
行政社会	福井銀行 1 セーレン 1 ホームみつわ 1	ラブリー牧場 1 マリージョゼ 1 永田司法書士事務所 1 神田司法書士事務所 1 特別養護老人ホーム 1	越前松嶋水族館 1 株式会社日刊県民福井 1 三国町役場 1 福井県文化振興事業団 1 敦賀市役所 市民生活部生活防災課 1 ラブリー牧場 1	永田司法書士事務所 1 社会福祉法人足羽福祉会愛全園 1 財団法人福井県文化振興事業団 1	福井県 販売開拓課 1
地域環境	県衛生環境研究センター 3		福井県雪対策・建設技術研究所 1 福井県海浜自然センター 2 福井県自然保護センター 2	大野市役所 1 福井県自然保護センター 2	福井県雪対策 2 福井市環境事務所 2 福井健康福祉センター 1 福井県衛生環境研究センター 2 株式会社サンワコン 2 福井市園芸センター 1 福井市自然博物館 1
計	6名	6名	21名	16名	26名

インターンシップ修了者数の推移



(事務局資料)



計画 1-9 「大学院への進学率や国家試験等の合格率の向上を目指す指導を行う。」に係る状況

大学院への進学率の向上を図るため、工学部では平成 18 年度に早期履修制度を導入した【資料 1-9-1～2】。教育学研究科および医学系研究科では、大学院への進学率向上を図る一環として、平成 20 年度に大学院カリキュラムを新規に整備した【P76 資料 2-4-1～3】。さらに、平成 20 年度における教職大学院の設置（教育学研究科）【P108 資料 2-2-7】や新規な奨学金の設置（医学系研究科）【P48 資料 1-9-3】は、大学院への進学率向上につながる取組である。これらの結果、大学院への進学率は相応な水準で維持されている【P49 資料 1-9-4】。

資料 1-9-1 早期履修制度実施要項

福井大学大学院工学研究科大学院科目早期履修制度実施要項

1. 制度の趣旨

本学学部在籍学生で、本学大学院工学研究科への進学を志望する特に優秀な者について、その能力の高度な発展を期し、早期に大学院教育に接する機会を提供するとともに、学部と大学院の一貫教育を確立するため、教育上の特例措置として、学部在籍学生の大学院授業科目の早期履修制度を実施するものである。

2. 実施する学科

機械工学科、電気・電子工学科、材料開発工学科、物理工学科

3. 出願資格

本学工学部 4 年次生以上に在学し、卒業研究に着手する見込みの者で、早期履修をしようとする学期開始の前月末までに学部卒業に必要な単位（4 年次生で履修する必修単位は除く。）を全て修得する見込みの者

4. 早期履修可能な科目

別表（博士前期課程教育課程表）指定のとおり

5. 出願手続

1) 出願期間

前期： 4 月 1 日～ 4 月 10 日（土・日曜日、祝日を除く。）9:00～17:00

後期： 10 月 1 日～ 10 月 10 日（土・日曜日、祝日を除く。）9:00～17:00

2) 出願書類

早期履修願書（所定用紙）

成績証明書（直近の学期の成績を含むもの）

既に本研究科の入学試験に合格している場合は合格通知書のコピー

3) 出願場所

学務部教務課教務第一係

6. 選考方法

これまでの工学部における履修状況に基づき、当該学科で審査する。さらに、別表中の「工学研究科共通」科目及び各専攻の「専攻共通」科目以外の科目（講座開講科目）については、授業科目担当者による面接を実施する。

7. 審査結果の発表及び早期履修手続

上記 5 の出願期間終了後 1 週間以内に、当該学科掲示板に掲示する。

8. 成績評価

本制度のための特別な基準は設定せず、通常の大学院科目の基準で評価を行う。

この単位は、学部卒業のための単位としては認定されないため、注意すること。

9. 修得単位の大学院科目としての認定

修得した科目の単位は、翌年度に工学研究科博士前期課程の当該学科を基礎とする専攻に入学した場合に限り、本人の申請に基づき、入学後、大学院工学研究科博士前期課程修了のための単位として認定される。ただし、8 単位を限度とする。

【単位認定申請の方法】

1) 単位認定願の申請時期

4 月上旬の所定日（当該専攻掲示板に掲示する。）

2) 提出書類

単位認定願書（所定用紙）

学部の成績証明書

3) 提出先

教務課大学院係

（事務局資料）

資料 1-9-2 大学院授業科目早期履修者数一覧

**大学院進学者の約 12%が早期履修制度を活用している。**

学 科 名	平成 18 年度		平成 19 年度	
	前期	後期	前期	後期
機械工学科	0	0	0	5
電気・電子工学科	6	9	0	2
材料開発工学科	14	17	4	21
物理工学科	8	3	2	3
合 計	28	29	6	31

(教務課資料より)

資料 1-9-3 大学院医学系研究科基礎医学振興奨学金取扱要項

## 大学院医学系研究科基礎医学振興奨学金取扱要項

〔平成 20 年 3 月 6 日〕  
博士課程委員会

(趣旨)

第 1 この要項は、大学院医学系研究科博士課程における基礎医学系分野(基礎医学及び社会医学系分野をいう。以下同じ。)の研究者育成を図ることを目的とし、当該分野に入学した学生に給付する奨学金について必要な事項を定める。

(対象)

第 2 この奨学金は、日本の医学部医学科を卒業し、かつ、基礎医学系分野に入学し、将来基礎医学系研究者を目指す学生に給付する。ただし、社会人大学院生で常勤職員として本務先を有する者は除く。

(奨学金の申請)

第 3 前項の資格を有する学生が、奨学金給付を希望する場合は別に定める申請書を医学系研究科長に提出するものとする。

(給付の決定)

第 4 医学系研究科長は、奨学金給付の申請があった場合には、博士課程委員会の議を経て、給付の有無を決定する。

(奨学金の額及び給付方法)

第 5 奨学金の額は「国立大学法人福井大学における授業料その他の費用に関する規程(平成 16 年福大規則第 26 号)」に規定する、大学院生の入学金及び授業料相当額とする。

2 奨学金の給付は、学生が入学料または授業料を支払った後、事務が支払い済みであることを確認して当該学生の指定した口座に振り込むものとする。

3 入学料相当額については入学手続き後、授業料相当額については、年額の二分の一をそれぞれ 4 月及び 10 月の授業料納付期間後に支払い済みの確認を行い速やかに振り込むものとする。

(給付期間)

第 6 授業料相当額は基礎医学系分野に入学後 4 年間分、入学料相当額は 1 回限りとする。

2 留学等のため休学した場合は、休学許可期間の給付を中断する。

3 入学後の在学期間が 4 年を超えた場合、または退学した場合は、給付を中止する。

(奨学金の返還)

第 7 奨学金は、返還を要しない。

(事務)

第 8 奨学金に関する事務は、学務部松岡キャンパス学務室において処理する。

(その他)

第 9 この要項に定めるもののほか、実施に関し必要な事項は、医学系研究科長が定める。

附 則

1 この要項は、平成 20 年 3 月 6 日から実施する。

2 この要項により奨学金を給付決定された者が、5 名に達した時点で見直しを行う。

(事務局資料)

資料 1-9-4 大学院進学状況

年 度 等		教育地域科学部	工学部	医学部
平成 19 年度 (H20.3 卒業)	本学大学院	19	234	0
	他大大学院	3	35	3
平成 18 年度 (H19.3 卒業)	本学大学院	17	234	0
	他大大学院	4	25	4
平成 17 年度 (H18.3 卒業)	本学大学院	22	239	6
	他大大学院	6	27	
平成 16 年度 (H17.3 卒業)	本学大学院	20	246	4
	他大大学院	3	27	
平成 15 年度 (H16.3 卒業)	本学大学院	22	261	3
	他大大学院	3	11	

(事務局資料)

教員免許・各種資格試験（教育地域科学部）、医師・看護師国家試験（医学部）の合格率向上のため、国家試験対策を指向した合同講義の実施、国家試験関連図書の優先的購入、助言教員等の配置や試験準備に適した少人数学習用教室の設置など様々な取組を実施した。これらの結果、試験合格者数・合格率は相応な水準で維持されている【資料 1-9-5～6】。

資料 1-9-5 教員免許・各種資格取得状況（教育地域科学部）

## 取得免許（学校教育課程）

教員免許種類	平成15年度		平成16年度		平成17年度		平成18年度		平成19年度		合 計	
	二種	一種	二種	一種	二種	一種	二種	一種	二種	一種	二種	一種
幼稚園	0	20	0	18	0	27	0	19	1	20	1	104
小学校	15	79	10	94	7	98	10	93	6	91	48	455
中学校	10	98	6	97	7	104	9	97	3	94	35	490
高等学校	0	97	0	98	0	98	0	94	0	103	0	490
特別支援学校	0	11	3	13	2	18	7	19	1	17	13	78
計	25	305	19	320	16	345	26	322	11	325	97	1,617

## 取得資格

各種資格	平成15年度	平成16年度	平成17年度	平成18年度	平成19年度	合 計
社会教育主事	10	10	9	5	10	44
学芸員	15	10	6	7	10	48
学校図書館司書教諭	21	12	9	4	22	68

(教育地域科学部現況調査表)

資料 1-9-6 国家試験合格状況（医学部）

医師国家試験合格状況

回（年度）	卒業生数	新卒者			既卒者			合計			全国平均 合格率
		受験者数	合格者数	合格率	受験者数	合格者数	合格率	受験者数	合格者数	合格率	
第98回（平成15年度）	95	95	92	96.8%	9	1	11.1%	104	93	89.4%	88.4%
第99回（平成16年度）	96	95	85	89.5%	10	2	20.0%	105	87	82.9%	89.1%
第100回（平成17年度）	98	98	94	95.9%	15	10	66.7%	113	104	92.0%	90.0%
第101回（平成18年度）	114	114	107	93.9%	12	6	50.0%	126	113	89.7%	87.9%
第102回（平成19年度）	107	107	97	90.7%	12	5	41.7%	119	102	85.7%	90.6%

看護師国家試験合格状況

回（年度）	卒業生数	新卒者			既卒者			合計			全国平均 合格率
		受験者数	合格者数	合格率	受験者数	合格者数	合格率	受験者数	合格者数	合格率	
第92回（平成15年度）	67	57	56	98.2%	0	0	0.0%	57	56	98.2%	91.2%
第93回（平成16年度）	64	55	54	98.2%	2	2	100.0%	57	56	98.2%	91.4%
第94回（平成17年度）	62	56	56	100.0%	1	1	100.0%	57	57	100.0%	88.3%
第95回（平成18年度）	66	56	56	100.0%	0	0	0.0%	56	56	100.0%	90.6%
第96回（平成19年度）	65	58	58	100.0%	2	2	100.0%	60	60	100.0%	90.3%

保健師国家試験合格状況

回（年度）	卒業生数	新卒者			既卒者			合計			全国平均 合格率
		受験者数	合格者数	合格率	受験者数	合格者数	合格率	受験者数	合格者数	合格率	
第90回（平成15年度）	67	67	66	98.5%	4	3	75.0%	71	69	97.2%	92.3%
第91回（平成16年度）	64	61	53	86.9%	3	0	0.0%	64	53	82.8%	81.5%
第92回（平成17年度）	62	61	52	85.2%	9	8	88.9%	70	60	85.7%	78.7%
第93回（平成18年度）	66	64	64	100.0%	8	7	87.5%	72	71	98.6%	99.0%
第94回（平成19年度）	65	65	64	98.5%	1	1	100.0%	66	65	98.5%	91.1%

助産師国家試験合格状況

回（年度）	卒業生数	新卒者			既卒者			合計			全国平均 合格率
		受験者数	合格者数	合格率	受験者数	合格者数	合格率	受験者数	合格者数	合格率	
第87回（平成15年度）	67	3	3	100.0%	0	0	0.0%	3	3	100.0%	96.2%
第88回（平成16年度）	64	4	4	100.0%	0	0	0.0%	4	4	100.0%	99.7%
第89回（平成17年度）	62	3	3	100.0%	0	0	0.0%	3	3	100.0%	98.1%
第90回（平成18年度）	66	3	3	100.0%	0	0	0.0%	3	3	100.0%	94.3%
第91回（平成19年度）	65	4	3	75.0%	0	0	0.0%	4	3	75.0%	98.1%

（医学部現況調査表より）

計画 1-10「学生による授業評価や学生及び教員へのカリキュラムに関する調査等を実施し、学習ニーズと教育成果を検証する。」に係る状況

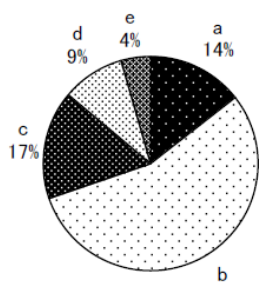
各学部・共通教育センターでは、学生・担当教員対象にカリキュラムに関するアンケート調査【P35 資料 1-6-1】を定期的実施し、学習ニーズや教育効果を検証している【資料 1-10-1~2】。その評価結果は報告書として公表する等、次年度以降のカリキュラム内容の充実等に活用した【P38 資料 1-6-3】。

資料 1-10-1 カリキュラムに関する学生の評価例（工学部）

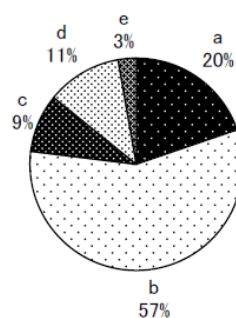
【設問】福井大学工学部で受けた専門教育がこれからの仕事や研究に役立つと思いますか。

	a	b	c	d	e	f
	大いに役立つと思う	少し役立つと思う	どちらでもない	あまり役立たないと思う	まったく役立たないと思う	合計
就職	26	100	30	17	8	181
進学	35	102	16	20	5	178
未定	2	9	3	6	2	22
留年	1	0	1	0	0	2
合計	64	211	50	43	15	383

専門教育が仕事に役立つ(就職)



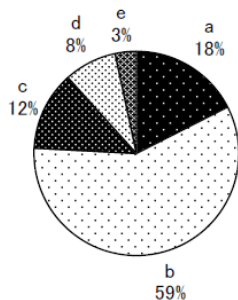
専門教育が仕事に役立つ(進学)



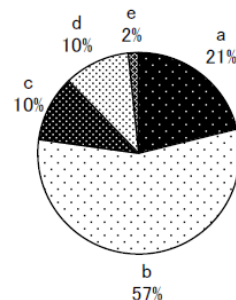
【設問】専門基礎科目（線形代数，応用数学，物理学，化学，学際実験・実習など）はその後の専門科目の授業内容を理解するのに役立ちましたか。

	a	b	c	d	e	合計
	大いに役立った	少し役立った	どちらでもない	あまり役立たなかった	まったく役立たなかった	
就職	31	104	22	15	6	178
進学	38	102	19	19	3	181
未定	4	11	3	4	1	23
留年	1	0	1	0	0	2
合計	74	217	45	38	10	384

専門基礎科目が役立った(就職)



専門基礎科目が役立った(進学)



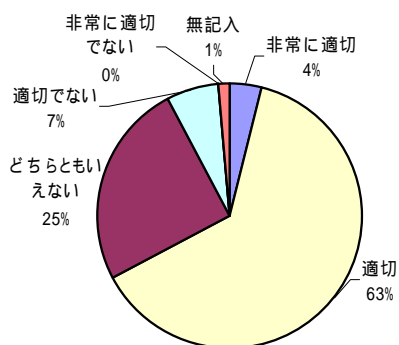
アンケート調査は、就職内定者 178 名，進学内定者 181 名を対象に，平成 18 年度に実施した。

(平成 18 年度自己点検・評価委員会報告書)

資料 1-10-2 カリキュラムに関する学生の評価例（医学部）

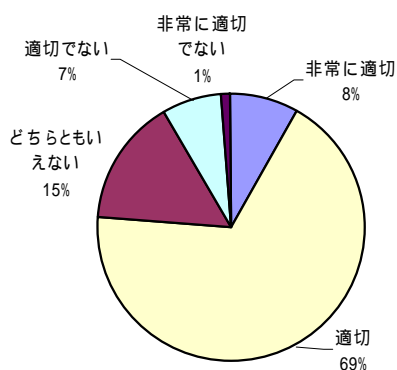
【設問】2年次・3年次前期における基礎医学教育カリキュラム全体（科目構成，開講時期など）は基礎医学を学ぶ上で適切なものでしたか？

平成 18 年度



	回答者数
非常に適切	3
適切	48
どちらともいえない	19
適切でない	5
非常に適切でない	0
無記入	1
合計	76

平成 19 年度



	回答者数
非常に適切	7
適切	57
どちらともいえない	13
適切でない	6
非常に適切でない	1
合計	84

（平成 18 年度及び平成 19 年度「医学科 3 年生カリキュラム評価アンケート集計結果」より）

（医学部現況調査表より）

各学部・共通教育センターでは、開講科目について学生等による授業評価アンケートを定期的実施し、アンケート結果を各教員にフィードバックして、随時教育方法・内容の改善を図っている【資料 1-10-3～5】。

資料 1-10-3 授業評価アンケート実施例（教育地域科学部）

平成 17 年度実施 授業に関するアンケート

調査項目については、強くそう思う - 全く思わない (1 - 5) の 5 件法、一部で強くそう思う - 該当しない (1 - 6) の 6 件法で回答を求めた。

調査項目一覧  
(受講の動機)  
1. どのような目的でこの授業を受講しましたか? 受講の動機に最も近いものを 1 つ選んで 囲んでください。  
a. 必修科目だから b. 単位のため c. 自分の将来に必要なだから  
d. 内容に興味があったから e. 周囲の人が受講するから f. なんとなく

	強く そう 思う	そう 思う	い え な い	と う も う も と	そ う 思 わ な い	全 く 思 わ な い	該 当 し な い
(自身の取組)							
2. この授業に対して積極的に取組んだ	1	2	3	4	5		
(授業の内容)							
3. この授業の内容にはもともと興味があった。	1	2	3	4	5		
4. この授業は、理解しやすくまとまっていた。	1	2	3	4	5		
5. この授業で新しい考え方が修得できた。	1	2	3	4	5		
6. この授業の内容は、将来役に立つだろう。	1	2	3	4	5		
(授業の負担)							
7. この授業の内容の分量は適当であった。	1	2	3	4	5		
8. この授業のレポートや課題の分量は適当であった。	1	2	3	4	5	6	
(授業の雰囲気)							
9. この授業の雰囲気はよかった。	1	2	3	4	5		
10. 何時でも質問できる雰囲気があった。	1	2	3	4	5		
(先生の授業の進め方)							
11. 先生は授業の準備を十分にしていた。	1	2	3	4	5		
12. 単調にならないように進め方に工夫がみられた。	1	2	3	4	5		
13. 説明、解説が分かりやすかった。	1	2	3	4	5		
14. 学生の質問に明快な回答を与えてくれた。	1	2	3	4	5		
15. 学生からの反応や意見を生かした授業をしていた。	1	2	3	4	5		
16. 板書は見やすく、ノートが取りやすかった。	1	2	3	4	5		
17. 教科書(テキスト、配付資料を含む)の内容は適当であった。	1	2	3	4	5	6	
18. スライド、OHP、ビデオなどの教材の使い方が効果的であった。	1	2	3	4	5	6	
(授業内容と評価)							
19. 授業内容についての説明(ガイダンスあるいはシラバス)に沿った授業が行われた。	1	2	3	4	5		
20. 提出した課題に対して、適切なフィードバックがあった。	1	2	3	4	5	6	
21. 成績評価方法の説明が明確になされた。	1	2	3	4	5		
(総合評価)							
22. この授業は全体としてよい授業であった。	1	2	3	4	5		

アンケート分析結果(例)

講義形式の64授業を抽出し、これらの授業の評価に回答した延べ1,163名分(有効分)を分析対象とした。回答者の学年分布は以下の通りである。

課程/学年	1年生	2年生	3年生	4年生	その他
学校教育課程	277	352	119	33	9
地域文化課程	177	39	8	5	1
地域社会課程	110	41	6	1	2
計	564	432	133	39	12

学生からの評価が高い授業(平均評定値2点以下)

整理番号 031  
受講生数: 70名  
課程・学年構成  
学校教育課程 70名(1年7名, 2年57名, 3年1名, 4年5名)  
地域文化課程 0名  
地域社会課程 0名  
その他 0名  
平均評定値: 1.93

[注] 2.5点以上: 評価が低い授業

(教育地域科学部現況調査表より)

## 学生による自由記述（抜粋）

整理番号031

記述1 学外へ（博物館）見学へ行ったり、土笛を作ったりと、子供と一緒に教師も楽しめるという事を目的にした要素を沢山教えてもらいました。

記述2 今まででの考え方を変えられた授業だったので良かったです。

記述3 博物館へ行ったり、土笛を作ったり実際に自分でも体験できたのが面白かった。

記述4 大変楽しかったです。また教師としての方向性を見つける事ができました。有難うございました。

記述5 土笛作りのように、めったに体験する機会のない事をする事ができて、ラッキーでした。

記述6 歌舞伎や土笛など興味のある事ばかりできて楽しかった。

記述7 座席数の確保、増加。

記述8 新しい考え方がとても多く得られたと思います。とても楽しく、とって良かったと思えるような授業でした。先生が素敵でした。

記述9 先生のしゃべりが面白く、とても楽しい授業でした。授業以外にも、博物館や子供歌舞伎など、この授業を受けたからこそ得られた事がありました。また、教師のあり方なども深く考えさせられる内容で、これからは役立たせたいです。有難うございました。

記述10 この授業を受けて、教師の現状や子供の反応など、勉強になる事が沢山ありました。子供カブキや博物館見学など、先生のおかげで広く学ぶ機会が持てて、本当に良かったです。また、自分で土笛作りも、子供帰った気持ちで楽しく取り組む事が出来ました。先生の教育への考え方がいいなぁと思いました。

記述11 この音楽教材研究では、「音楽を教える」という考えではなく「音楽で教える」という考えのもとに、実際に小学校勤務の経験がある先生の現場の話が聞けたので、大変中身のある授業であったと思う。実際に自分が現場に出た時に役に立つと思われる教材づくりについて考えていただけたという印象が強く残っている。

記述12 第一に教職に対する考え方が大きく変わった。笑い最高です！

記述13 本当に毎回楽しい授業でした。音楽の事だけに固執せず、教育現場の話が色々聞けて日々いい刺激となりました。

記述14 音楽の教材についてだけの話ではなく、現在の教育現場の話が聞けたので有意義なものになった。

記述15 先生の考え方とかが、非常に面白かったです。

記述16 教育の現在の状況の事も分かったし、先生の軽快なしゃべりが面白かったです。

記述17 教育のリアルな現場の実状や問題点を明確に指摘して考えさせられた。将来、役に立ちそうな内容の授業だったと思う。

記述18 教育現場の話をたくさん聞けて本当に良かった。実際小学校での教員時代を経ている先生という事もあり、とても実用的で中身のある授業でした。

記述19 教材研究という指導案作りが中心になりがちだが、この授業は「教材」の研究という意味で、実のあるものになった。

記述20 現場の話が聞けて大変ためになった。本当にいい授業だった。面白かったし、わかりやすい。

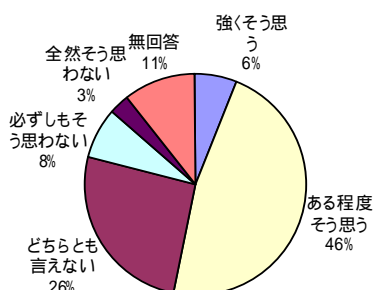
記述21 今まで何度か指導案を書く機会がありましたが、この授業を受けて「生徒にどんな力を付けさせたいのか」という事をまずしっかりと考えた教師の創意あふれる授業作りが大切なのだという事を痛感させられました。

（平成 18 年度授業評価実施報告書より）



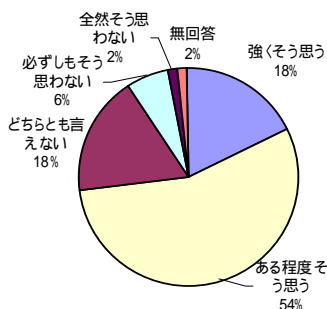
資料 1-10-4 授業評価の適切なフィードバック例（医学部）

【設問】前年の評価アンケート結果を参考に、授業方法の改善を試み、学生へのフィードバックができた。



	回答者数
強くそう思う	4
ある程度そう思う	31
どちらとも言えない	17
必ずしもそう思わない	5
全然そう思わない	2
無回答	7
合計	66

【設問】今回の評価結果を受け、次の講義を改善する予定である。



	回答者数
強くそう思う	12
ある程度そう思う	36
どちらとも言えない	12
必ずしもそう思わない	4
全然そう思わない	1
無回答	1
合計	66

(回収率64%)

授業評価のフィードバックによる改善例（アンケートより一部抜粋）

プリントを B4 A3orA4 に（学生の要望）。プリントに空きスペースを（学生の要望）。早口になるので内容を圧縮。一昨年に比べ昨年の学生達には好評で、基礎系教官 5 人のうちの 1 人に入った。

スライドを使って授業をしたが、内容を印刷したプリントを配布しなかったところ、配布してほしいという要望があったので、次年度配布した。

板書で行っていたところ、わかりづらいなどの評価だったので、全てパワーポイントに変更しました。パワーポイントで時々インターネットの関連サイトやビデオを見せるなど、「飽きさせない」「眠らせない」ように工夫しました。配付資料をパワーポイントのプリントアウトで穴埋め式に変更しました。その結果、真剣に前を向いて授業を聞くようになりました。学生の反響は好評のようです。

配布するプリントに、記入スペースが少ないという指摘あり。記入スペースを増やした。

進行スピードが速いとの指摘を受け、進行をゆっくりとし、補講講義を 1 コマ追加した。

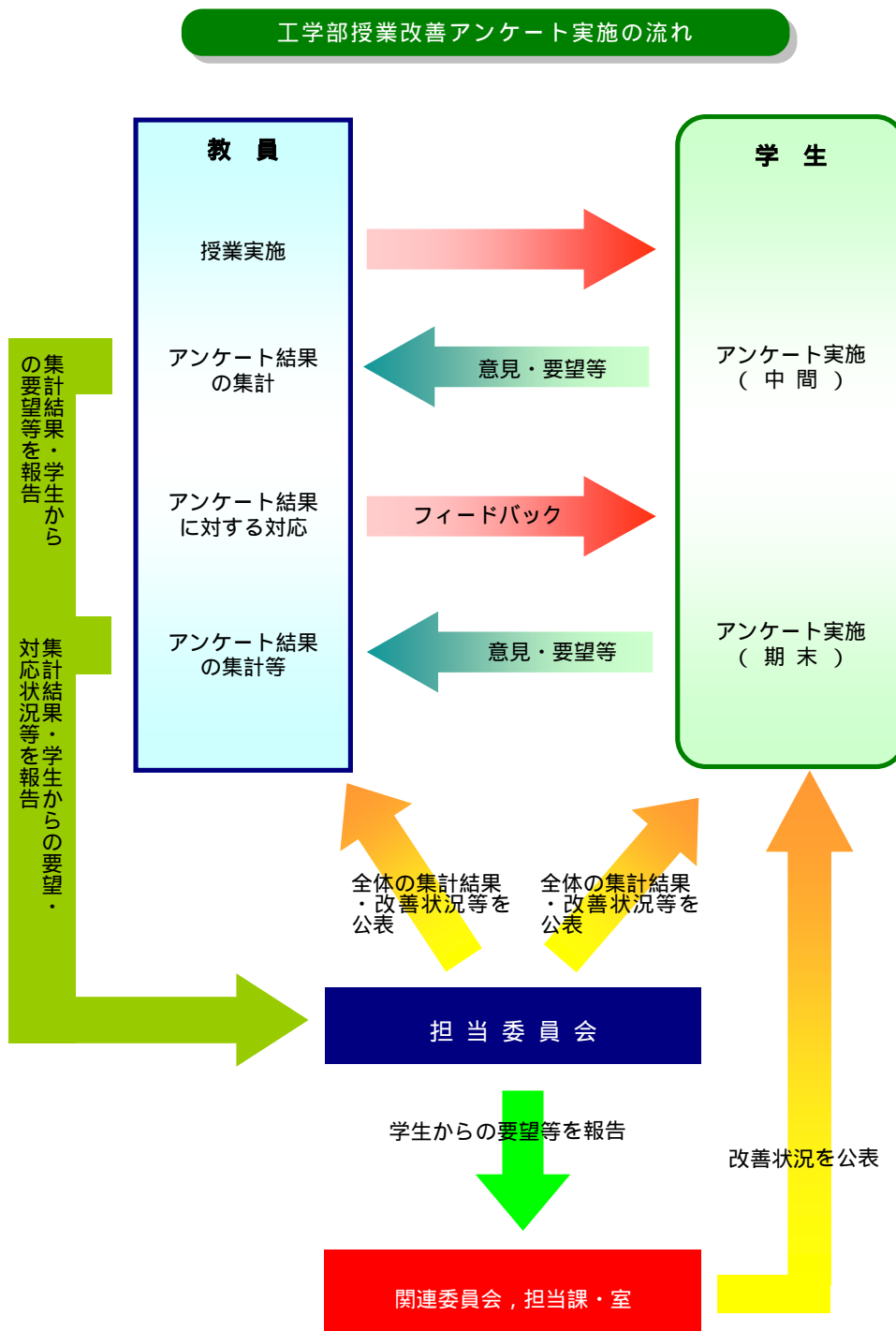
パワーポイントのスライドが早いとのコメントがあったので、メモが必要なスライドは、時間を十分とるように今年はしている。

教材として映画を活用するさいに解説を丁寧に行うように改善した。分かり易かったと好評であった。

学生が参加する講義になるよう実習的要素も取り入れた。反響は悪くなかったと思う。

(「平成 19 年度「学生による授業評価」のフィードバックに係るアンケート調査結果」より)

授業アンケートの結果をより分かりやすくフィードバックする必要性は、教員と学生の双方から数多く指摘されている。授業アンケートを行った結果と教員がそれに対してどのように対応したのか、ホームページ上や掲示板などで可能な限り公開し、教員と学生の双方の意識の向上を図っている。



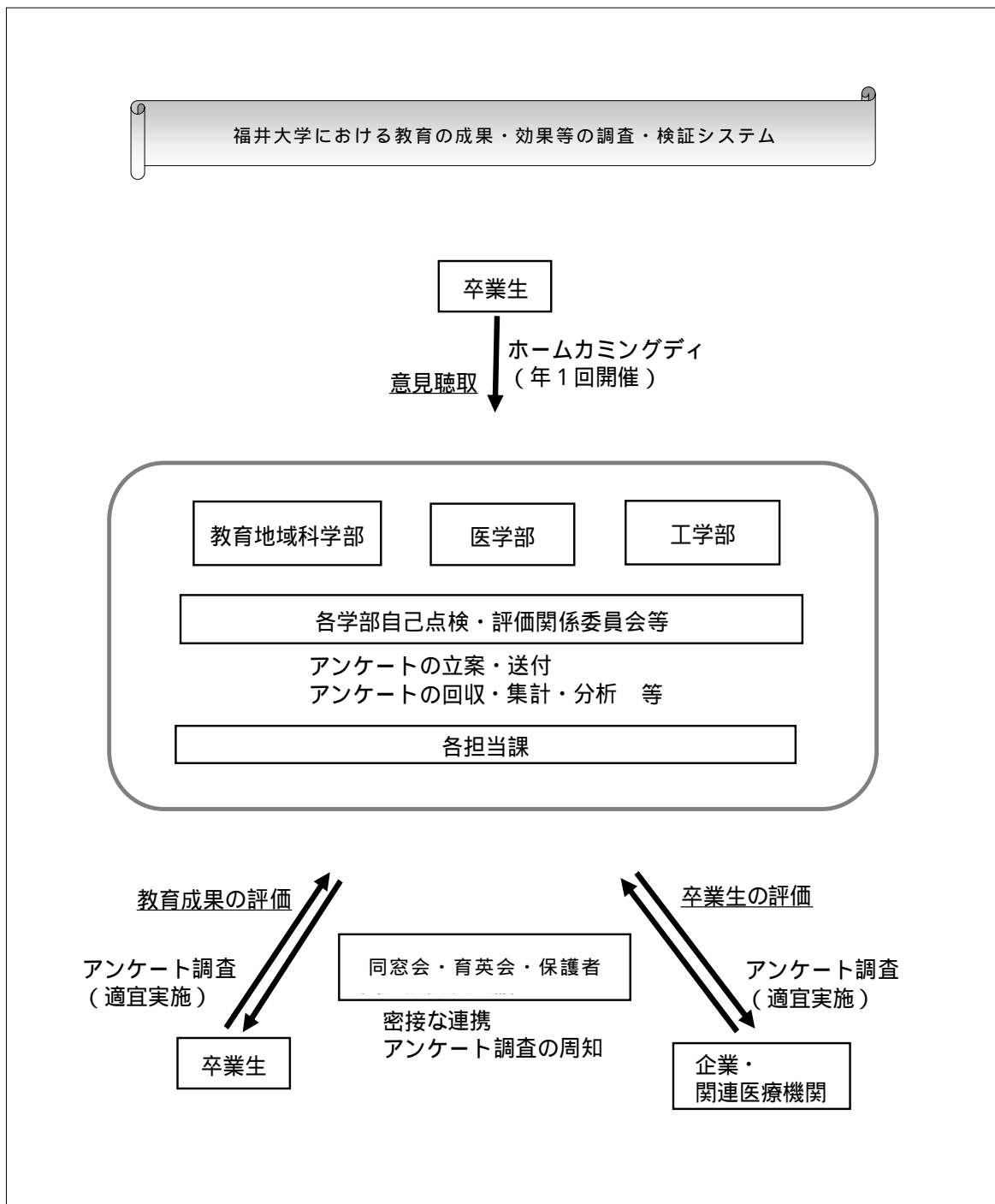
(工学部及び大学院工学研究科自己点検・評価委員会資料)

計画 1-11 「卒業生並びに卒業生の就職先等を対象に，教育の成果・効果等を調査・検証するシステムを構築する。」に係る状況

全学及び各学部では卒業生並びに就職先を対象とした調査体制を整備し，それぞれ教育の成果・効果等に関する意見聴取を実施した【資料 1-11-1～2】。

また，卒業生から直接，提言・意見等を収集し教育の成果・効果等を調査・検証するシステムの一つとして，平成 16 年度よりホームカミングデーを各学部において開催した。【P60 資料 1-11-3】。

資料 1-11-1 教育の成果・効果等の調査・検証システムの概要



(事務局資料)

資料 1-11-2 卒業生に対するアンケート調査結果例（医学部）

【設問】医学科では、

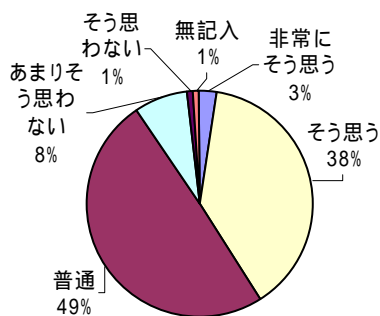
幅広い医学知識を持ち、質の高い臨床能力を身に付け

コミュニケーション能力に優れ、高い倫理観をもって患者様中心の医療を実践でき

日々進歩する医学知識・医療技術を生涯にわたり学ぶ習慣を身につけ、根拠に立脚した医療を実践できる医療人を育成することを教育目標としています。

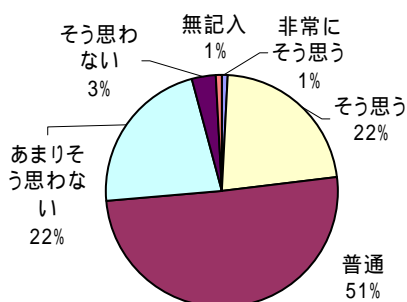
そこで、本学のカリキュラム全般を履修してこれらに対応した以下の事項を修得することができましたか、お聞きします。それぞれの事項を身に付けることができたと思いですか？

医学知識



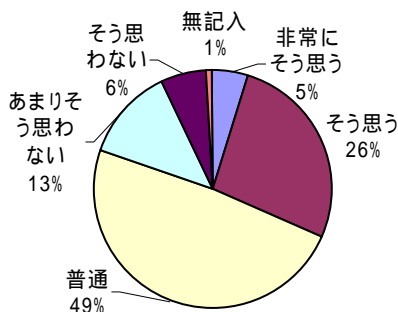
	回答者数
非常にそう思う	3
そう思う	45
普通	58
あまりそう思わない	9
そう思わない	1
無記入	1
合計	117

臨床能力



	回答者数
非常にそう思う	1
そう思う	26
普通	59
あまりそう思わない	26
そう思わない	4
無記入	1
合計	117

コミュニケーション能力

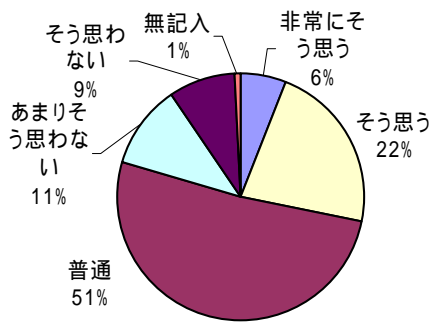


	回答者数
非常にそう思う	6
そう思う	31
普通	57
あまりそう思わない	15
そう思わない	7
無記入	1
合計	117

(医学部現況調査表)

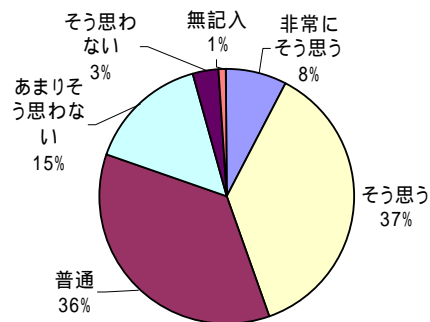
資料 1-11-2 卒業生に対するアンケート調査結果例（続き）

高い倫理観



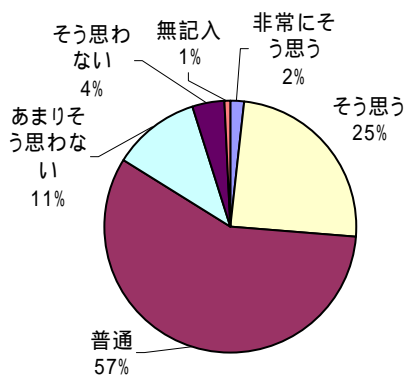
	回答者数
非常にそう思う	7
そう思う	26
普通	60
あまりそう思わない	13
そう思わない	10
無記入	1
合計	117

学ぶ習慣



	回答者数
非常にそう思う	9
そう思う	43
普通	42
あまりそう思わない	18
そう思わない	4
無記入	1
合計	117

根拠に立脚した実践的医療能力



	回答者数
非常にそう思う	2
そう思う	29
普通	67
あまりそう思わない	13
そう思わない	5
無記入	1
合計	117

385 枚配布 / 117 枚回収 (回収率 30.4%)

(医学部現況調査表)

資料 1-11-3 ホームカミングデーでの主な意見例

育児室設置やリハビリ施設の開放について、検討してはどうか。

入試関係での「地域枠」について県と検討してはどうか。

研究棟の冷暖房（特に国試合格率を上げるための学習時間確保について。土日祝日）の使用について、検討願いたい。



ホームカミングデー懇談風景

とても興味深いことばかりでした。病院・大学の繁栄のため、協力していきたいと思えます。

卒業生と学校側の話し合いも必要と思いますが、卒業生と在学生の話し合いの機会があったらいいと思います。

大学と交流を持つ機会があれば、学生と交流を持つ機会が増えると思います。

近年、大学内の組織が私達の時代から随分と変わって来たこと。また、福井大学のニュースがマスコミに取り上げられるようになってきた。

企業側から見るとどの大学へ行けば企業のニーズがマッチするか分かるようにしてほしい。

企業としては、メンタルに弱い学生が多いのでそれを強くすることもブランドになる。また、平成 18 年度から名古屋地区で受験することができることになったことは非常に良いことである。

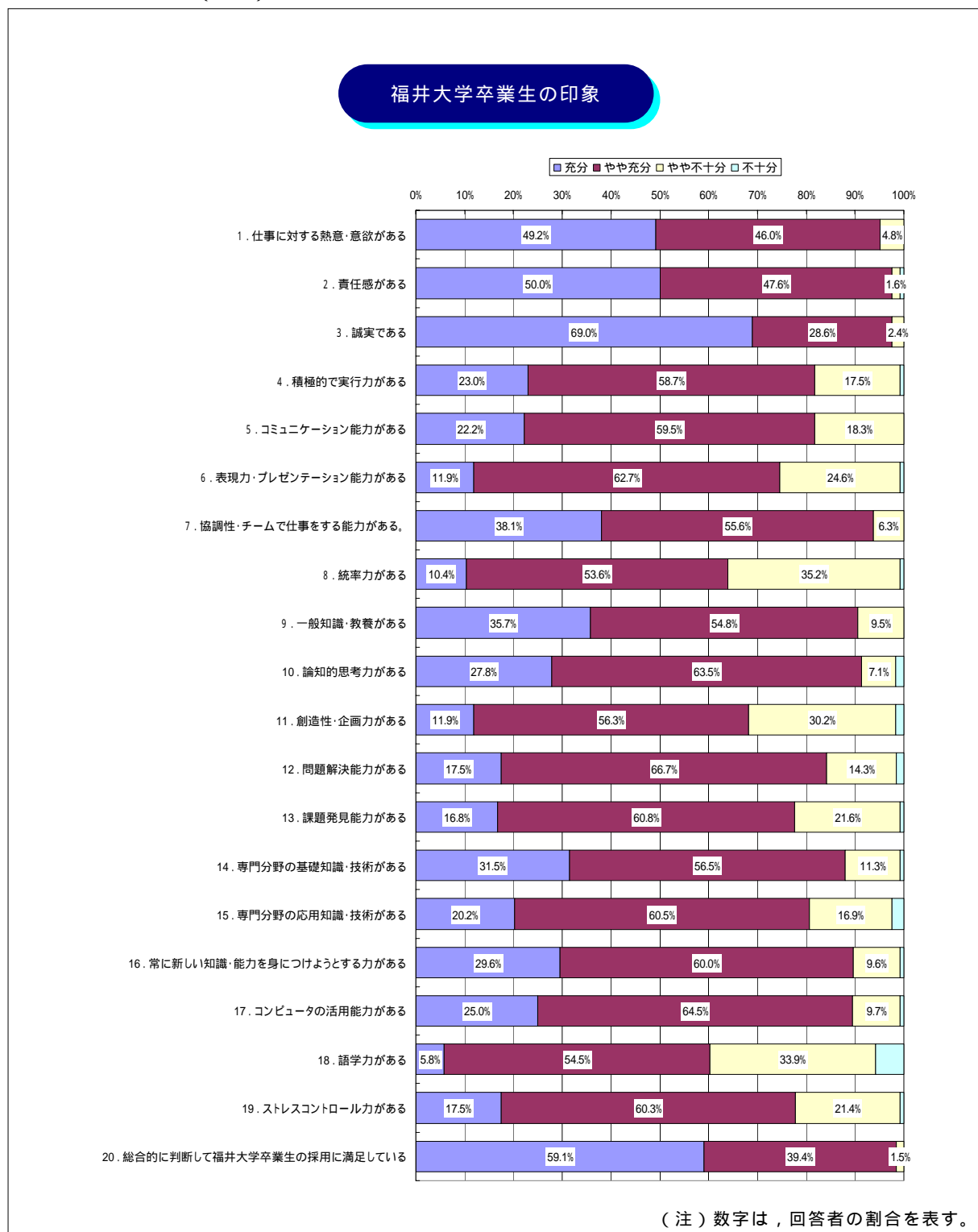
ホームカミングデーとは？

学部毎に卒業生を招き、学長、理事及び学部長と懇談し大学の現状を紹介、さらに卒業生と意見交換を実施すること。

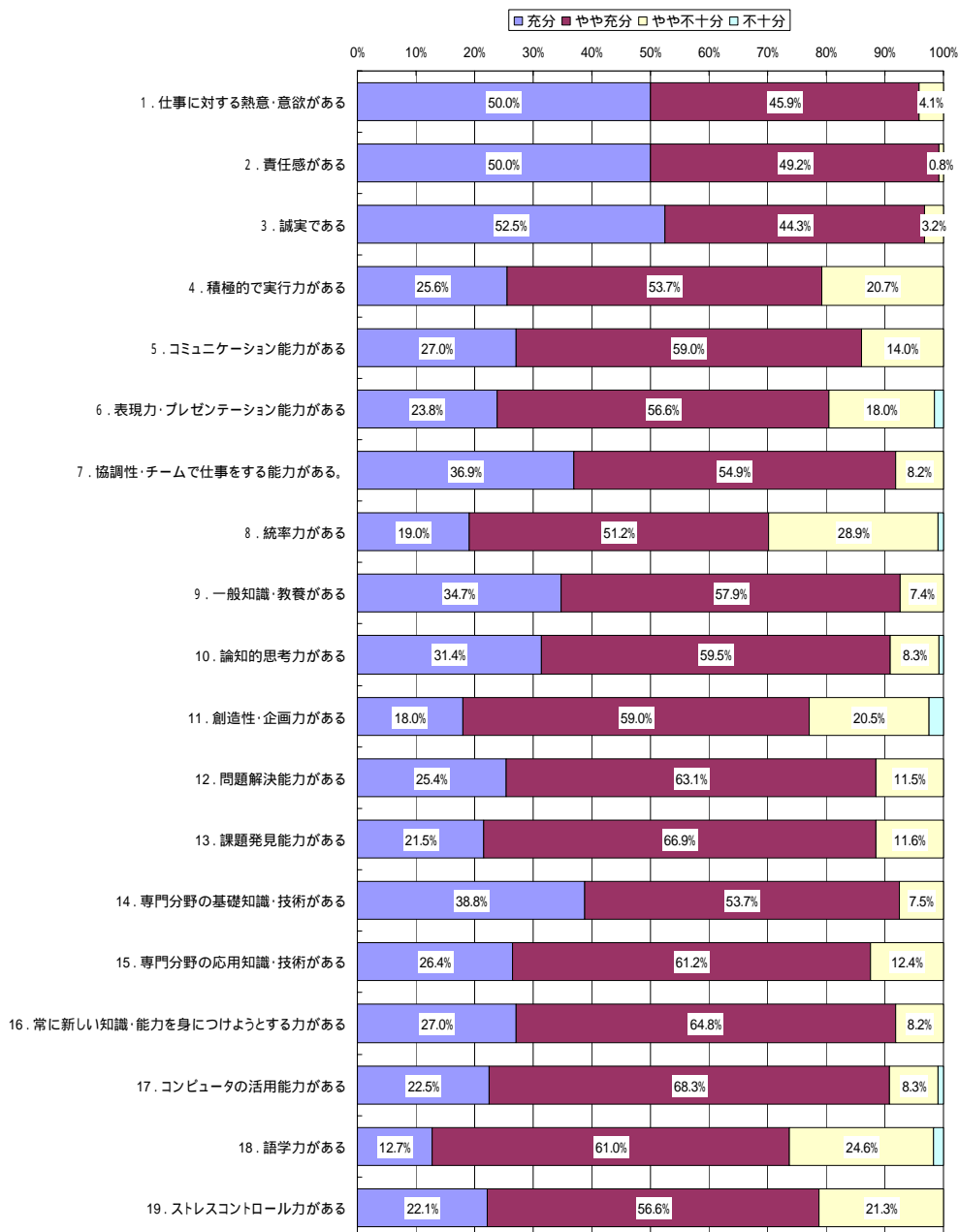
(事務局資料)

学生の就職先企業等を対象にアンケート【P35 資料 1-6-1】を全学的で実施し、企業等が求める人材養成の視点をも踏まえ教育の成果・効果を調査した【資料 1-11-4】。平成 19 年度実施の調査結果を鑑みると、本学卒業生は他大学卒業生に比較し、企業等が求める人材として評価は概ね良好である。教育地域科学部では、従来の地域文化及び地域社会の 2 課程を「地域科学課程」に組織改組することに伴い、その調査結果を参考としてカリキュラムの全面的改善・再編を実施した。特に、学生のコミュニケーション能力を始めとする諸能力を向上させるために、ワークショップ型授業を導入した【P39～40 資料 1-6-4～5】。

資料 1-11-4 卒業（修了）生の就職先に対するアンケート調査結果例



他大学卒業生との比較



(注) 数字は、回答者の割合を表す。

(平成 19 年度実施 事務局資料)



工学部（平成 17 年度）、教育地域科学部（平成 19 年度）において外部評価を実施し、教育の成果・効果等について各分野の専門家の意見を聴取した。工学部では、6 年前の外部評価の時点に比べて進んでいる点が多く見られるとの意見があり、外部評価結果のフィードバックによる改善が高く評価された【資料 1-11-5】。

## 資料 1-11-5 外部評価委員意見例（抜粋）

## 教育地域科学部外部評価委員の意見

国立大学法人は、法人化後 4 年が経過したが、法人としての裁量は広がったものの、効率化係数と総人件費抑制政策によって大半の大学では、大学教員を削減せざるを得ない状況に追い込まれ、法人化の趣旨は生かされないままになっている。平成 22 年より次期中期計画への枠組みについては、文部科学省内で運営交付金のあり方についての連絡協議会をつくって検討が始まっている。このままいくと高等教育は、危機的である。それを乗り切る多くの知恵と提案を集約していかなければならない。

この点において福井大学教育地域科学部は、教員養成のあり方においても新課程の展開にしても、附属学校の活動にしても、今日の教育課題に応えた先駆的で模範的な在り方を示している。振り返ってみると「学校現場が大学であり大学院である」というメッセージは、福井大学教育地域科学部が全国に発した新しいパラダイムチェンジへの宣言であった。従来のアカデミズムからはストレートには出てこないこの発想は、実践的思考が学問的高さによって裏打ちされている本学部の 6 年間の実績と自信から生まれたもので、戦後 60 年を経過した教員養成教育において、私たちに最も必要とされている方向を的確に明示したものと見える。

（教育地域科学部資料）

## 工学部外部評価委員の意見

私は 6 年前の評価に参画させていただいた。そのときに議論したことがどんどん実現されていることに敬意を表したいと思う。あの時はミニ東大になるな、ミニ京大になるな、地域に密着しろという指摘をいろいろな委員の先生がされて、ファイバーアメニティは作ろうか作るまいか、長所や短所を議論した。JCO の事故があったので原子力についても議論が出たのだが、ここまで積極的に取り組まれるとは。お一人の方がそういうものを作ったらどうかと言って、私も講座ぐらい作ったらどうかという発言をしたと思うが、この 5 年間で、まさに地域に密着したファイバーアメニティと原子力・エネルギー安全工学のご専攻を実現されたというご努力には本当に敬意を表したい。

部局化に向けて、非常に積極的にいろいろなことをされている。ベンチャー・ビジネス・ラボラトリーとか、知的財産の取り組みだとか、生命科学複合教育などを大いにやられていている。先ほども申し上げたが、こういうものはどちらかというと先端的な問題に対する教育、または研究オリエンテッドな高度な大学院に向けたものだと思うが、どんどん発展すると先生方はいろいろなことで非常に忙しくなっていると思う。

（平成 17 年度外部評価報告書）

## b) 「小項目 1」の達成状況

## (達成状況の判断)

目標の達成状況が良好である

## (判断理由)

1. 本学の教育の質的向上を図る上の最重要課題の一つである教養教育の充実に対応し、共通教育センター方式による平成 17 年度特色 G P 「より高い現代的な教養教育をめざして」に基づき実施・改善された教養教育は、学生から好評を得ている。さらに、平成 16 年度現代 G P 「医学英語と医学・看護学統合の一貫教育」に基づく実施プログラムや情報リテラシー教育によって、学生の英語教育に対する評価や情報処理能力・語学力がそれぞれ向上した。
2. 学生・担当教員等を対象にした各種評価アンケート結果や社会的ニーズに基づくカリキュラム改善、双方向遠隔授業システム等の活用による履修科目の拡大や G P 採択プログラムの実施等によって、基礎的知識や技術の習得に関わる教育の質は向上した。特に、教育地域科学部や医学部ではカリキュラムの再編を行い、社会的ニーズに適切に対応した。
3. 平成 15 年度特色 G P 「地域と協働する実践的教員養成プロジェクト」を基盤とした「探求ネットワーク」「ライフパートナー」及び「教育実践研究」の推進（教育地域科学部）、平成 17 年度現代 G P 「地域教育活動の場の持続的形成プログラム」の実施（工学部）や「チュートリアル教育」の積極的な導入（医学部）は関係者からの評価も高く成果もあがっており、本学の教育の質的向上を図る上の最重要課題の一つである、高い独創性を含め実践的力量及び探求的課題解決能力育成が促進できた。
4. 職業意識を学生に喚起するためのインターンシップ制度は、本学の教育に関する重要取組の一つである。キャリア教育としての単位化を含め各種インターンシップ制度の整備によって、豊かな人間性の涵養を含め学生の職業意識が広く喚起された。当該制度の受講者数は増加しており、評価も良好である。大学院課程も含め学生ニーズ等に適切に対応できるよう、派遣期間の異なるインターンシップを整備していることは特筆できる。
5. 学生による授業評価やカリキュラムに関するアンケート調査を継続的に実施し、その結果は公表・フィードバックされ、教育内容・方法の改善に活用された。さらに、卒業生並びに就職先等を対象とした調査体制が整備され、外部評価の実施など教育の成果や効果の意見聴取を実施した。その結果は教育内容・方法の改善に活用された。これら取組は教育の成果のさらなる向上を図る基盤となるものである。特に、企業等からの意見聴取結果から、本学卒業生に対する評価は他学卒業生に比べ概ね良好であり、これは本学の人材育成が十分成果をあげていることの証左である。

小項目2「[大学院課程]学部における基礎的知識及び実社会における実践的能力等の基盤の上に高度の専門的知識とともに優れた研究能力を備え、地域はもとより広く国際的な活動に貢献できる高い教育的資質を持つ人材及び高度な技術者・研究者を育成する。さらには、21世紀COEプログラムの推進により、世界をリードする創造的な人材育成に努める。」の分析

計画2-1「単位互換制度などの活用により、履修可能な科目の拡充を図る。」に係る状況

平成16年度に締結した「福井県内大学等間単位互換に関する協定についての申合せ」に基づき、県内6大学間での単位互換による履修科目を拡充した【P42資料1-7-1~2】。さらに、科目拡大にとどまらず、教育研究活動の更なる連携推進を図るため、平成19年度に「大学連携リーグ」【P42資料1-7-3】を形成した。

北陸地区国立大学(6大学)間では、平成16年度に単位互換包括協定を締結し、平成17年度に双方向遠隔授業システムを利用した授業を試行、平成18年度から本格実施している【P43資料1-7-4】。その結果、教養教育・大学院の履修科目が拡大された。これらの取組によって、他大学単位取得者数は年々増加しており、これは履修科目拡大の成果である【P43資料1-7-5】。

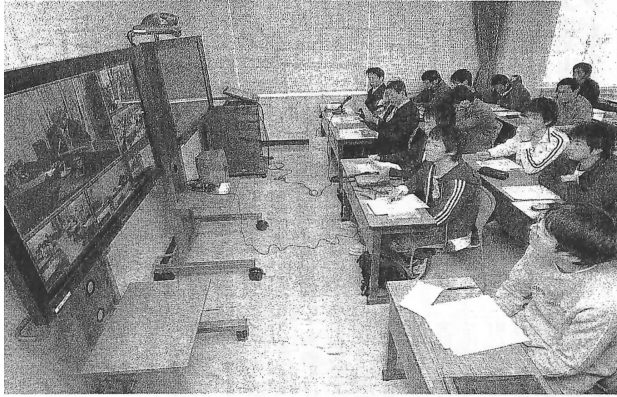
工学研究科では、原子力教育大学ネットワークを平成19年度に設置し、遠隔授業システムを用いた講義の相互配信によって履修科目を拡大した(年間2科目延べ30回)。この取組みは、履修生から高く評価されている【P66資料2-1-1】。

**福井大 金沢大 東京工大**

# 原子力の遠隔講義開始

## 大学院 ネットで共通受講

福井大、金沢大、東京工大と日本原子力研究開発機構でつくる原子力教育大学連携ネットワークは十三日から、三大学の大学院をインターネットで結び、原子力関連の基礎科目を共通して学べる遠隔講義を始めた。教員が専門科目を相互補充しながら講義を充実し、原子力教育のレベルアップを図る。



3大学共通の遠隔講義で原子力について学ぶ学生  
13日、福井市の福井大文京キャンパス

### 原子力機構連携 教育レベル向上図る

三大学同機構は、原子力にかかわる人材の育成を目的に二〇〇五年「連携・協力推進協議会」を立ち上げ、カリキュラムの検討や機材整備などの開設準備を進めてきた。本年度から名称を同ネットワークに変更した。

前期一講座、後期一講座を各十五回(毎週金曜、一回九十分)ずつ実施。前期は放射線、後期はエネルギー環境など基礎的な内容を教える。三大学のほか、同機構数質本部など関係施設をテレビモニターで結び、福井大の西川嗣雄教授、玉川洋一准教授、各大学の教員がそれぞれの専門分野を担当する。

一回目の講義となったこの日、福井大では大学院工学研究科原子力・エネルギー安全工学専攻の二十一人が受講。「核・放射化学の基礎」について東京工大の藤井靖彦教授から講義を受けた。他の二大学でも各十人が講義に臨んだ。

同機構は、三大学はじめ全国十二大学の大学院と連携、教員を派遣するなどしている。来年度以降は、これらの大学を中心に遠隔授業への参加を増やしていく考え。

同機構は「原子力関係の教員は少なく、これまでに大学単独では十分でなかった。基礎的な知識を共通で得ることで、原子力教育全体の底上げにつなげたい」としている。

(福井新聞 H19.4.14)

#### 履修大学院生からのコメント

ネットワークを通じて離れた大学間で同時に授業を行うことが大学の新しい授業形態になっていくことが、今から楽しみに思います。

東工大や金沢大学といった他大学の教授の授業が受けられることが嬉しく、今までの授業とは違う新鮮さを感じた。福井大学では行えない実験や授業内容を今後も期待したい。

三大学間連携ネットワークの授業は、今までに無い授業形式で興味深く取り組みました。連携授業は講師側が学生側に一方的になりやすいと思っていたけど、回答を学生にスクリーンへ書かせたり、質問が他大学から頻繁にあることもあり、集中して授業に取り組むことが出来ました。

去年の東海村の研修で、人形を使った線量実験をしました。そのような実体験があるので、理解しやすかったです。

(履修大学院生アンケート調査結果より)

計画 2-2 **ウエイト** 「インターンシップ制度の積極的活用を通して職業意識を喚起する。」に係る状況

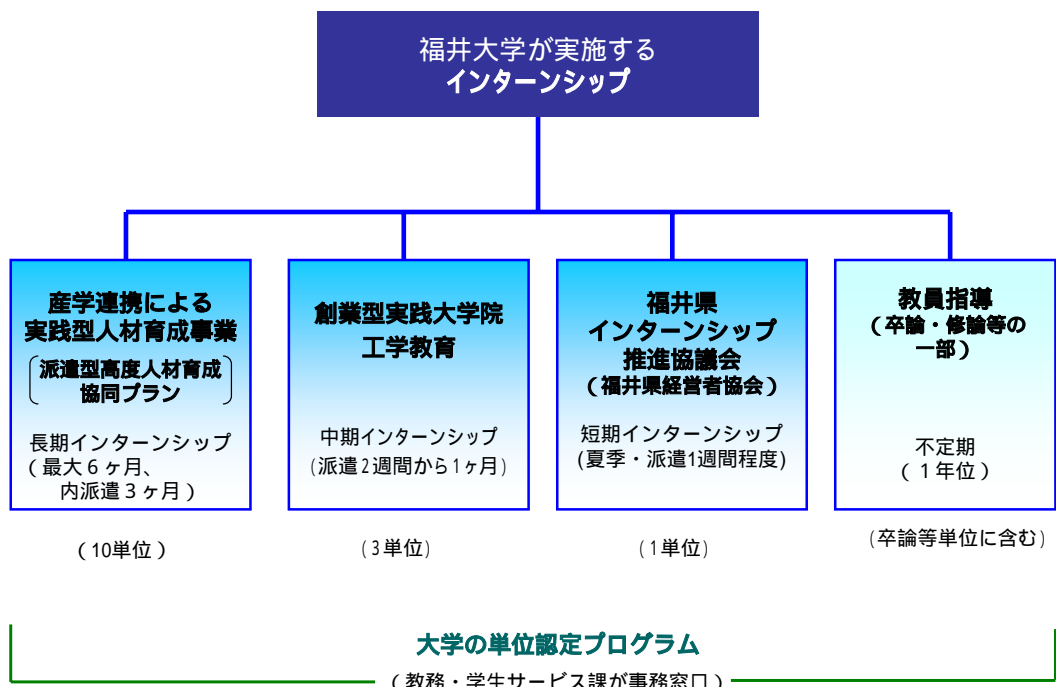
職業的意識を喚起するため、キャリア教育としての単位化を含め各種インターンシップ制度を整備した【資料 2-2-1, P264 資料 3-1-3~4】。これらインターンシップは短期から長期と派遣期間が異なるものであり、学生がニーズに合わせて選択できることは特記できる。

資料 2-2-1 インターンシップの構成

大学生が行うインターンシップは、従来から、夏季休業を利用し、「学部学生が在学中に自らの専攻やキャリアに関連した職業体験を行う」短期インターンシップとして、長らく地域産業界の支援の下に実施してきた。また、平成 18 年度からは、国の方針に則り、大学院学生を対象に、高度専門知識の修得と実社会における事業展開力、即戦力の向上を目指した長期インターンシップ及び創業型実践大学院工学教育の一環として技術経営カリキュラムに基づく中期インターンシップを開始した。

現在、福井大学が実施しているインターンシップには、次の 4 種がある。いずれも本学と企業が協同して、実就業と教育研究の融合による研究意識の高揚と社会的視野の拡大を目指す産学連携型教育システムである。

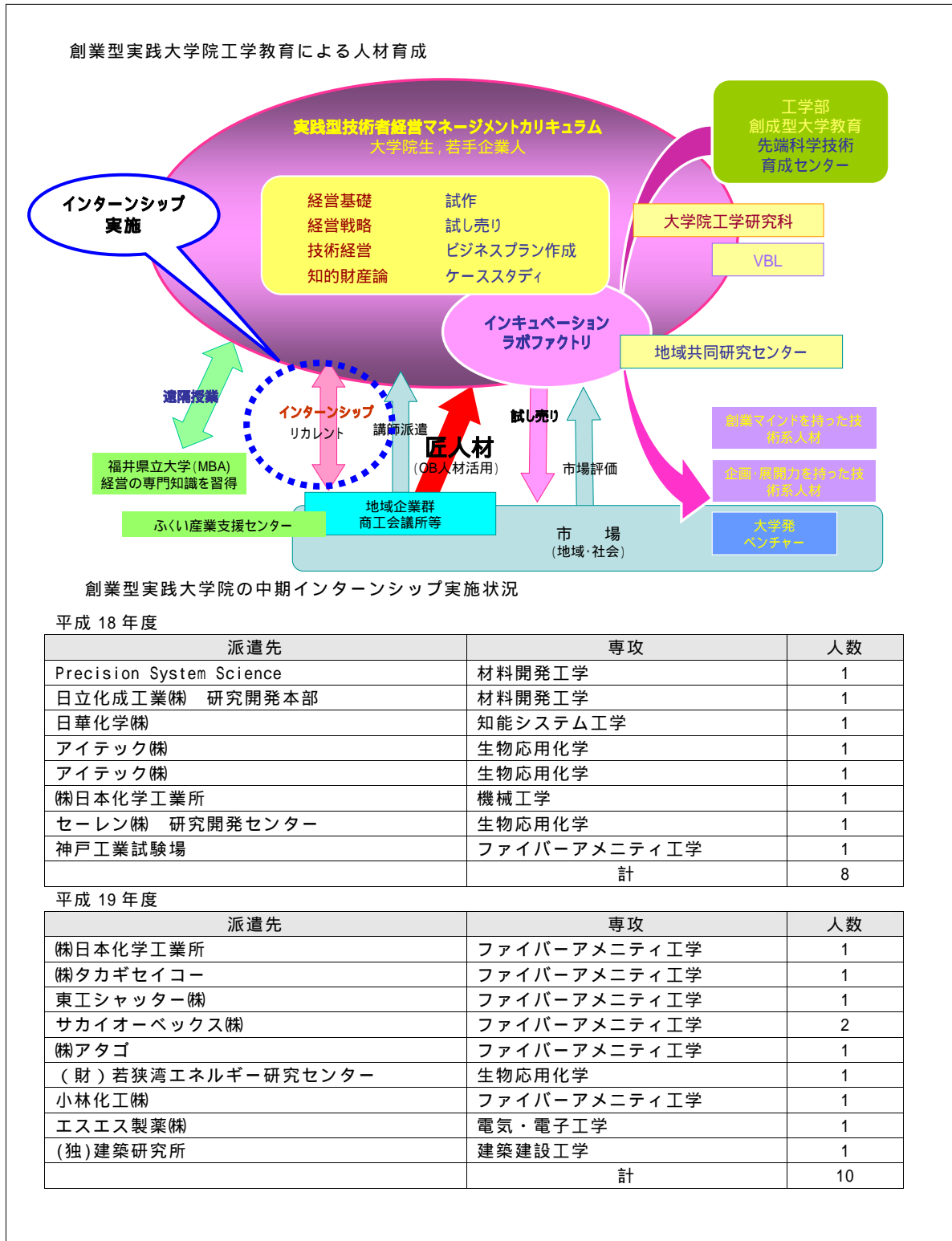
1. 産学連携による実践型人材育成事業（派遣型高度人材育成協同プランに基づく長期インターンシップ）
2. 創業型実践大学院工学教育に基づく中期インターンシップ
3. 福井県インターンシップ推進協議会の下で実施する短期インターンシップ
4. 教員指導あるいは学生の自主性による、企業主催のインターンシップ



(事務局資料)

工学系研究科では、福井県インターンシップ推進協議会実施の短期インターンシップ、創業型実践大学院工学教育による中期インターンシップ【資料 2-2-2~3】及び派遣型高度人材育成協同プランによる長期派遣型インターンシップ制度【P69 資料 2-2-4~5】を整備し、学生の職業意識を喚起している。キャリア教育としてのインターンシップは単位化され、受講者数は概ね増加している。派遣後の学生からは、「有意義」「大きな収穫を得た」等の評価を得ている。

資料 2-2-2 創業型実践大学院工学教育の概要



創業型実践大学院の中期インターンシップ実施状況

平成 18 年度

派遣先	専攻	人数
Precision System Science	材料開発工学	1
日立化成工業(株) 研究開発本部	材料開発工学	1
日華化学(株)	知能システム工学	1
アイテック(株)	生物応用化学	1
アイテック(株)	生物応用化学	1
(株)日本化学工業所	機械工学	1
セーレン(株) 研究開発センター	生物応用化学	1
神戸工業試験場	ファイバー・アメニティ工学	1
	計	8

平成 19 年度

派遣先	専攻	人数
(株)日本化学工業所	ファイバー・アメニティ工学	1
(株)タカギセイコー	ファイバー・アメニティ工学	1
東工シャッター(株)	ファイバー・アメニティ工学	1
サカイオーベックス(株)	ファイバー・アメニティ工学	2
(株)アタゴ	ファイバー・アメニティ工学	1
(財)若狭湾エネルギー研究センター	生物応用化学	1
小林化工(株)	ファイバー・アメニティ工学	1
エスエス製薬(株)	電気・電子工学	1
(独)建築研究所	建築建設工学	1
	計	10

(事務局資料)

資料 2-2-3 創業型実践大学院工学教育プログラム（平成 19 年度）技術経営カリキュラム修了者の評価

普段工学部では習えない教科（財務，経営学，マーケティング論など）が多く，大変参考になった。  
 ものづくりに必要なコストの考え方や財務知識が出来てよかった。  
 企業の経営分析の手法が学べた。  
 ビジネスプランの作り方を指導してもらってビジネスプランコンテストに参加でき賞をもらった。  
 就職活動で MOT を修了したことは大いに PR となつたし，面接での話題を提供できてよかった。

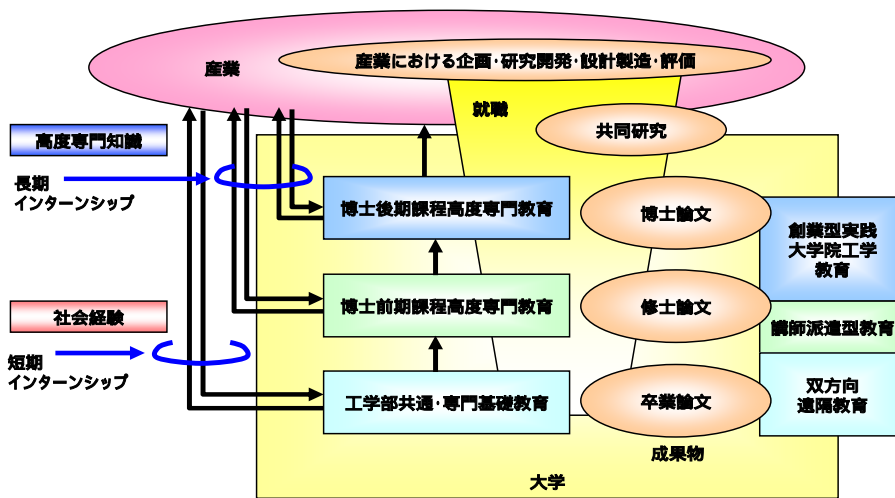


技術経営カリキュラム修了証書

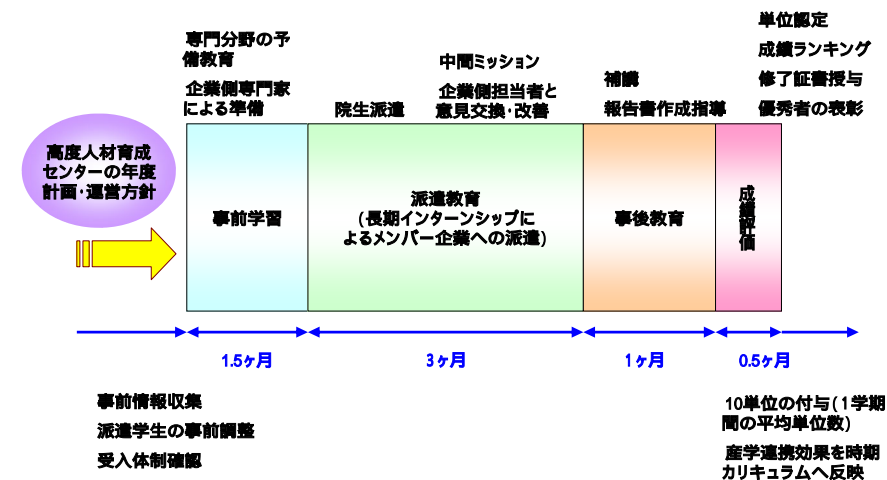
（修了大学院生アンケート調査結果（創業型実践大学院工学教育プログラム実施委員会資料））

資料 2-2-4 長期インターンシップ（派遣型高度人材育成協同プラン）及びプロジェクト概要

本教育プロジェクトにおける派遣型高度人材育成のハイアラキカル構成

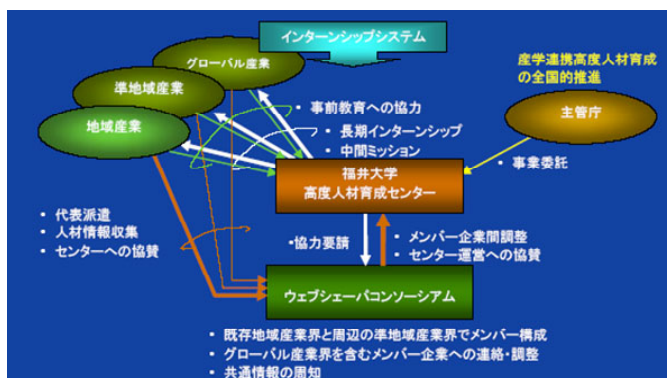


本教育プロジェクトにおける派遣型高度人材育成のスキーム



プロジェクト概要

教員と企業の代表者から成る派遣型高度人材育成センターを工学研究科内に設置し、協賛企業の連合体と連携の下、厳選された大学院生を企業に長期派遣する。これにより、産業の取組みを理解し、自主的に問題を解決する素養のある高度専門人材の育成を目指す。地域協賛企業の高度専門人材育成関連部門を横断的に連合した組織との密接な連携の下に、持続性のある派遣教育を実施していく点において、これまでにない新しいコンセプトのインターンシップである。



平成 18 年度

派遣先	専攻	人数
セーレン(株)	博士前期課程 情報・メディア工学専攻	2
福井コンピュータ(株)	博士前期課程 情報・メディア工学専攻	1
(株)ネスティ	博士前期課程 情報・メディア工学専攻	1
(株)NTTデータ北陸	博士前期課程 ファイバーアミニティ工学専攻	2
(株)NTTドコモ北陸	博士前期課程 情報・メディア工学専攻	1
富士通(株)	博士前期課程 情報・メディア工学専攻	3
合 計		10

平成 19 年度

派遣先	専攻	人数
(株)ネスティ	博士前期課程 情報・メディア工学専攻	1
(財)若狭湾エネルギー研究センター	博士前期課程 原子力・エネルギー安全工学専攻	1
(株)システムラン	博士前期課程 情報・メディア工学専攻	1
(株)NTTデータ北陸	博士前期課程 ファイバーアミニティ工学専攻	2
(株)アイ・オー・データ機器	博士前期課程 情報・メディア工学専攻	1
(株)富士通研究所	博士前期課程 情報・メディア工学専攻	2
マコー(株)	博士後期課程 物質工学専攻	1
ソニーEMCS(株)美濃加茂テック	博士前期課程 情報・メディア工学専攻	1
(独)産業技術総合研究所	博士前期課程 ファイバーアミニティ工学専攻	1
(独)産業技術総合研究所	博士後期課程 ファイバーアミニティ工学専攻	1
合 計		12

(工学部現況調査表)

資料 2-2-5 長期インターンシップ派遣学生からのコメント

ユーザ要求に対するソフトウェアアプリケーションの設計に従事し、多くの困難に直面しながら、自ら解決していく喜びを感じた。

会社訪問等では分からない従業員のふだんの環境の中で、仕事をどう進めていくのか、その位置づけを体感し、従業員との会話の中から新たな発見をし、じっくりと仕事に取り組むことができた。コミュニケーション能力の重要性、チームワークでは自分の仕事を他のメンバーに理解してもらうことの重要性を感じた。

システム提案から、実現、運用まで、マーケティングの流れすべてを経験でき、有意義であった。自分から積極的に動く必要性も感じた。

毎週、進捗状況の発表を行い、プレゼンテーションの進め方の注意点について多くを学んだ。

技術的な知識を習得しただけでなく、業務の状況報告や上司と相談の上で、断然課題追求していくことの重要性を理解でき、大きな収穫となった。

(工学部現況調査表)



計画 2-3 「【大学院課程】社会人，外国人など多様な学生の受入れ体制とそのための教育課程の整備を進める。」に係る状況

各研究科では，平成 17 年度から大学院長期履修制度の活用【P108 資料 2-2-8～9】夜間・特定時間帯での開講を行う夜間主コースの設置【資料 2-3-1】及び大学院設置基準第 14 条（教育方法の特例）の適用など【資料 2-3-2】，社会人の受入れ体制を整備した。

資料 2-3-1 教育学研究科夜間主コース，夜間主・学校改革実践研究コース受入れ状況

(人)

年度 コース	平成15 年度	平成16 年度	平成17 年度	平成18 年度	平成19 年度	合計
夜間主コース		3	4	4	4	15
夜間主・学校改革実践研究コース	4	7	9	4	6	30
合 計	4	10	13	8	10	45

時間的制約の多い社会人等（現職教員）の便宜に配慮して，夜間の時間帯において授業を行う制度。

(事務局資料)

資料 2-3-2 大学院設置基準第 14 条（教育方法の特例）適用者状況

(人)

研究科	年度	平成15年度	平成16年度	平成17年度	平成18年度	平成19年度	合計
教育学研究科	前期	14 (研究指導)	9 (研究指導)	8 (研究指導)	8 (研究指導)	9 (研究指導)	48
	後期	14 (研究指導)	9 (研究指導)	8 (研究指導)	8 (研究指導)	9 (研究指導)	48
医学系研究科 修士課程	前期	13 (研究指導)	13 (研究指導)	19 (研究指導)	21 (研究指導)	16 (研究指導)	82
	後期	13 (研究指導)	13 (研究指導)	19 (研究指導)	21 (研究指導)	16 (研究指導)	82
医学系研究科 博士課程	前期	69 (研究指導)	70 (研究指導)	75 (研究指導)	72 (研究指導)	84 (研究指導)	370
	後期	69 (研究指導)	72 (研究指導)	77 (研究指導)	72 (研究指導)	92 (研究指導)	382
工学研究科 博士前期課程	前期						0
	後期						0
工学研究科 博士後期課程	前期	32 (24科目， 研究指導)	35 (19科目， 研究指導)	24 (29科目， 研究指導)	26 (37科目， 研究指導)	24 (4科目， 研究指導)	141
	後期	33 (25科目， 研究指導)	39 (25科目， 研究指導)	31 (28科目， 研究指導)	29 (14科目， 研究指導)	21 (6科目， 研究指導)	153
合 計	前期	128	127	126	127	133	641
	後期	129	133	135	130	138	665

科目数は延数

(事務局資料)

教育学研究科では、他学部出身者で新たに教員免許証を希望する社会人に対して平成18年度に「教育職員免許取得プログラム」を設置した【資料2-3-3】。さらに、平成17年度教員養成GPに「学校を拠点に教員の協働実践力を培う大学院」が採択され【資料2-3-4】、さらに平成20年度より「教職大学院」【P108 資料2-2-7】を開設することは、教育課程の整備への積極的な取組として特記される。

資料 2-3-3 教育職員免許取得プログラム実施状況

他学部出身者で新たに教員免許取得を希望する者や、他種免許の取得を希望する者のために、在学中に一種免許及び専修免許の取得が可能な「教育職員免許取得プログラム」を平成18年度から実施している。平成18年度は3名、平成19年度は5名の入学者がこの履修制度を利用している

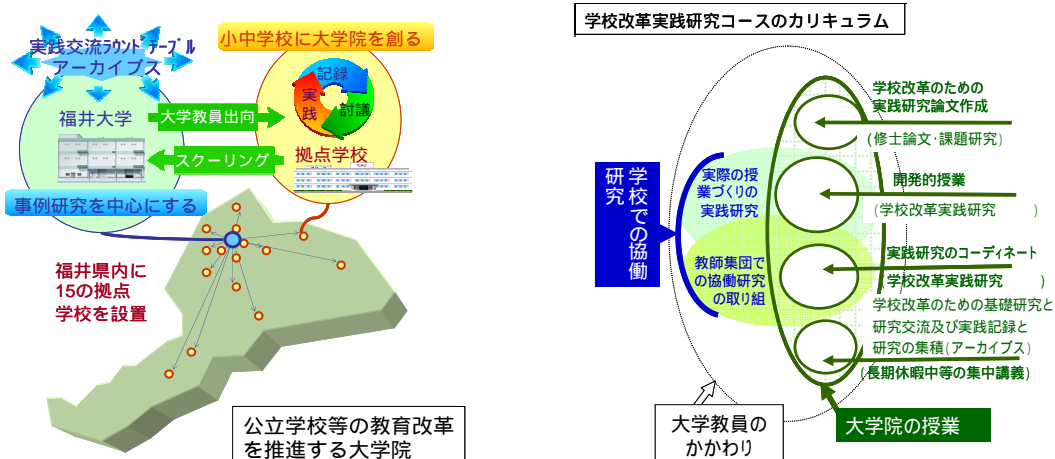


入学年度 専修	氏名	入学前取得免許	許可免許	備考
		取得希望免許		
平成19年度 学校教育	A	なし 小学校1種, 中学校(国語・英語)1種, 高校(国語・英語)1種	小学校1種	
平成19年度 障害児教育	B	なし 小学校1種, 中学校(英語)1種	小学校1種	
平成19年度 数学教育	C	高校(数学)1種 小学校1種, 中学校(数学)1種	小学校1種	平成19年度後期から科目等履修生出願希望・中学校(数学)1種
平成19年度 英語教育	D	中学校(英語)1種, 高校(英語)1種 小学校1種	小学校1種	
平成19年度 英語教育	E	中学校(英語)1種, 高校(英語)1種 小学校1種	小学校1種	
平成18年度 学校教育	F	なし 小学校1種, 中学校(英語)1種, 高校(英語)1種	小学校1種	
平成18年度 障害児教育	G	なし 小学校1種, 中学校(数学)1種, 高校(数学)1種, 養護学校1種	中学校(数学)1種	
平成18年度 数学教育	H	高校(数学)1種 小学校1種, 中学校(数学)1種	小学校1種	平成19年度後期から科目等履修生出願希望・中学校(数学)1種

(教育職員免許取得プログラムパンフレット及び基礎資料)

資料 2-3-4 学校を拠点に教員の協働実践力を培う大学院

【取組の概要】  
21世紀の学校教育を担う教員の実践力をどう形成するか。本プロジェクトは学校拠点の協働実践を核とするモデルを提起する。  
特質は3つある。  
学校拠点の教員と研究者との協働の授業開発  
実践・分析・再構成のサイクルによる実践と研究の融合と持続的発展  
学校を超えた実践交流ネットワークの組織化



(「福井大学基礎資料」及び「大学・大学院における教員養成推進プログラム申請書」より)

医学系研究科修士課程では専門看護師教育課程設置の一環として、平成 19 年度「がんプロフェッショナル養成プラン」に、金沢大学等と共同申請した「北陸がんプロフェッショナル養成プログラム」が採択され、医療関係者の受け入れ体制を整備した【資料 2-3-5】。

資料 2-3-5 北陸 5 大学の連携による「がんプロフェッショナル養成プログラム」の実施

質の高いがん専門医等を養成する優れたプログラムに対し、文部科学省が財政支援を行う「がんプロフェッショナル養成プラン」において、平成 19 年度、北陸地区 5 大学（福井大、金沢大、富山大、金沢医科大、石川県立看護大）が共同申請した「北陸がんプロフェッショナル養成プログラム - ICT による融合型教育システム及び「がんプロネット」の構築 -」が採択された。

本学では「がん看護専門看護師（OCNS）」の教育課程を設定している。

平成 20 年 2 月には、次年度からの本格導入を前に同プログラムの内容や意義、がん看護専門看護師への理解を深めるためにワークショップを開催し、県内外から約 100 名の看護師の参加を得た。

福井大など北陸の 5 大学の連携により、がん看護専門看護師の養成に取り組む。同プログラムは、がんプロネットの連携により、がん看護専門看護師の養成に取り組む。同プログラムは、がんプロネットの連携により、がん看護専門看護師の養成に取り組む。同プログラムは、がんプロネットの連携により、がん看護専門看護師の養成に取り組む。

## がん専門看護師育て

### 北陸 5 大学連携し講座

永平寺町



がん看護専門看護師について約 100 人が理解を深めたワークショップ＝16日、永平寺町の福井大松岡キャンパス

射撃技師の育成を目指す。ワークショップは、OCNS の教育課程（二年間）を春開設する福井大が、OCNS を目指すきっかけとして、同大における同養成プログラムの第一弾として開いた。

同大の松岡浩子看護学部長が、同養成プログラムの概要を説明。大阪大附属病院で OCNS として活躍する田邊恵子さんが、大学院での学習内容や現在の活動を紹介した。田邊さんは「高度な知識を持つことで、一般の看護師では難しい病棟の検閲や検査体制の調整や後援の指導ができるようになった」と資格取得の意義を述べた。県内の看護部長らが専門看護師への期待を発表。質疑応答も行われ、より質の高い看護を目指して意見が交わされた。

（福井新聞 H20.2.17）

北陸がんプロフェッショナル養成プログラム開講講座一覧（本学開催分）

講座名	講座内容	対象者
腫瘍薬物学特論	抗がん剤の基礎的知識および作用機序と有害事象についての理解を深める。効果予測因子としてのバイオマーカーについても最新の知識を学ぶ。	医師、薬剤師、看護師、診療放射線技師
腫瘍放射線医学特論	根治療法および緩和療法としての放射線療法の適応や、治療計画および線量測定の原理を理解する。放射線治療の急性作用と遅発性作用の療法を把握する。	医師、薬剤師、看護師、診療放射線技師
がん緩和医療学特論	がん緩和医療法に用いる薬剤の作用を理解し、緩和療法とはどのようなものであるかを理解する。緩和療法、支持療法における和漢薬についても理解を深める。	医師、薬剤師、看護師、診療放射線技師
がん外科学特論	外科医とともに、手術の適応および禁忌の理解を深め、悪性疾患患者の病期分類、根治療法、緩和医療における手術の役割を熟知する。	医師、薬剤師、看護師、診療放射線技師
臨床腫瘍学特論	治療の一般原則を理解した上で、各種のがん治療および各悪性腫瘍に特有で考慮すべき事項について指導を受ける。	医師、薬剤師、看護師、診療放射線技師
腫瘍病理学特論	がんの確定診断と重症度、進展度を判断する上での病理学的診断の重要性を理解する。各種がん細胞における病理学的特徴についての知識を習得する。	医師、薬剤師、看護師、診療放射線技師
臨床栄養学特論	がん臨床における栄養摂取、代謝などの変化を理解し、がん診療に必須の栄養学を多方面からのアプローチで習得する。	医師、薬剤師、看護師、診療放射線技師、栄養士、歯科医師

（事務局資料）

工学研究科では、外国人留学生のニーズに対応して、国際総合工学特別コースを設けて英語による教育・研究指導を実施した【資料2-3-6】。平成19年度から博士後期課程に、日本人と留学生の共学の国際共学ネットワーク特別コースを新設した。【P75資料2-3-7】。これらのコースの留学生数は国費留学生枠を満たしている【P75資料2-3-8】。

資料2-3-6 国際総合工学特別コース教育課程表（抜粋）

Global Engineering Program for International Students (GEPIS)

国際総合工学特別コース

Materials, System Design Engineering 物質・システム設計系		履修方法
Subject (授業科目)	Credits 単位	
Environmental Strength of Materials	環境材料強度学	1.本表の授業科目から業科目及び所属専攻教育課程表の授業科目から10単位以上選択。 2.所属する専攻の必修科目,特別演習及び実験を8~10単位必修。ただし,科学英語関係科目は除く。 3.所属専攻の選択科目(科学英語関係科目を除く),研究科共通科目及び本表中から10~12単位以上履修する。ただし,研究科共通科目及び他専攻科目は8単位までを修了に必要な単位数に算入することができる。 4.上記条件を満たして,合計30単位以上を履修すること。 5.日本語関係科目は,単位の認定されない科目である。この科目を履修した場合は,請求により履修証明書を交付する。
Fluid Mechanics	流体力学	
Dynamics	動力学	
Advanced Engineering for Electric Energy *	電気エネルギー基礎論 *	
Advanced System Science *	システム工学特論 *	
Digital Network, Adv.	デジタルネットワーク特論	
Information Theory and Data Compression, Adv.	情報理論とデータ圧縮特論	
Environmental Hydraulics	環境水理学	
National and Regional Planning, Adv.	国土・地域計画特論	
Town and Country Planning, Adv.	都市論	
Theory of Polymer Solution	高分子溶液論	
Material Processing and Engineering	材料加工工学特論	
Bioengineering, Adv.	生物工学特論	
Organic Chemistry, Adv.	有機化学特論	
Advanced Quantum Mechanics	量子力学特論	
General Relativity	相対論特論	
Introduction to Field Theory and Particle Physics	場の理論と素粒子物理学入門	
Physics of Magnetism	固体物理学	
Cryogenic Engineering	低温工学	
Application of Spectroscopy on condensed matter	分子分光光学特論	
Advanced Bioinformatics	生体情報工学特論	
Motion Control of Robots	ロボット運動制御論	
<b>Inter-Faculty Japanese Language Program 日本語関係科目</b>		
Japanese	日本語	
Japanese	日本語	
Japanese	日本語	
Japanese	日本語	

\* 3人以上の受講者がある場合のみ開講

(大学院生便覧)

資料 2-3-7 国際共学ネットワーク特別コース教育課程表（抜粋）

博士後期課程教育課程表

Global Network Engineering Program for International Students (GNEPIS)

国際共学ネットワーク特別コース

Material Engineering Sub-Course 物質工学サブコース		Credits	Requirements
Subject			
Advanced Physical Engineering	物理工学特別講義	2	1. 本表の所属専攻講座 担当授業科目及び所属 専攻教育課程表の授業 科目から4単位以上 選択。 2. 所属専攻講座の特別 演習2単位及び研究 ゼミナール4単位必 修。 3. 上記条件を満たして 合計10単位以上を履 修すること。 4. 日本語関係科目は、 単位の認定されない 科目である。この 科目を履修した場合 は、請求により履修 証明書を交付する。
Advanced Physical Engineering	物理工学特別講義	2	
Exercises for Physical Science	物理工学特別演習	1	
Exercises for Physical Science	物理工学特別演習	1	
Seminar for Physical Science	物理工学研究ゼミナール	2	
Seminar for Physical Science	物理工学研究ゼミナール	2	
Advanced Molecular Engineering	分子工学特別講義	2	
Advanced Molecular Engineering	分子工学特別講義	2	
Molecular Engineering Exercise	分子工学特別演習	1	
Molecular Engineering Exercise	分子工学特別演習	1	
Molecular Engineering Special Seminar	分子工学研究ゼミナール	2	
Molecular Engineering Special Seminar	分子工学研究ゼミナール	2	
Advanced Biological and Applied Chemistry	生物応用化学特別講義	2	
Advanced Biological and Applied Chemistry	生物応用化学特別講義	2	
Advanced Seminar in Applied Chemistry	生物応用化学特別演習	1	
Advanced Seminar in Applied Chemistry	生物応用化学特別演習	1	
Research Seminar	生物応用化学研究ゼミナール	2	
Research Seminar	生物応用化学研究ゼミナール	2	
Advanced Materials Processing	物質加工学特別講義	2	
Advanced Materials Processing	物質加工学特別講義	2	
Advanced Practice in Material Processing	物質加工学特別演習	1	
Advanced Practice in Material Processing	物質加工学特別演習	1	
Seminar in Material Processing	物質加工学研究ゼミナール	2	
Seminar in Material Processing	物質加工学研究ゼミナール	2	
Inter-Faculty Japanese Language Program 日本語関係科目			
Japanese	日本語	2	
Japanese	日本語	2	
Japanese	日本語	2	
Japanese	日本語	2	

（大学院生便覧）

資料 2-3-8 GEPIS 及び GNEPIS プログラムへの外国人留学生の入学数の推移

年度	平成 13	平成 14	平成 15	平成 16	平成 17	平成 18	平成 19
博士前期課程				1	5	7	2
博士後期課程	8	9	8	7	7	6	6
国費留学生枠	6	6	6	6	6	6	4

博士後期課程は平成 13 年度に GEPIS 開始，平成 19 年度に GNEPIS 開始

博士前期課程は平成 16 年度に GEPIS 開始

（事務局資料）

計画 2-4 「【大学院課程】学問的進歩や社会的ニーズに鑑みたカリキュラムの編成に努める。」に係る状況

教育学研究科では、平成 20 年 4 月の「教職大学院」開設【P108 資料 2-2-7】と併せ、既存の大学院についても総体として、21 世紀の知識基盤社会に生きる力を培う教育を支える専門職のための中核機関としての再編成（新・学校教育専攻と新・教科教育専攻の設置）を行い、社会的なニーズに適切に対応した【資料 2-4-1】。さらに教員養成学部以外の卒業生を対象に、教育職員免許取得プログラムを平成 18 年度に開始した【P77 資料 2-4-2】。

資料 2-4-1 既設大学院の改組概要の例（教育学研究科）

## 学校教育専攻

学校教育が直面する諸課題は、学校の内部努力だけで解決できるものではなく、学校を支える地域との協働により解決の糸口を探る営みが今求められています。学校教育専攻は地域に支えられた学校のあり方を実践的に学び、新しい地域-学校モデルを創生しようとする専攻です。

### 学校教育専攻の特徴

- 学校教育専攻の教育課程は、新たな学校教育の課題にかなう教職専門の資質と能力、これまでの障害児教育専攻で培ってきた、多様なニーズに応える学習支援を行う資質と能力、学校とそれを支える地域コミュニティの協働という三つの柱から構成されています。
- 学校を支えるコミュニティの再生と人間力を形成するために、必修科目「協働実践研究プロジェクト」において、子どもたちや家族の多様なニーズに応える見識と専門的力量、そして生涯学習、地域の文化振興、健康教育、環境教育、国際教育など、学校と地域の連携なくしては実現できない諸課題を体験的に実践研究します。

## 教科教育専攻

21世紀の知的基盤社会に生きる力は、PISA（OECD生徒の学習到達度調査）のリテラシーに象徴されるような実践的探究的な学力であると考えられます。教科教育専攻では、教科専門の力を伸ばすとともに、リテラシーと人間力を育むためのカリキュラム開発を通じて、児童生徒の真の学力向上を支援できる教員の養成を目指します。

### 教科教育専攻の特徴

- 専門領域別教育研究と課題研究の履修および修士論文作成を通じて、教師に求められる高度な教科専門性と指導力を身につけます。
- 必修科目「協働実践研究プロジェクト（PISA型、探究と体験型カリキュラム開発）」では、大学院生と教員による2年間の協働研究を通じて、児童・生徒のリテラシー形成と人間力育成を支援するための教科横断的なカリキュラム開発と授業プランの検討を行います。
- 教育を深く考え、柔軟に発想する力を持ち、より高度な教科専門性と実践力を身につけ、教育現場での授業開発や協働研究において中心的な役割を果たし得る教員を養成します。

### 教科教育専攻の教育課程 (計30単位以上)

**協働実践研究プロジェクト**  
知的基盤社会に生きる  
リテラシーを育てるカリキュラム開発

PISA型  
探究と体験型

(8単位)

### 領域別専門科目

教科教育研究  
教科に関する科目

(計18単位以上)

### 課題研究(4単位)・修士論文

(大学院教育学研究科パンフレット)

## 教育職員免許取得プログラムに基づく学部の教員養成カリキュラムの履修に関する申合せ

## 1. 取得できる教員免許状の数

教育職員免許取得プログラム（以下「本プログラム」という。）に基づき，学部の教員養成カリキュラムを履修し取得することができる教員免許状は，原則として1種類かつ1教科とする。ただし，中学校又は高等学校のいずれかの学校の1教科に係る教員免許状の取得を許可された者が，必要な単位を修得した結果，もう一方の学校の同一教科に係る教員免許状の取得要件を満たすこととなった場合は，この限りでない。

## 2. 他大学等における既修得単位の認定

本研究科入学前に課程認定以外の大学の課程等で修得した単位で，本プログラムに基づき取得する教員免許状の教科に関する科目の単位として適当であると認めるときは，教育職員免許法（昭和24年法律第147号）別表第1備考第5号口の規定に基づき，「他の大学等において修得した単位，大学以外の教育施設等における学修，入学前の既修得単位等に対する教育地域科学部における単位の認定手続に関する申合せ（平成12年2月4日教授会決定）」を準用し，学部教務学生委員会及び研究科委員会の議を経て，本プログラムに基づき学部の教員養成カリキュラムを履修し修得したものとみなし，単位を認定することができるものとする。

## 3. 科目の学籍簿登載

本プログラムに基づき，教員免許状を取得するために学部の教員養成カリキュラムを履修し単位を修得した科目（上記2により単位を認定された科目を含む。）は，学籍簿に登載する。

## 4. 学部科目等履修生としての出願承認

本プログラムに基づき取得することを許可された教員免許状に加え，さらに別の種類又は教科の教員免許状の取得を希望する者があるときは，本研究科入学前に他の大学・学部等で当該教員免許状取得に必要な単位を相当程度修得している等の理由により，本プログラムに基づく大学院の教育課程の履修及び学部の教員養成カリキュラムの履修に特段の支障がないと認められる場合に限り，「大学院教育学研究科学生及び入学予定者の科目等履修生出願の承認に関する申合せ（平成16年5月7日研究科委員会決定）」に基づき，研究科委員会の議を経て，学部科目等履修生としての出願を認めることができるものとする。

## 附 則

この申合せは，平成19年7月6日から施行する。

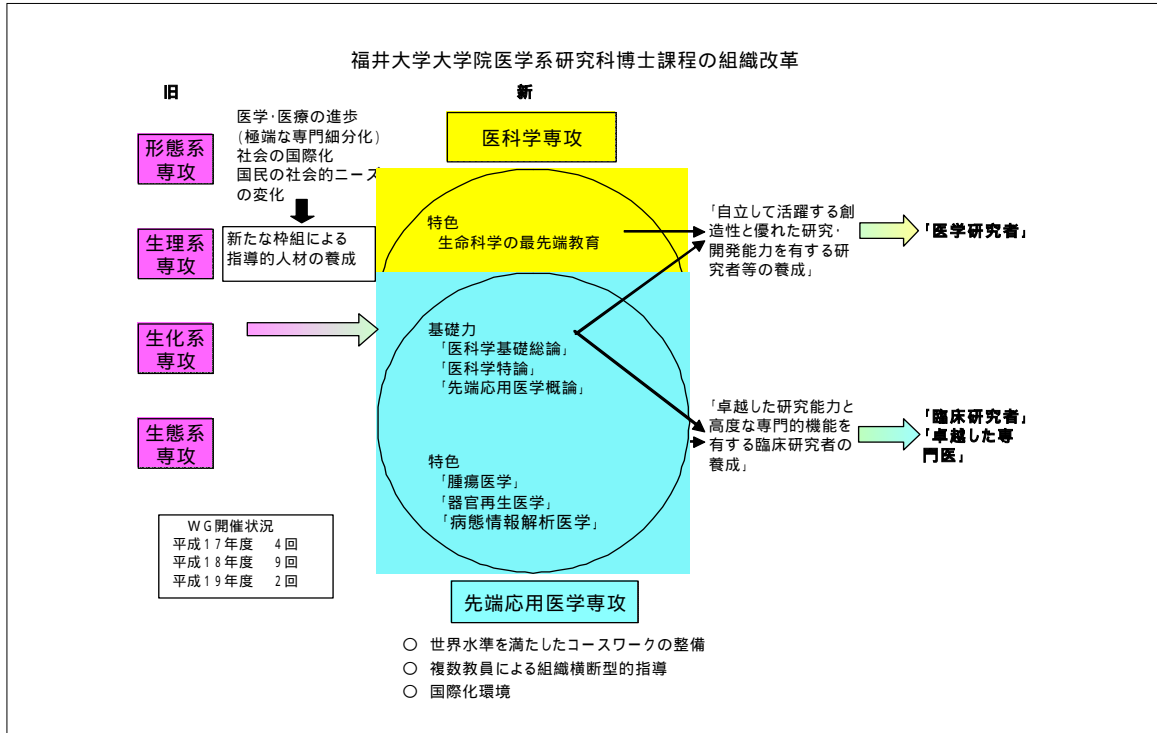
## 教育職員免許取得プログラム履修許可状況

取得年度	取得人数
平成 18 年度	3 名
平成 19 年度	5 名
平成 20 年度	4 名

（教育学研究科資料）

医学系研究科博士課程では、学問的進歩に対応するため平成 20 年に大学院教員組織体制を改組し、新規カリキュラムを編成することによって大学院教育をさらに実質化する【資料 2-4-3】。また、同修士課程では「がんプロフェッショナル養成プラン」に基づく専門看護師教育課程を平成 19 年度に設置し、社会的なニーズに適切に対応した【P73 資料 2-3-5】。

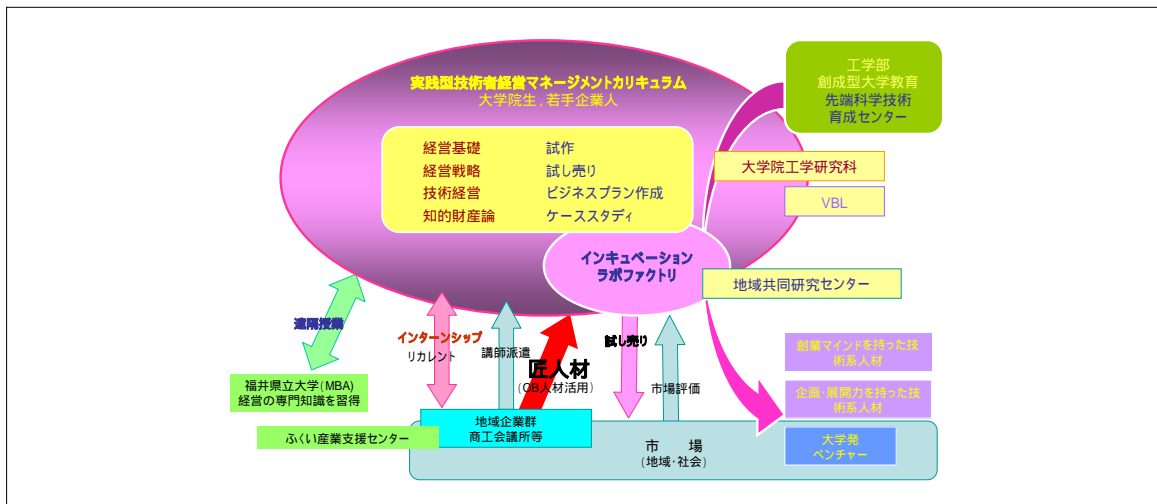
資料 2-4-3 医学系研究科博士課程の組織改革



(事務局資料)

工学研究科では、平成 18 年度文部科学省予算による「派遣型高度人材育成協同プラン」や平成 18 年度文部科学省特別教育研究経費による「創業型実践大学院教育プログラム」を開始し、企業等での実践力を重視した教育を推進した【資料 2-4-4】。特に、これら取組を取入れた「学生の個性に応じた総合力を育む大学院教育」【P79 資料 2-4-5】が平成 19 年度大学院教育改革支援プログラムに採択されたことは、これら取組が高く評価された証左である。

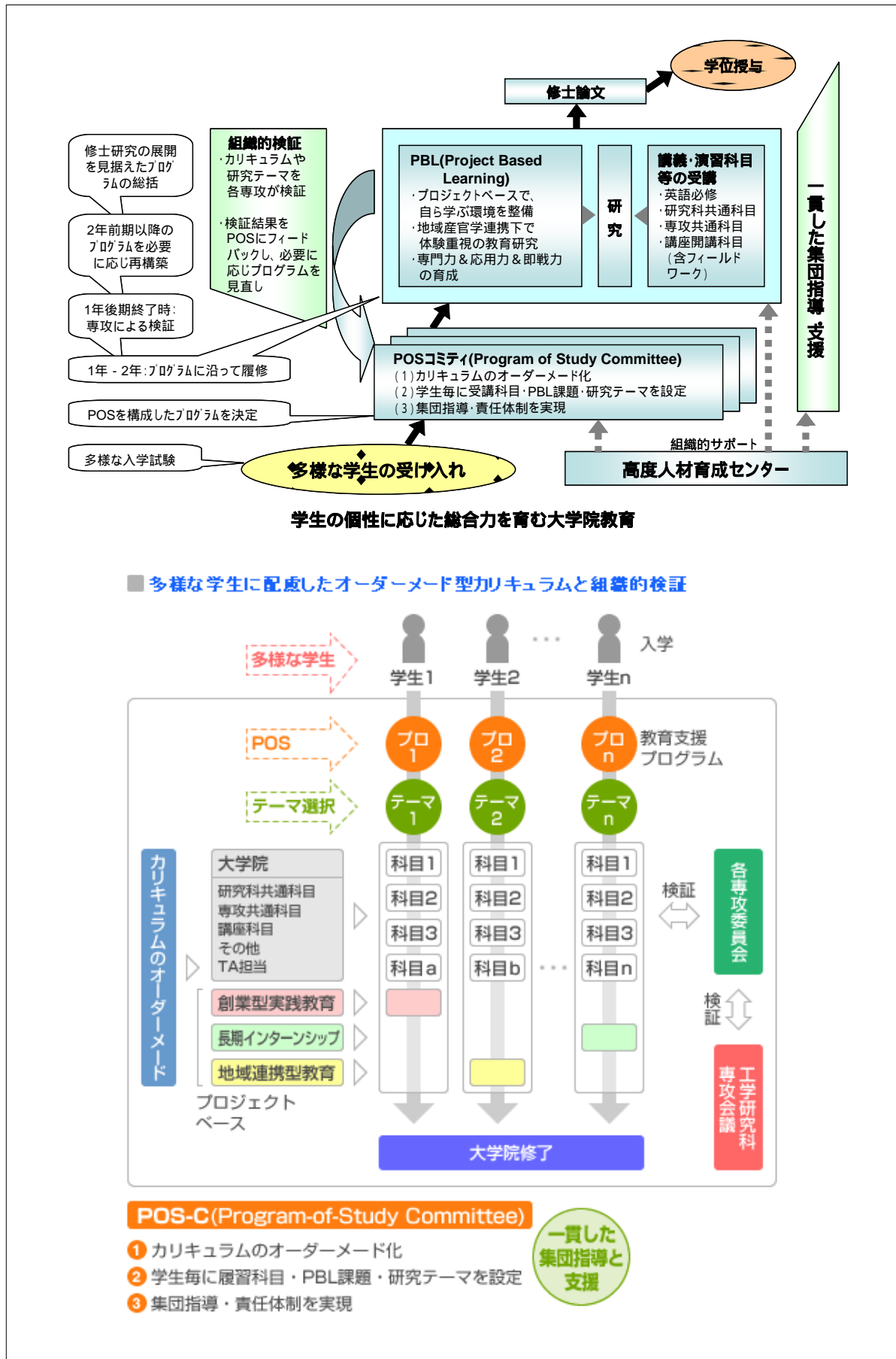
資料 2-4-4 創業型実践大学院の概要



(工学部資料)



資料 2-4-5 「学生の個性に応じた総合力を育む大学院教育」の概要



教育 1

中項目 1 教育の成果「計画 2-4」

(学生の個性に応じた総合力を育む大学院教育パンフレットより)

計画 2-5 「大学院医学系研究科博士課程では、21 世紀 COE プログラムの教育実施計画に基づく大学院学生の支援を行う。」に係る状況

COE 特別研究員制度【資料 2-5-1~2】により平成 16 年度から毎年 1 名の研究員を採用し、大学院生を支援した。当該大学院生による研究成果は原著論文として公表された【P81 資料 2-5-3】。さらに、大学院生の国際学会における研究発表の機会を増やすため、公募による出張旅費の支援を行った（平成 18 年度 5 件；平成 19 年度 5 件）。

資料 2-5-1 COE の概要



「生体画像医学の統合研究プログラム」



プロジェクトリーダー

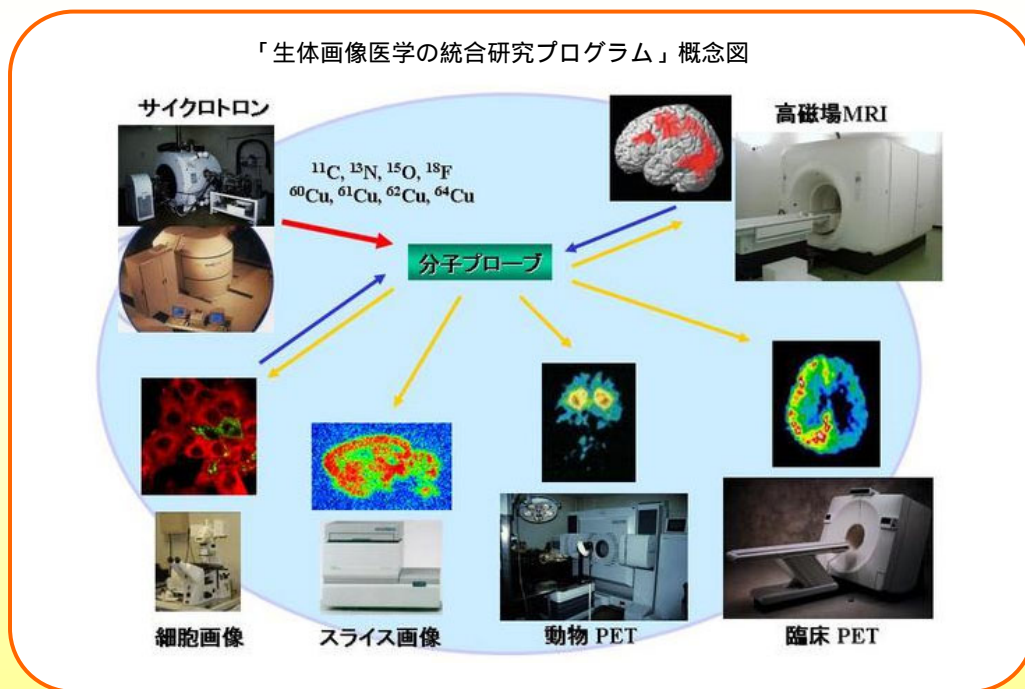
高エネルギー  
医学研究センター  
センター長  
藤林 康久

- 生体画像医学から新しい診断・医療の創成
- ・生命現象の理解から疾患の理解へと繋がる新知見の発見
  - ・臨床診断，治療に津ながら薬物・技術の創成

- “近代の知”と“臨床の知”を併せ持つ人材の育成
- ・近代の知：分子生物学を代表とする解析的研究能力
  - ・臨床の知：多面的生命現象の統合的解析能力

- 人材を育む環境の整備
- ・有機的に組織された実験機器と高度研究支援者集団  
基礎研究機器から臨床診断機器までの一括運営・管理  
高度研究支援者の養成と指導
  - ・アイデア重視の研究指導・支援  
プロジェクト提案型研究の指導・独立支援  
博士研究員・リサーチアシスタント制度による支援
  - ・独創性，研究実施能力に対する的確な評価システム  
COE 推進本部，COE 運営委員会の設置

「生体画像医学の統合研究プログラム」概念図



(福井大学 H P 「高エネルギー医学研究センター H P」)

## 資料 2-5-2 COE 特別研究員制度の概要

この度、本学 21 世紀 COE プログラム「生体画像医学の統合研究プログラム」では、日本学術振興会特別研究員（21 世紀 COE プログラム）を採用することとなりました。

画像情報を利用した基礎・臨床医学研究をはじめとして、本 COE 実施計画に合致する研究を専門分野とする大学院博士課程在学者の応募をお待ちしています。

## 1. 募集人員

## 2. 応募資格

## (1) 特別研究員-D C 1 (大学院博士課程在学者)

【年齢】平成 18 年 4 月 1 日現在, 34 歳未満(医学, 歯学または獣医学を履修する課程に在学する者は 36 歳未満)

【身分】平成 18 年 4 月 1 日現在, 我が国の大学院博士課程に在学し, 次のいずれかに該当する者(外国人も含む)

区分制の博士課程後期第 1 年次に在学する者

一貫性の博士課程第 3 年次に在学するもの

後期 3 年の課程のみの博士課程第 1 年次に在学する者

医学, 歯学又は獣医学系の博士課程第 2 年次に在学する者

～ において, 平成 18 年 4 月に博士課程後期等に進学する予定の者を含む

## (2) 特別研究員-D C 2 (大学院博士課程在学者)

【年齢】平成 18 年 4 月 1 日現在, 34 歳未満(医学, 歯学または獣医学を履修する課程に在学する者は 36 歳未満)

【身分】平成 18 年 4 月 1 日現在, 我が国の大学院博士課程に在学し, 次のいずれかに該当する者(外国人も含む)

区分制の博士課程後期第 2 年次以上の年次に在学する者

一貫性の博士課程第 4 年次以上の年次に在学する者

後期 3 年の課程のみの博士課程第 2 年次以上の年次に在学する者

医学, 歯学又は獣医学系の博士課程第 3 年次以上の年次に在学する者

ただし, 平成 18 年 4 月 1 日において博士課程に標準修業年限を越えて在学することになる者も DC 2 として応募できます

(COE 特別研究員制度支援大学院生募集要項より)

## 資料 2-5-3 支援大学院生による研究成果(原著論文)

1. 都築秀明, 藤枝重治, 坂下雅文, 呉 明美, 成田憲彦, 田中 健, 小嶋章弘, 斎藤 等: 甲状腺癌の術後インタクト PTH 値の検討. 耳鼻臨床. 96 (12), 1103-1108, 2003,12.
2. 藤枝重治, 田中 健, 東野正明, 高橋 昇, 坂下雅文, 意元義政, 扇 和弘, 伊藤有未, 山田武千代: 花粉症と咳, アレルギー性副鼻腔炎について. 耳鼻免疫アレルギー. 23(3), 23-26, 2005,9.
3. Furukawa T, Lohith TG, Takamatsu S, Mori I, Tanaka I, Fujibayashi Y.: Potential of the FES-hERL PET reporter gene system -- basic evaluation for gene therapy monitoring. Nucl Med Biol. 33(1), 145-151, 2006,1.
4. Tanaka I, Furukawa T, Fujieda S, Kasamatsu S, Yonekura Y, Fujibayashi Y.: Double-tracer autoradiography with Cu-ATSM/FDG and immunohistochemical interpretation in four different mouse implanted tumor models. Nucl Med Biol. 33(6), 743-750, 2006,8.
5. Inaoka, Y., Yazawa, T., Uesaka, M., Mizutani, T., Yamada, K., Miyamoto, K.: Regulation of Nur77/NGFI-B gene expression in the rat ovary and in Leydig tumor cells MA-10. Mol. Reprod. Dev. (in press.)

(注) 下線が支援大学院生

(高エネルギー医学研究センター資料より)

プロジェクト提案型研究の一環として、高エネルギー医学研究センターでは大学院生の積極的な受入・研究指導によって大学院生の支援を推進した(平成 17 年度国費留学生 1 名;平成 18 年度国費留学生 3 名および工学系研究科 4 名;平成 19 年度国費留学生 4 名および工学系研究科 7 名)。

計画 2-6 「中期計画に記述されていない措置等」に係る状況

「工学部・工学研究科では，大学教育支援プログラムやG Pの支援の下に，実践的教育プログラムの整備・充実を図る。

工学部では，平成 17 年度現代G P「地域教育活動の場の持続的形成プログラム」【P32 資料 1-5-11】の実施，また，平成 18 年度概算要求により，創成教育を担う先端科学技術育成センター【P31 資料 1-5-10】を設置し，学生の「課題提案能力」や「探求的課題解決能力の形成」等の創成教育を養うカリキュラムを充実させた【P33 資料 1-5-12】。

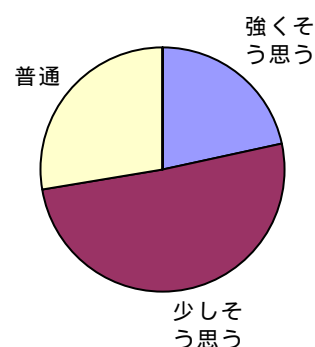
創造性・企画力を備えた人材を求める産業界の要請にも応えて【資料 2-6-1～2】，博士前期課程には，特別教育研究経費の配分を受けた「創業型実践大学院工学教育による人材育成」事業及び平成 19 年度大学院教育改革支援プログラム「学生の個性に応じた統合力を育む大学院教育」により，実践的な高度専門技術者を養成している。

資料 2-6-1 平成 19 年度就職先企業に対するアンケート調査結果

【設問】理工系教育について日頃色々とお感じになっていることと思います。下記の項目についてご意見をお聞かせ下さい。

創造性・企画力の育成をもっと重視すべき

回答	件数	回答率
強くそう思う	11	21.6%
少しそう思う	26	51.0%
普通	14	27.4%
あまり思わない	0	0.0%
全く思わない	0	0.0%



(平成 19 年度企業アンケート 調査結果 (自己点検・評価委員会資料))

資料 2-6-2 創業型実践大学院工学教育プログラム始まる (抜粋)

優れた「ものづくり」技術を武器に世界で活躍してきた日本が，現在，その地位を失いつつあります。それは，安い労働賃金を背景に中国などの発展途上国に生産の拠点・主体がどんどん移っていているためです。優れたものづくり技術さえも，生産拠点がなくなり受け継ぐ後継者がいないために，日本から消え去ろうとしています。このように，日本の産業社会は大きな変革期を迎えています。このような状況を打破するためには，大量生産・低コスト化を追求する従来型の生産活動から，斬新で付加価値が高く，少量生産でも利益率の高い開発型生産へと移行することです。そこには，専門知識だけでなく，経済・経営的視点とともに 企画・展開力を持った技術系人材が必要です。

(福井大学HPより)

工学研究科では，即戦力としての知識・能力の育成に重点を置くべきとする企業の要請にも応えて【資料 2-6-1～2】，平成 18 年度に派遣型高度人材育成協同プラン事業に採択され，長期インターンシップにより，企業との連携の下に高度専門人材を育成している【P69 資料 2-2-4】。平成 18 年度は 10 名，平成 19 年度は 12 名 (内博士後期課程 2 名) の大学院生を派遣し，成果があったとの意見が寄せられた【P70 資料 2-2-5】。

計画 2-7 「教育目標の達成度について，卒業生を対象にした評価方法を検討する。」に係る状況

修了生を対象とした教育目標の達成度に関する評価方法を検討する全学的な体制を整備した【資料 2-7-1】。

平成 19 年度に実施した修了者からの評価では，多くの修了者は「基礎学力」「専門知識や技術」「実践的な能力」等が修得できたと回答している【P84 資料 2-7-2】。

資料 2-7-1 全学教務学生委員会によるアンケート調査内容例

全学教務学生委員会が中心となって，学生が卒業・修了にあたって，福井大学の教育・研究に対してどのような意識や満足感をもっているかを調査し，今後の教育・研究環境の改善のための基礎資料とすることを目的とし，「福井大学の教育・研究に対する意識・満足度調査」を平成 19 年度に実施した。今後も継続的に調査を実施することとしている。

4. 自己分析

あなたは福井大学で学習や研究をすることによって以下に示す力がどの程度身についたと思いますか。

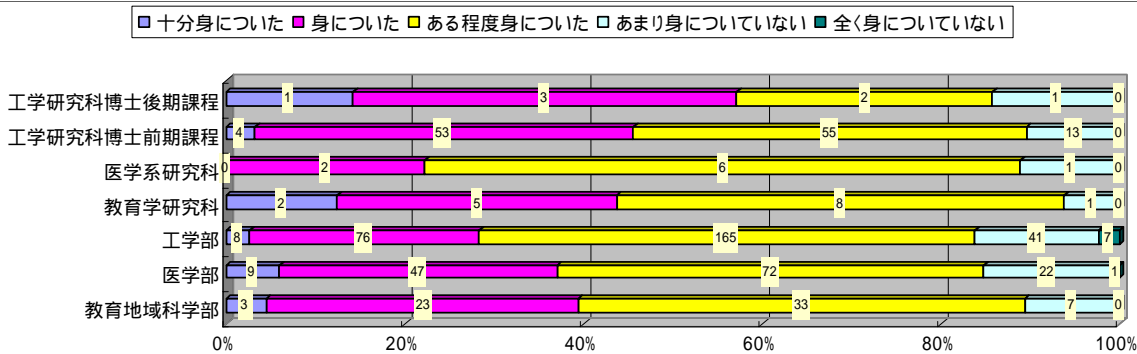
<回答> 5 十分身についた 4 身についた 3 ある程度身についた 2 あまり身につけていない  
1 全く身につけていない

4 - 1 一般常識	5	4	3	2	1
4 - 2 基礎学力	5	4	3	2	1
4 - 3 専門知識や技術	5	4	3	2	1
4 - 4 実践的な能力	5	4	3	2	1
4 - 5 広い視野で物事を多面的に考える力	5	4	3	2	1
4 - 6 論理や証拠を重視し，それらに基づいて考える力	5	4	3	2	1
4 - 7 問題のポイントを素早く押さえ，まとめる力	5	4	3	2	1
4 - 8 想像が豊かで，新しいアイデアや発想を生み出す力	5	4	3	2	1
4 - 9 事実や他者に対する誠実さ	5	4	3	2	1
4 - 10 日常的にコミュニケーションをする力	5	4	3	2	1
4 - 11 外国語でコミュニケーションをする力	5	4	3	2	1
4 - 12 プレゼンテーションをする力	5	4	3	2	1
4 - 13 ディスカッションやディベートをする力	5	4	3	2	1
4 - 14 文章作成や文章表現の力	5	4	3	2	1
4 - 15 情報を収集して適切に利用する力	5	4	3	2	1
4 - 16 情報機器を活用する力	5	4	3	2	1
4 - 17 社会や技術の変化に対応する力	5	4	3	2	1
4 - 18 ねばり強く仕事に取り組む力	5	4	3	2	1
4 - 19 他の学生と協調する力	5	4	3	2	1

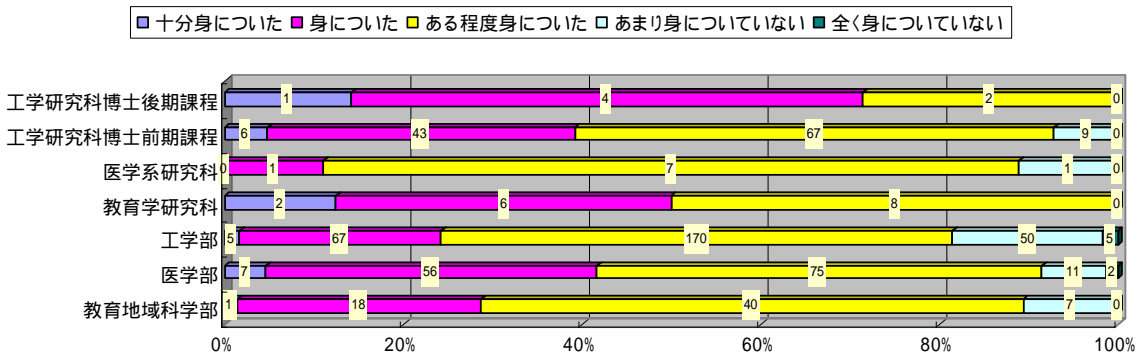
(「福井大学の教育・研究に対する意識・満足度調査」より一部抜粋)

資料 2-7-2 全学教務学生委員会によるアンケート調査例

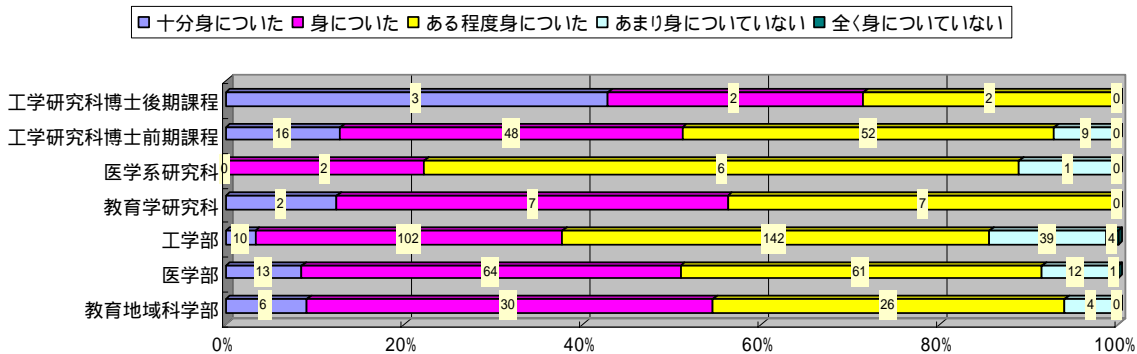
【設問】あなたは福井大学で学習や研究をすることによって一般常識がどの程度身についたと思いますか。



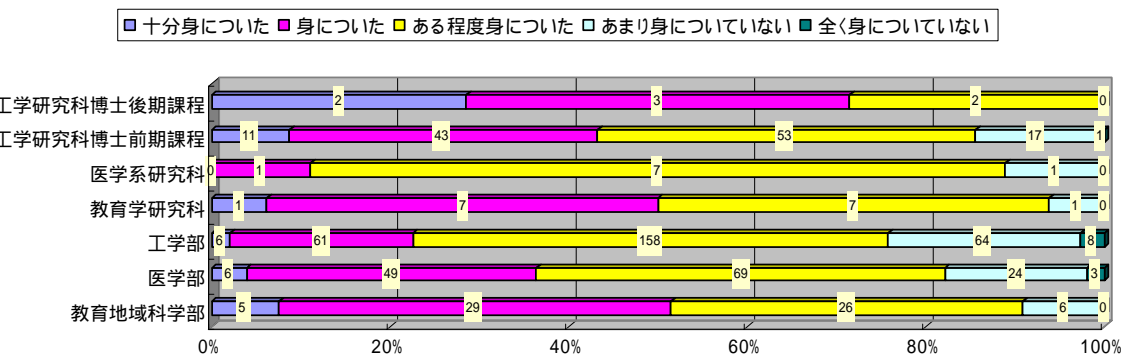
【設問】あなたは福井大学で学習や研究をすることによって基礎学力がどの程度身についたと思いますか。



【設問】あなたは福井大学で学習や研究をすることによって専門知識や技術がどの程度身についたと思いますか。



【設問】あなたは福井大学で学習や研究をすることによって実践的な能力がどの程度身についたと思いますか。



(平成 19 年度福井大学の教育・研究に対する意識・満足度調査)

教育目標の達成度に関する卒業生による評価を聴取するため、各学部では、意見聴取方法を策定・実施した【資料 2-7-3～4】。

資料 2-7-3 卒業生に対する意見聴取の実施状況

	評価項目	評価者	実施状況	評価実施時期
教育地域科学部	学部卒業生・大学院修了者の達成度認識と満足度評価	学部卒業生，大学院修了者	卒業・修了時点における教育地域科学部学生等の達成度の認識と満足度に関する調査	平成 19 年 3 月 27 日卒業式の際
	企業による評価	これまでに卒業生を 2 名以上採用している企業 10 社	採用に際して重要視する能力や資質を評価	平成 19 年度
医学部	卒業生による教育課程評価	医学科・看護学科卒業生	医学科・看護学科教育課程全般に関する評価	随時
	就職先からの卒業生に対する評価	附属病院，関連病院ほか	医学科・看護学科卒業生に関する評価	随時
工学部	卒業生による教育課程評価	卒業（修了）予定者	達成度，満足度評価	平成 19 年度
	就職先からの卒業（修了）生に対する評価	各就職先	教養，国際性，実験・実習などのスキル・遂行能力等に対する評価	平成 15，19 年度
全学教務学生委員会	福井大学の教育・研究に対する意識・満足度調査	卒業（修了）予定者	卒業・修了時点における意識・満足度調査	平成 20 年 2 月

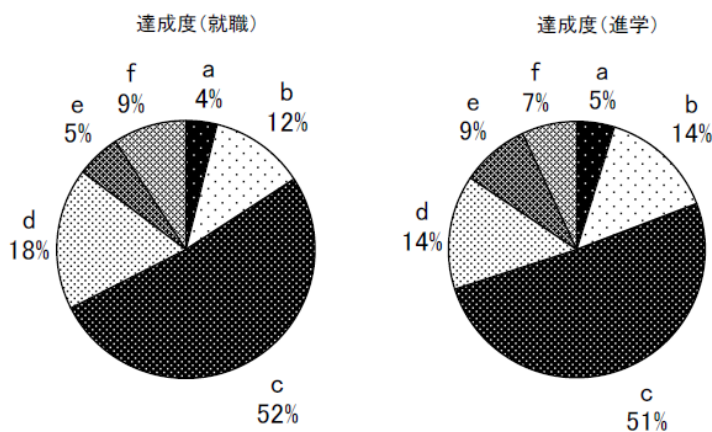
(事務局資料)

資料 2-7-4 教育目標の達成度に対する卒業生の評価結果例（工学部）

アンケート調査は、就職内定者 184 名，進学内定者 187 名を対象に，平成 18 年度に行われた。工学部の教育目標を「ほとんど達成できなかった」と回答した学生は 10%未満で，教育の成果は高い

工学部の教育目標は「高度な専門能力に加えて，想像力・批判力・自己学習力及び伝達力を併せた総合能力，すなわち，人間力を持つ高度専門技術者を育成すること」です。あなたはこれまでの大学教育でどの程度この目標を達成できたと思いますか。

	a	b	c	d	e	f	合計
	充分達成できた	かなり達成できた	少し達成できた	あまり達成できなかった	ほとんど達成できなかった	わからない	
就職	7	22	95	33	10	17	184
進学	9	27	95	27	16	13	187
未定	0	2	12	3	4	2	23
留年	1	0	0	0	0	1	2
合計	17	51	202	63	30	33	396



(平成 18 年工学部及び工学研究科自己点検・評価委員会報告書)

卒業生から教育に関する意見を直接聴取するため、学部ごとにホームカミングデーを毎年実施している【資料 2-7-5】。

資料 2-7-5 ホームカミングデーでの主な意見

- ・ 育児室設置やリハビリ施設の開放について、検討してはどうか。
- ・ 入試関係での「地域枠」について県と検討してはどうか。
- ・ 研究棟の冷暖房（特に国試合格率を上げるための学習時間確保について。土日祝日）の使用について、検討願いたい。
- ・ とても興味深いことばかりでした。病院・大学の繁栄のため、協力していきたいと思います。
- ・ 卒業生と学校側の話し合いも必要と思いますが、卒業生と在学生の話し合いの機会があったらいいと思います。
- ・ 大学と交流を持つ機会があれば、学生と交流を持つ機会が増えると思います。
- ・ 近年、大学内の組織が私達の時代から随分と変わって来たこと。また、福井大学のニュースがマスコミに取り上げられるようになってきた。
- ・ 企業側から見るとどの大学へ行けば企業のニーズがマッチするか分かるようにしてほしい。
- ・ 企業としては、メンタルに弱い学生が多いのでそれを強くすることもブランドになる。また、平成 18 年度から名古屋地区で受験することができることになったことは非常に良いことである。



松岡キャンパス  
ホームカミングデーの懇談風景

(事務局資料)



## b) 「小項目 2」の達成状況

## (達成状況の判断)

目標の達成状況が良好である

## (判断理由)

1. 教育学研究科では、平成 17 年教員養成 G P 「学校を拠点に教員の協働実践力を養う大学院」プログラムの実施や、21 世紀の知識基盤社会に生きる力を培うための専門的力量形成をめざす「教職大学院」の設置や既存の大学院の再編などの取組によって、実社会における実践的能力等の基盤の上に高度な教育資質を持つ人材育成のためのプログラムを充実させた。また教員養成系以外の卒業生を対象に「教育職員免許取得プログラム」を開始した。
2. 医学系研究科博士課程では、高度な研究者育成のため学問的進歩に対応するよう大学院教員組織体制を改組し、新規カリキュラムを編成した。さらに、平成 19 年度がんプロフェッショナル養成プランに採択された「北陸がんプロフェッショナル養成プラン」によって実社会における実践的能力の基盤の上に高度な専門的な知識を持つ医療人育成を推進した。
3. 工学研究科では、平成 18 年度派遣型高度人材育成協同プランに「地域産業との連携による派遣型高度人材育成」及び平成 19 年度大学院教育改革支援プログラムに「学生の個性に応じた総合力を育む大学院教育」がそれぞれ採択された。また、留学生のニーズに対応した国際総合工学特別コースや、博士後期課程に日本人と留学生が共学する国際共学ネットワーク特別コースを設置した。これらの取組みなどによって、地域はもとより国際的活動に貢献できる高度技術者育成のためのプログラムを充実させた。
4. 21 世紀 COE プログラム「生体画像医学の総合研究プログラム」の教育実施プログラムに基づき、適切な学生支援がなされ、さらに十分な研究指導成果があがっている。
5. 大学院課程修了者からの意見聴取結果において、多くの修了者は「基礎学力」「専門的知識や技術」や「実践的な能力」等を習得できたと回答しており、これは本学の人材育成プログラムが十分な成果を上げていることの証左である。

## 中項目 1 の達成状況

## (達成状況の判断)

目標の達成状況が良好である

## (判断理由)

1. 平成 17 年度特色 G P 「より高い現代的な教養教育をめざして」による教養教育、平成 16 年度現代 G P 「医学英語と医学・看護学統合的一貫教育」による実践的語学教育、単位互換制度等による履修科目数の拡充等によって、教育の成果・効果が十分あがっており、教養教育等の充実が一層進展した。
2. 学生ニーズ等に適切に対応できるよう、派遣期間の異なるインターンシップを整備し、広く学生の職業意識を喚起した。その結果、法人化後当該制度の受講者数は

増加し、さらに学生からの評価も良好である。

- 3．学生による授業評価や関係者からの意見聴取等を積極的に実施し、その評価結果はカリキュラムや教育内容・方法の改善に活用され、本学の教育力は向上した。特に、本学卒業生は求められる人材として企業等からの評価は良好であり、これは本学の人材育成が十分成果をあげていることの証左である。
- 4．平成 15 年度特色 G P「地域と協働する実践的教員養成プロジェクト」を基盤とした「探求ネットワーク事業」や「ライフパートナー事業」、平成 17 年度現代 G P「地域教育活動の場の持続的・形成プログラム」や「テュートリアル教育」等によって、本学教育の最重要課題の一つである学生の実践的力量及び探求的課題解決能力形成が促進された。
- 5．大学院課程において、各研究科では G P 等教育支援プログラムの実施や新規の大学院やコース・教育課程の設置等を通して、地域はもとより国際的な活動に貢献できる高い教育的資質を持つ人材及び高度な技術者・研究者を育成する教育プログラムを充実させた。

## 優れた点及び改善を要する点等

### (優れた点)

- 1．平成 17 年度特色 G P に採択された教養教育の取組「より高い現代的な教養教育をめざして」の実施プログラムに基づき、動機付け教育をはじめとする教養教育の一層の充実が図られた。(計画 1-1)
- 2．医学部では平成 16 年度現代 G P に採択された「医学英語と医学・看護学の統合的一貫教育」の実施プログラムに基づき、学生の実践的英語運用能力形成が推進された。(計画 1-3)
- 3．工学部では平成 17 年度現代 G P「地域教育活動の場の持続的・形成プログラム」の実施プログラムに基づき、学生の探究的課題解決能力形成が推進された。(計画 1-5, 2-6)

### (改善を要する点)

なし

### (特色ある点)

- 1．教育地域科学部では平成 15 年度特色 G P「地域と協働する実践的教員養成プロジェクト」を基盤とした「探求ネットワーク事業」や「ライフパートナー事業」に基づき、実践的教員としての力量形成等が推進された。(計画 1-5)
- 2．学生ニーズに合わせ活動期間を選択できる各種インターンシップ制度を整備している。(計画 1-8, 2-8)
- 3．各研究科では採択された G P 等の実施プログラム等によって高度人材育成の推進が期待できる。(計画 2-2~4)